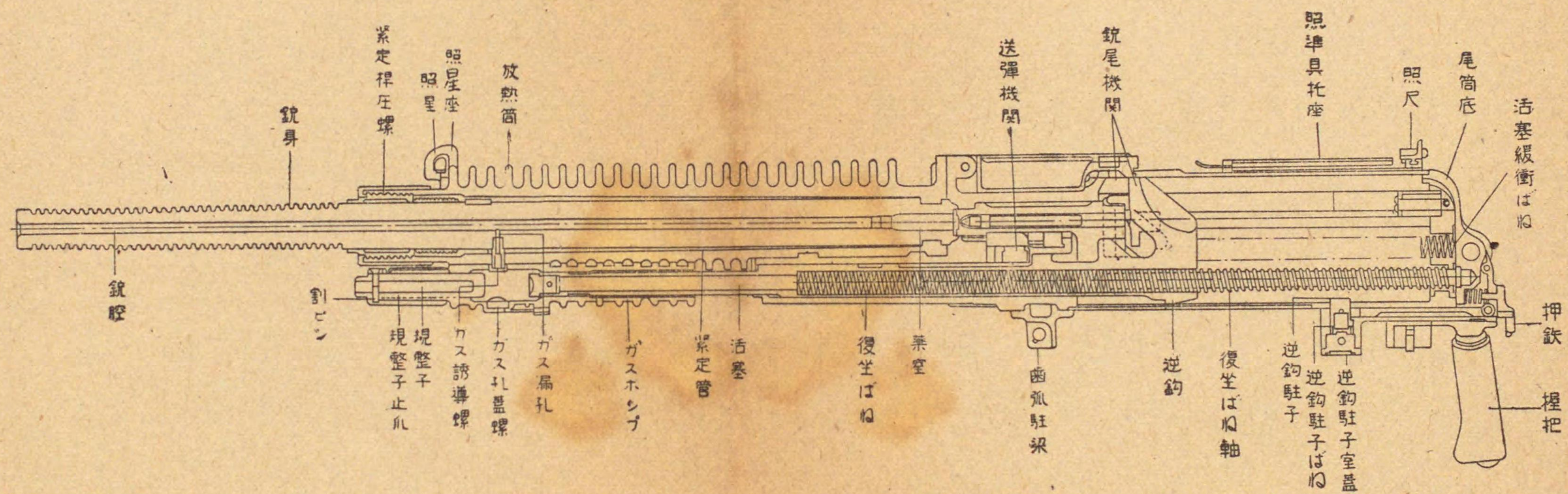
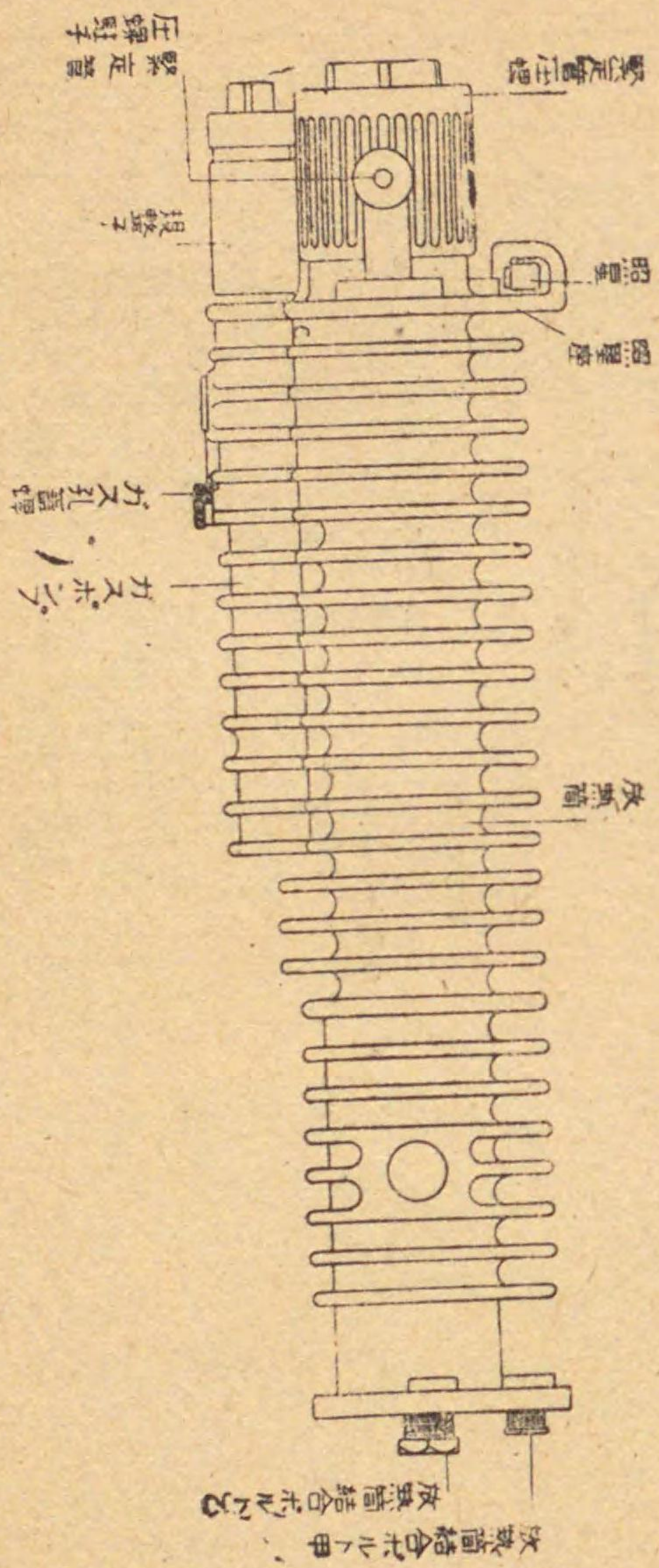


銃 斷 面



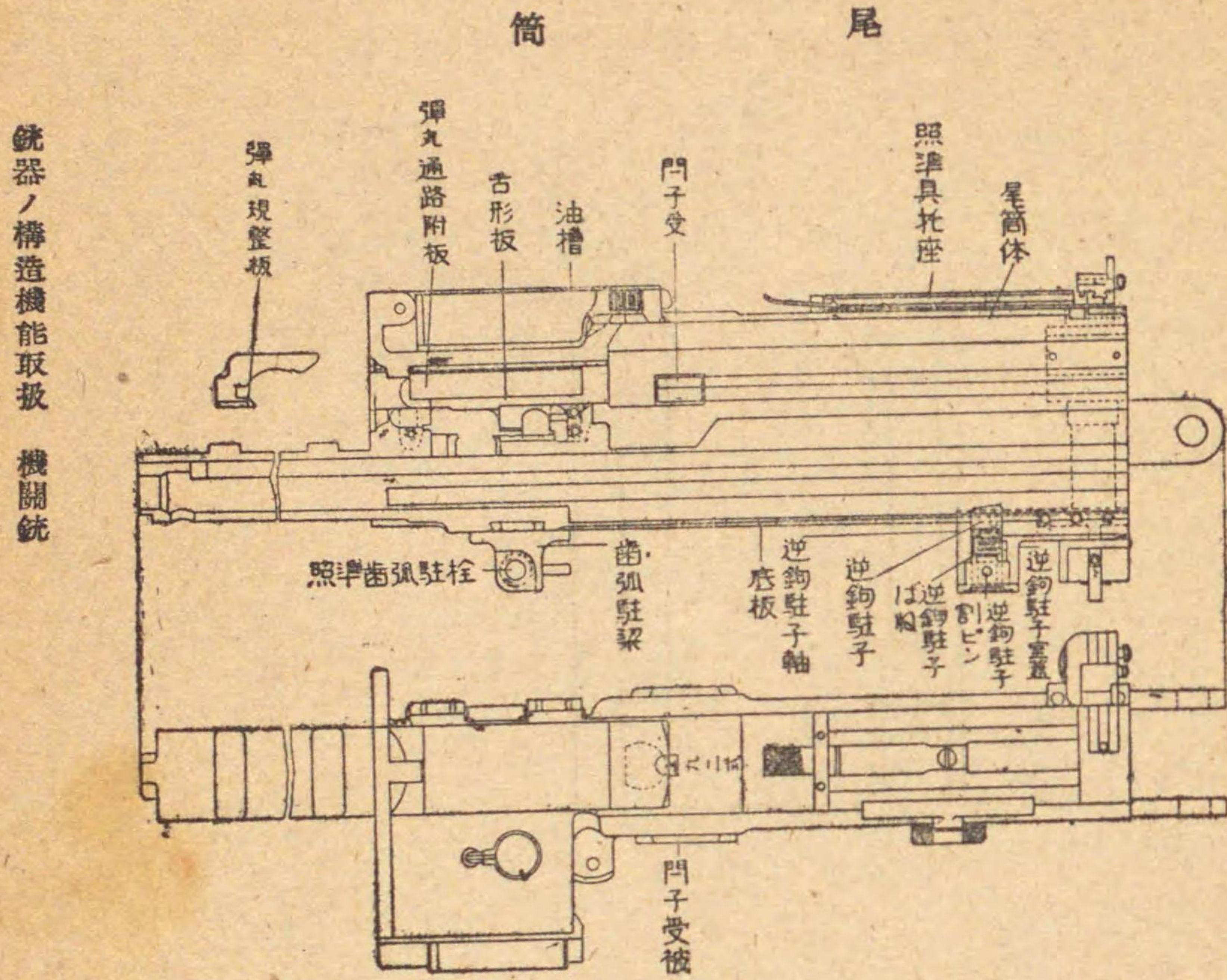
六 放熱筒及附隨品ノ構造

品 隨 附 及 筒 熱 放



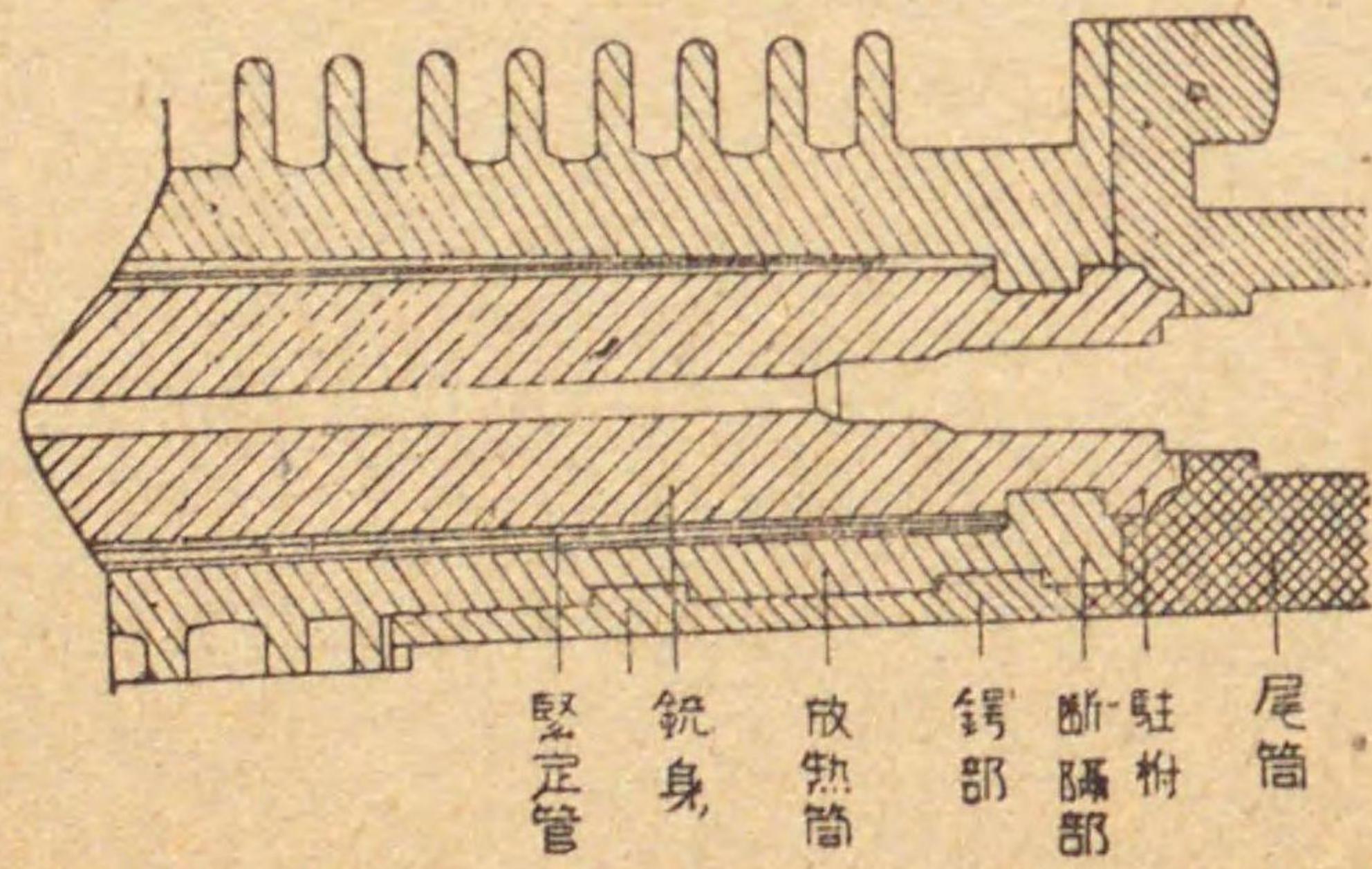
銃器ノ構造機能取扱 機關銃

七 尾筒及附隨品ノ構造

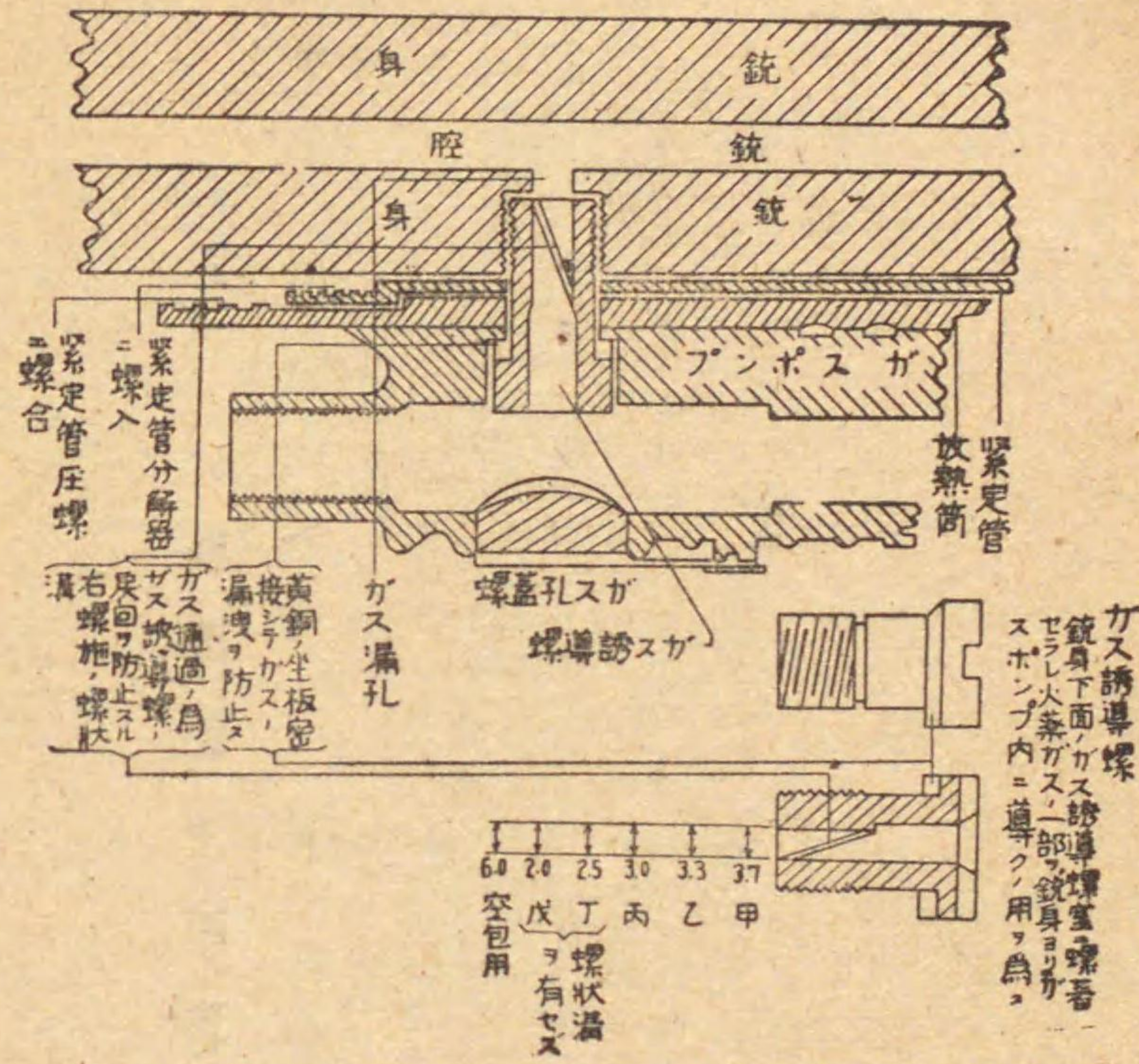


銃器ノ構造機能取扱 機關銃

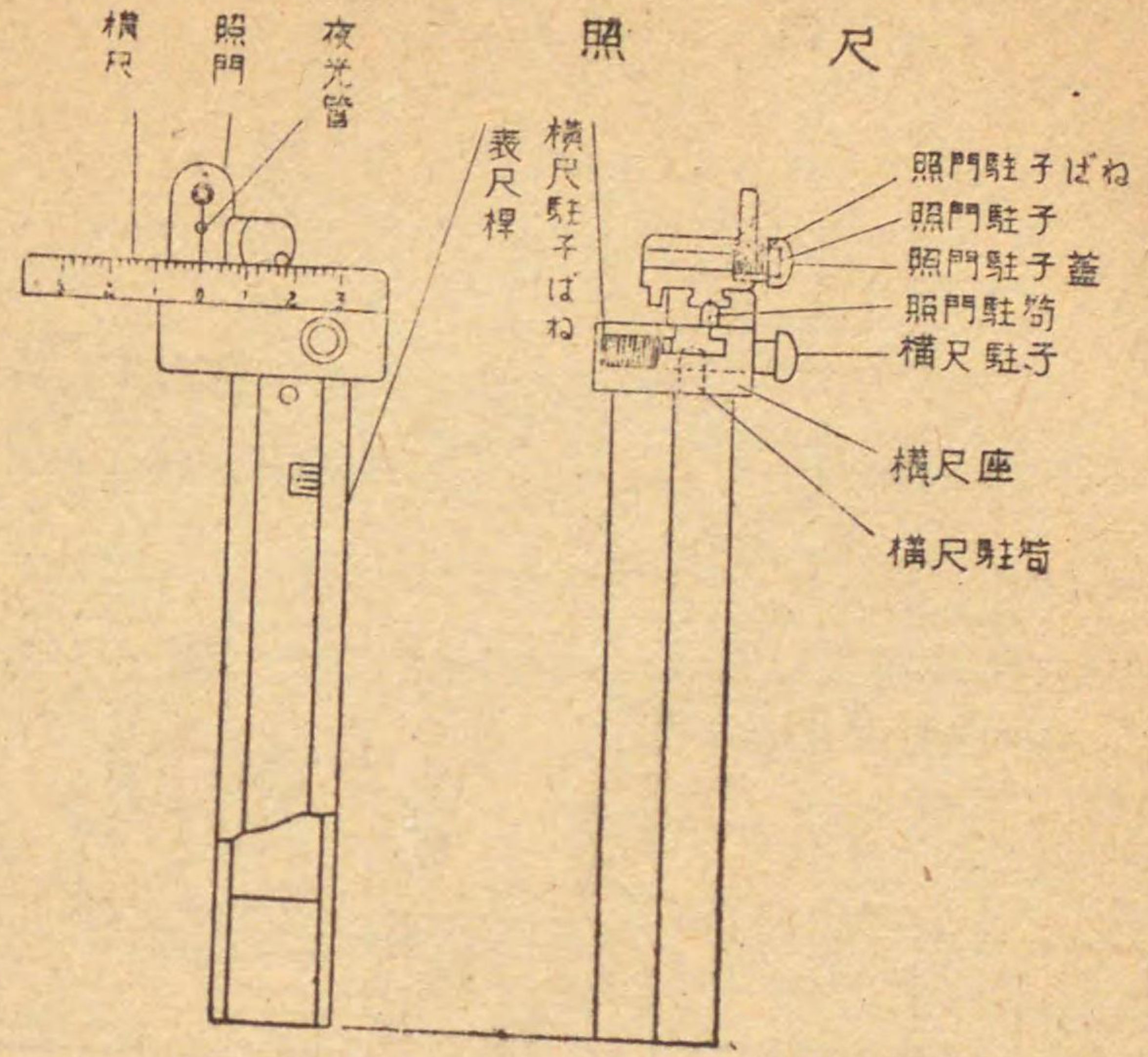
見概結連筒熱放筒尾



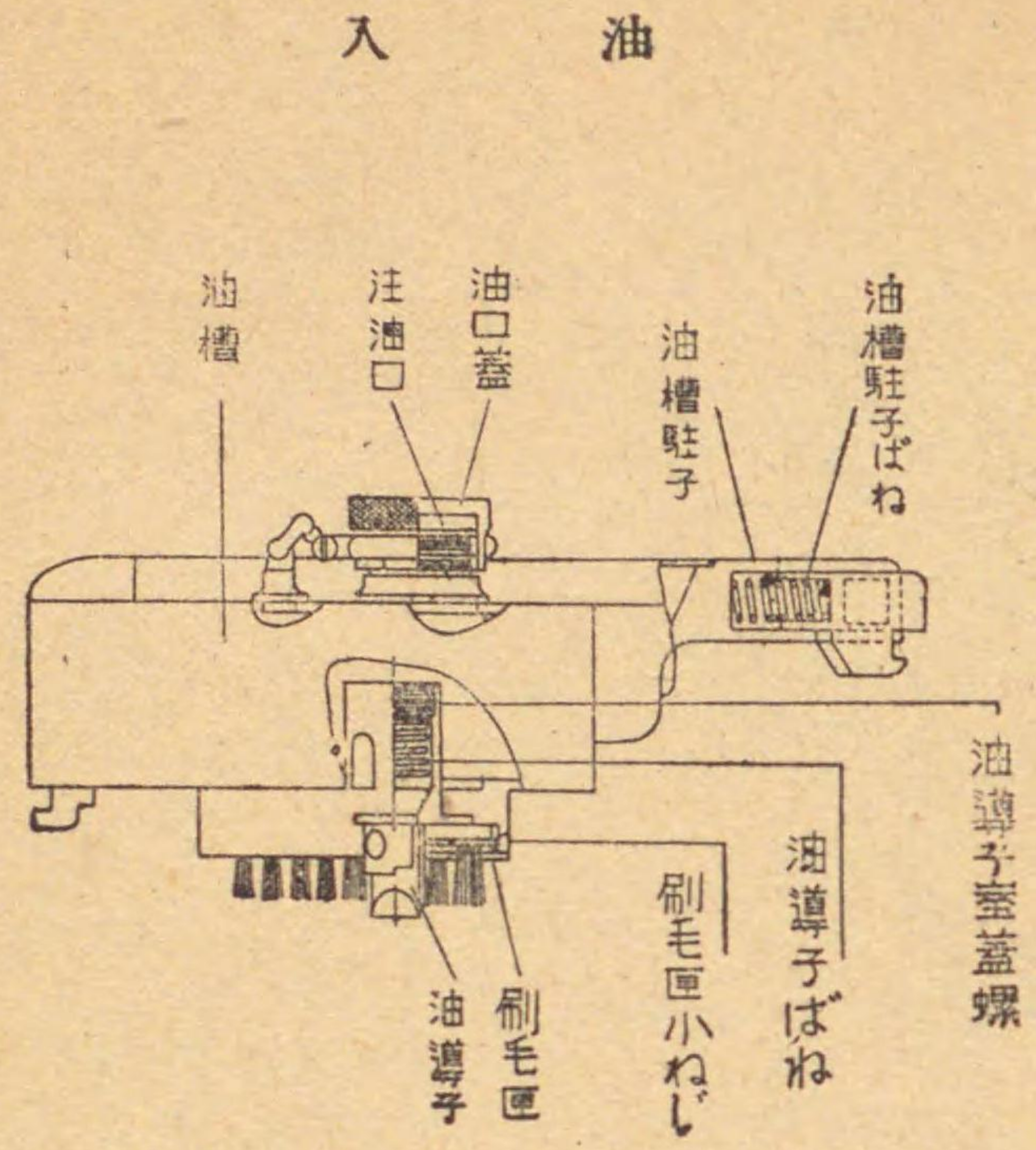
面斷身銃近附孔漏スガ



八 照尺ノ構造

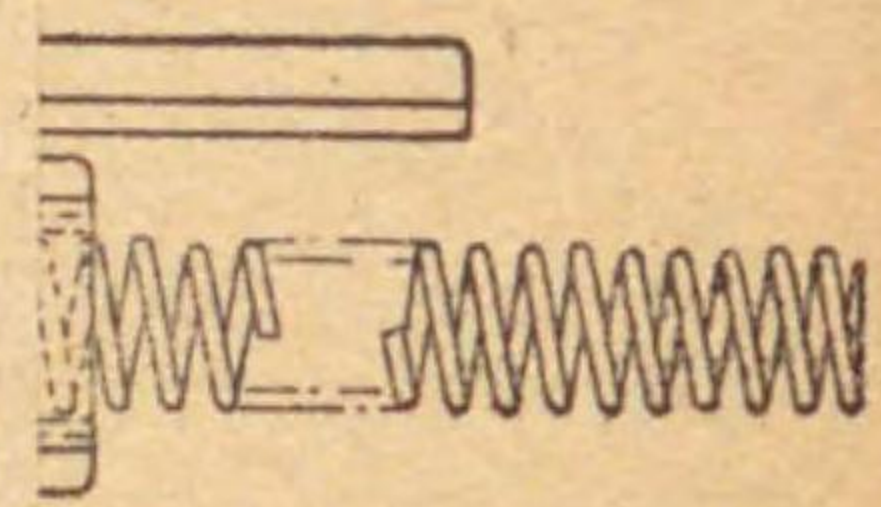
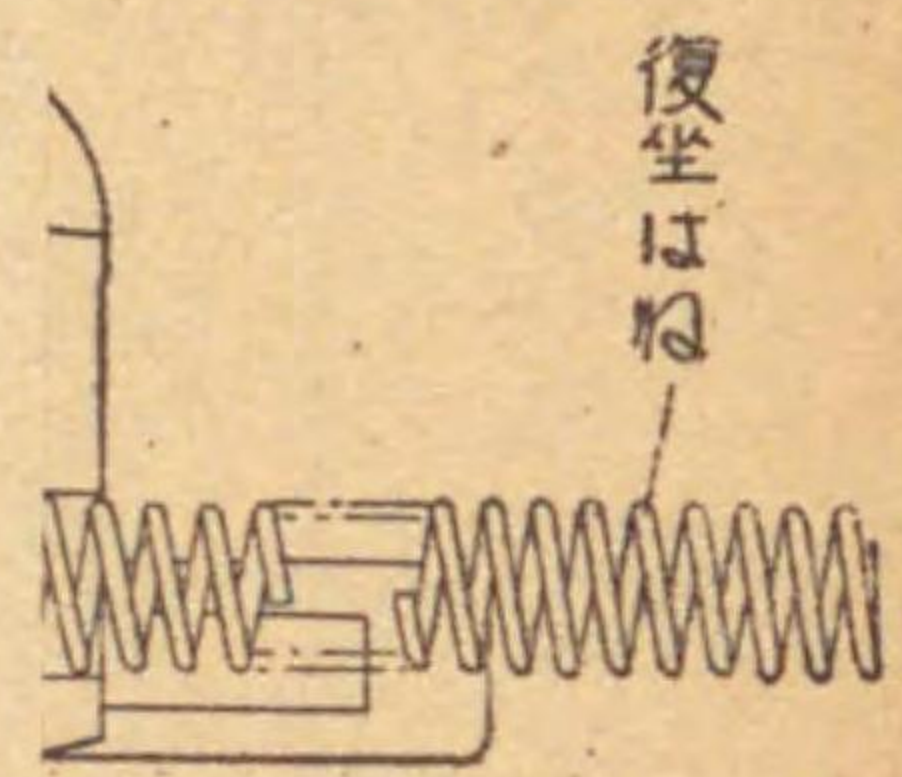


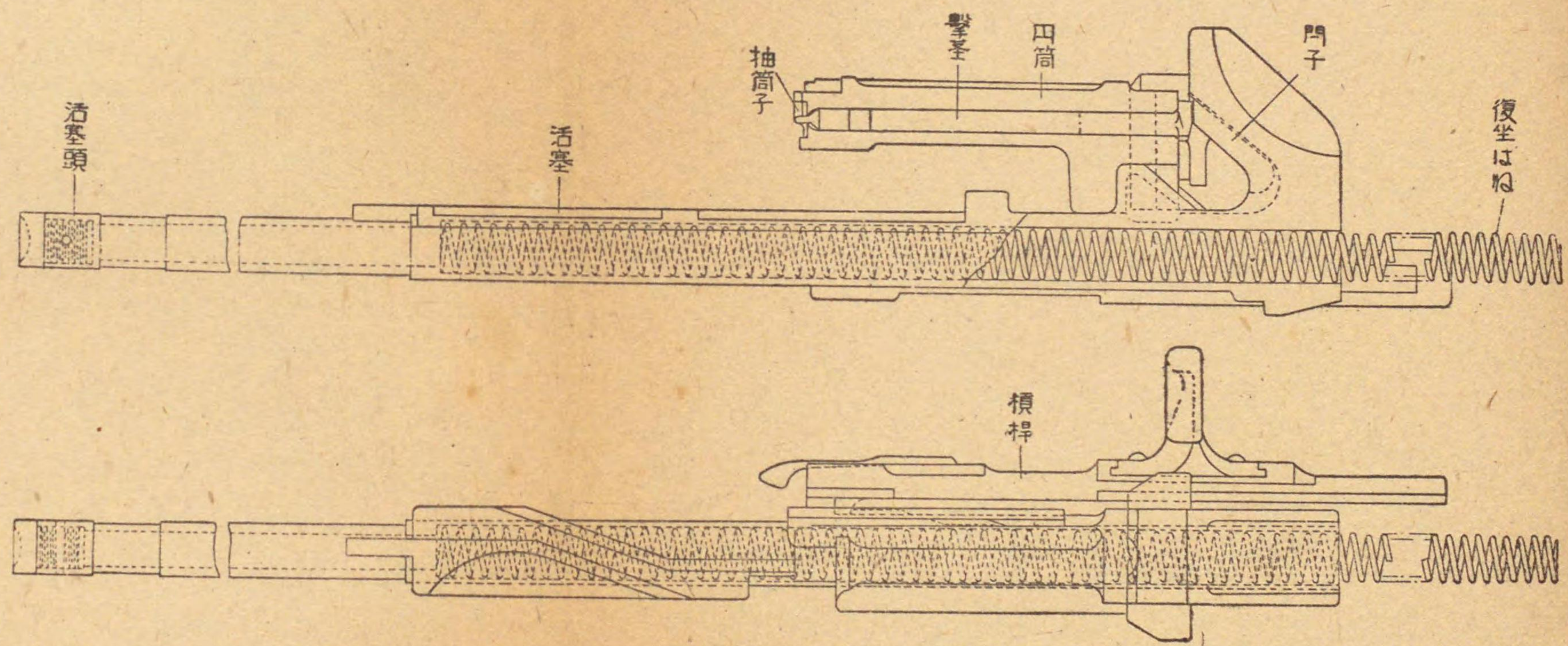
九 油入ノ構造



十 銃尾機關各部品ノ結合狀態

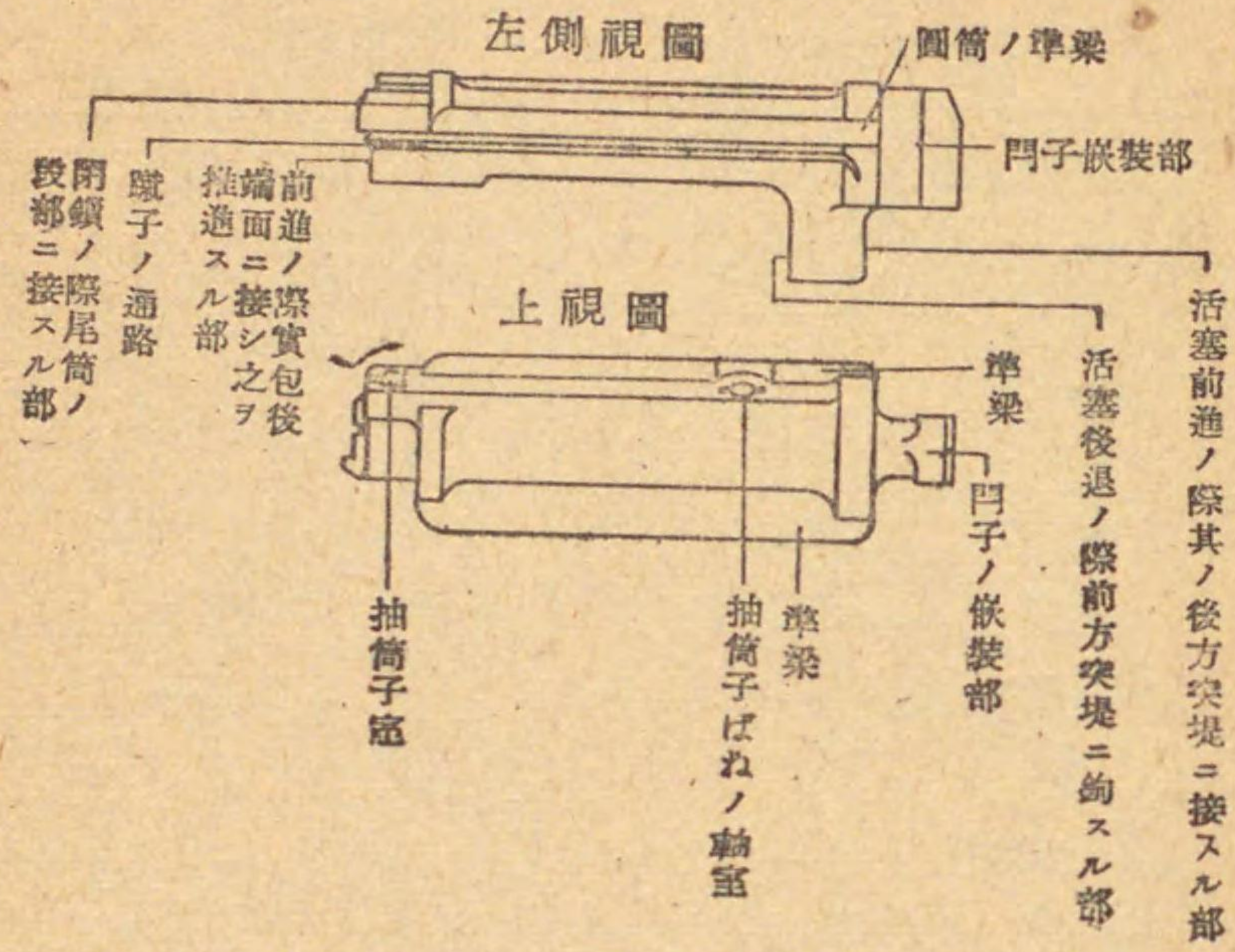
銃器ノ構成機能取扱 機關銃





筒 圖

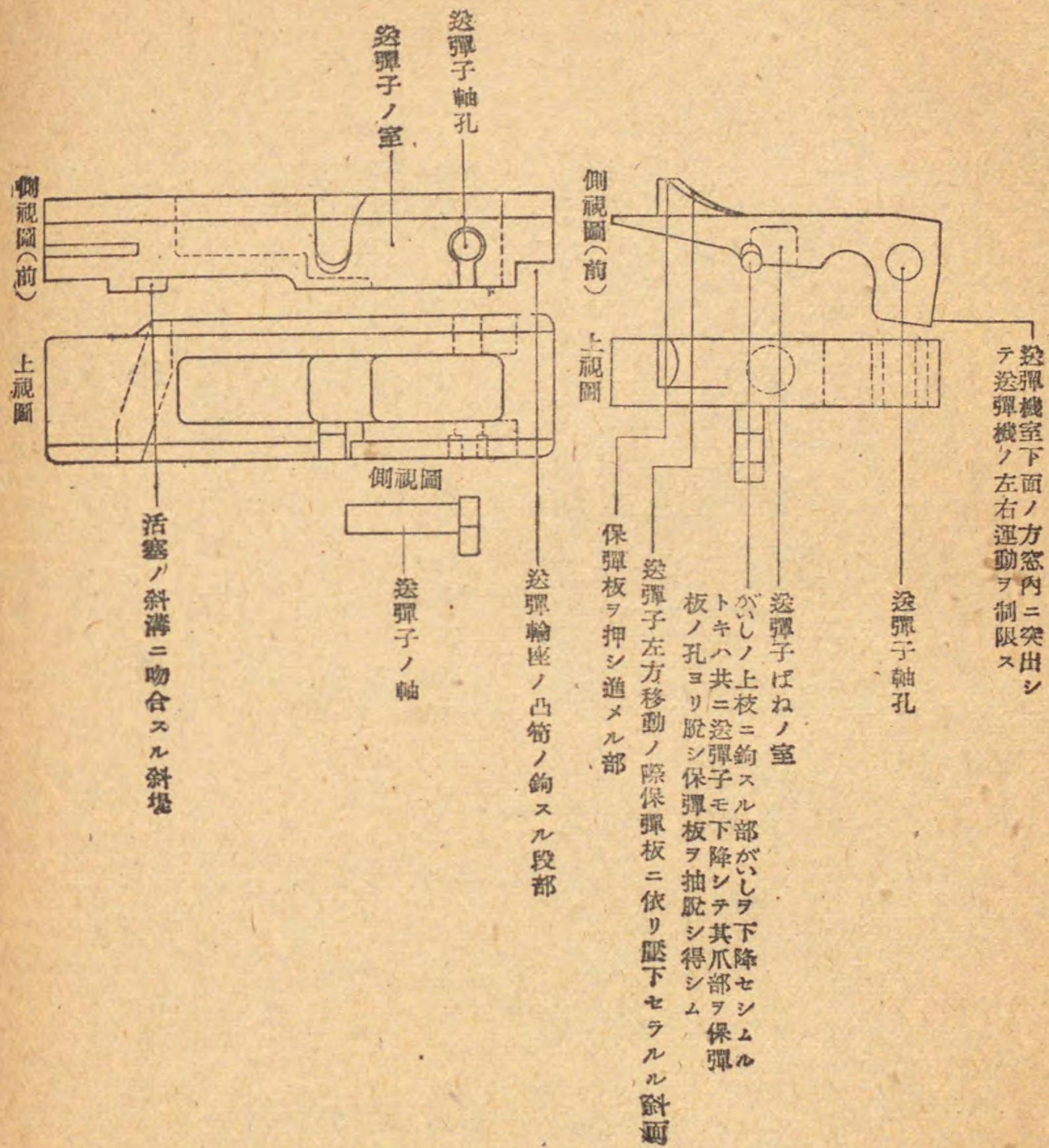
銃身後端ヲ閉塞スル部品ニシテ内部ニ擊莖ヲ容ス



銃器ノ構造機能取扱 機關銃

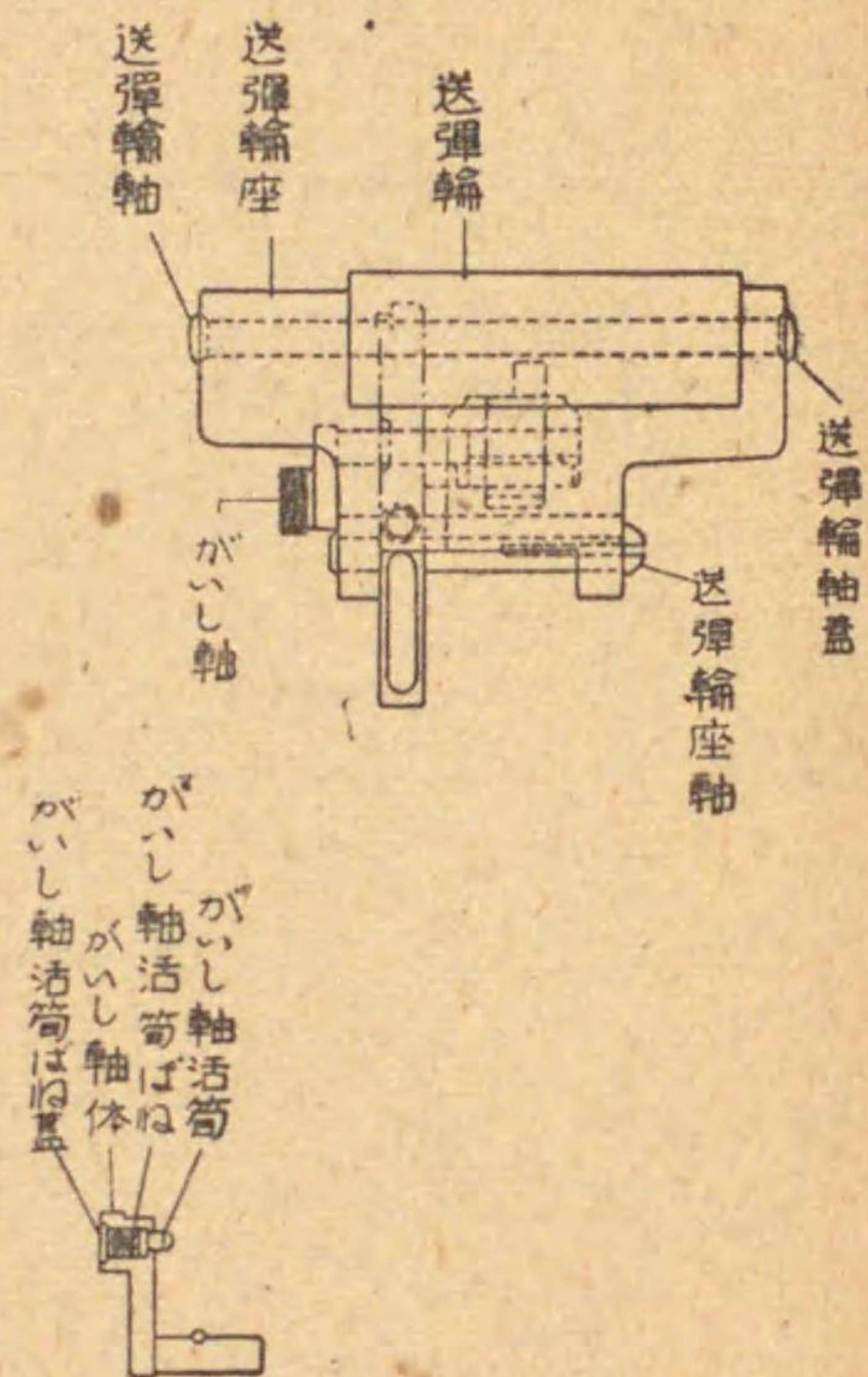
送 彈 子

送 彈 子 座

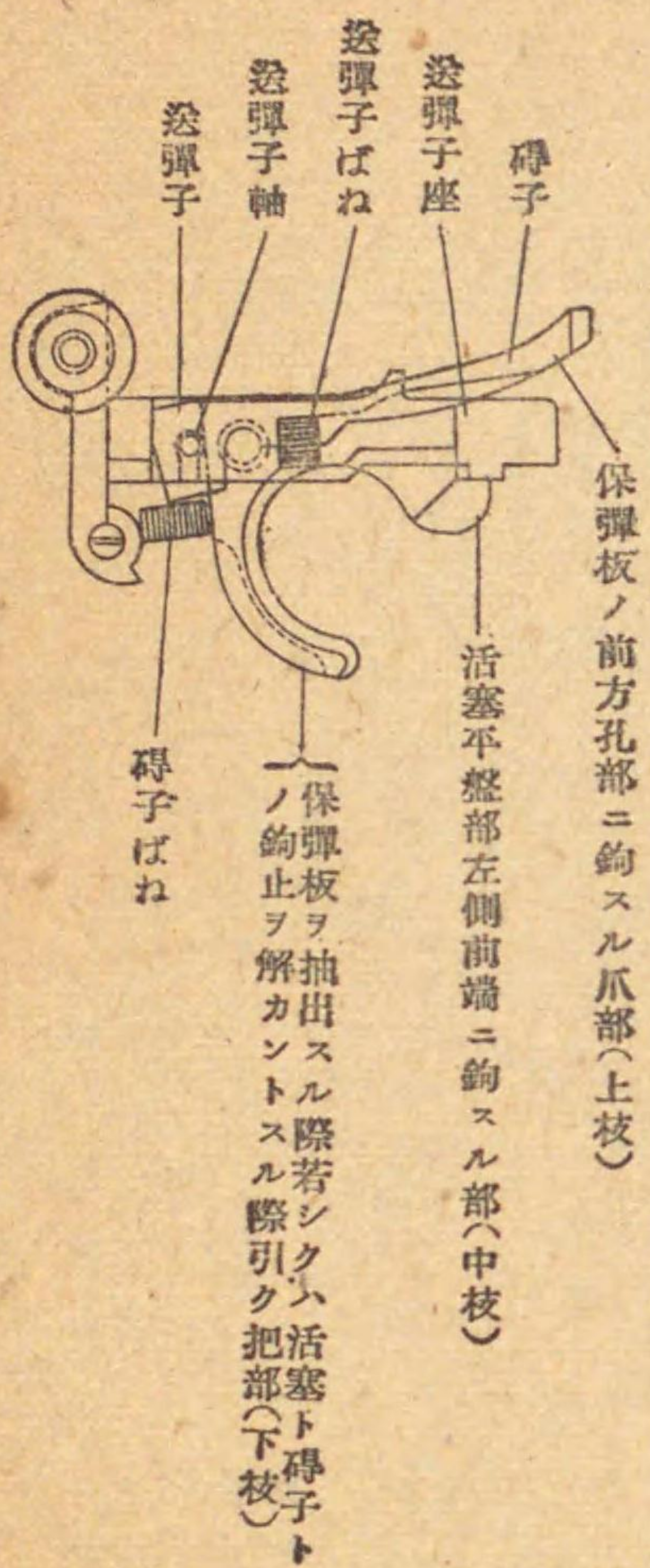


十五 送彈輪、がいしノ構造

送 彈 輪

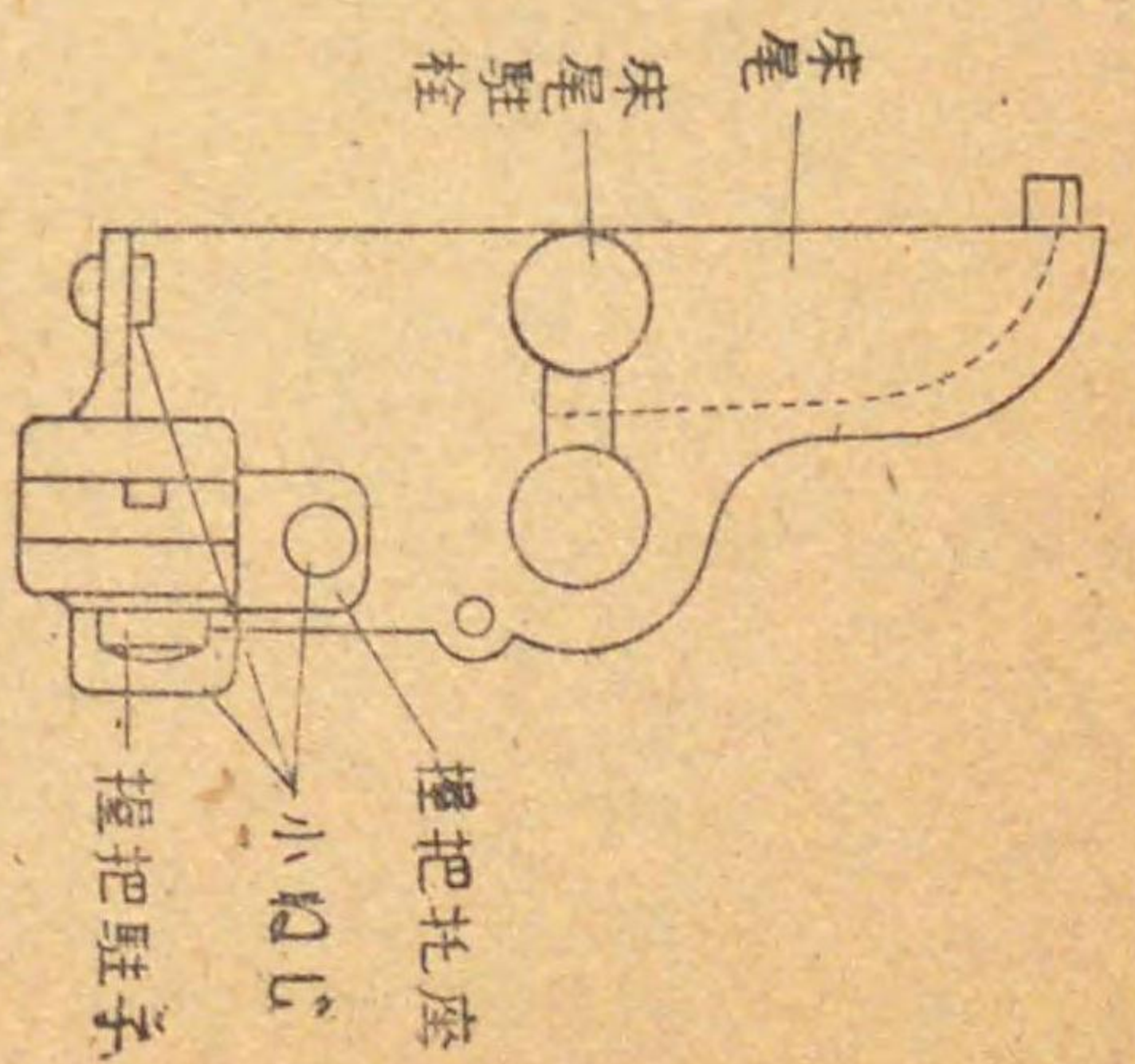
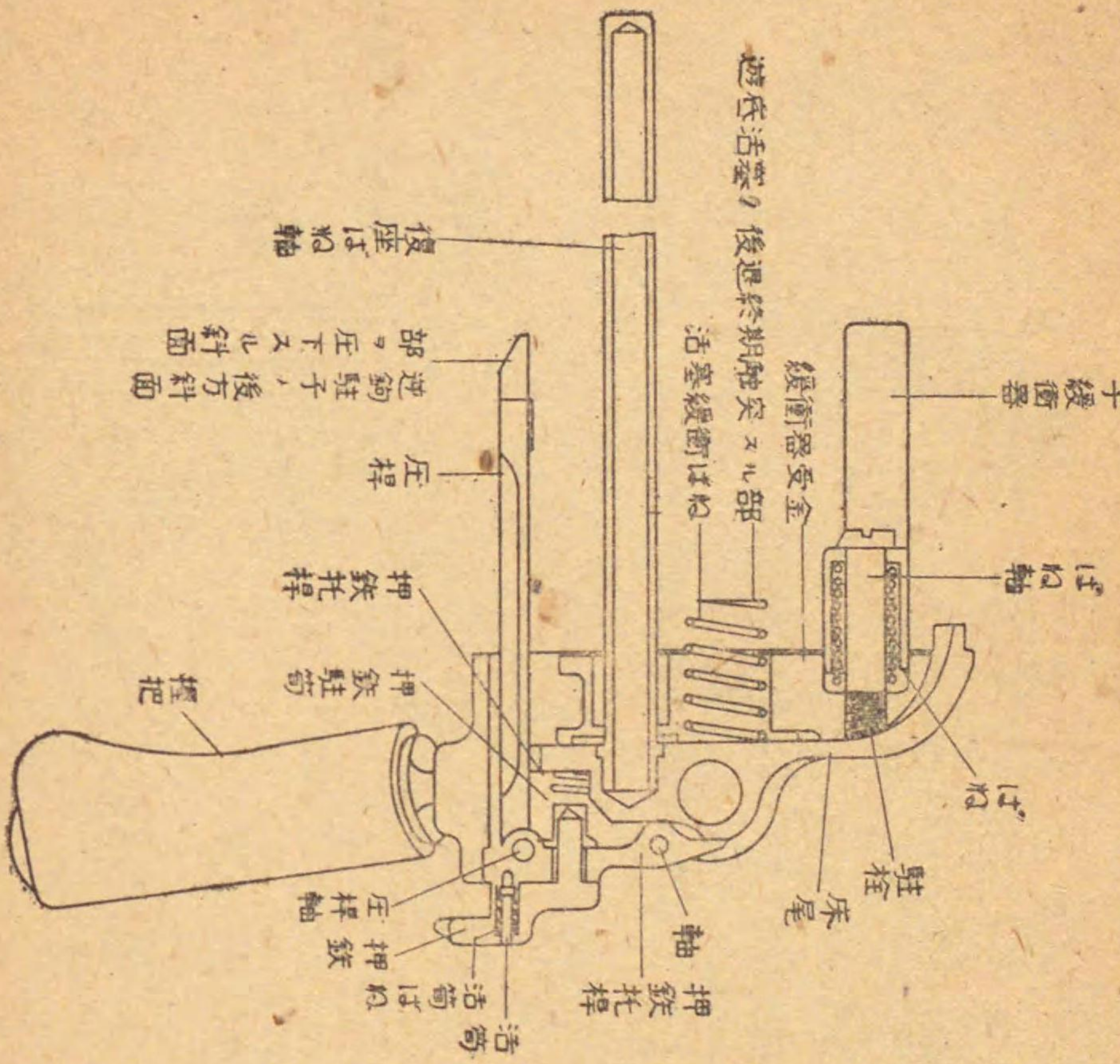


子 碍



十六 尾筒底ノ構造

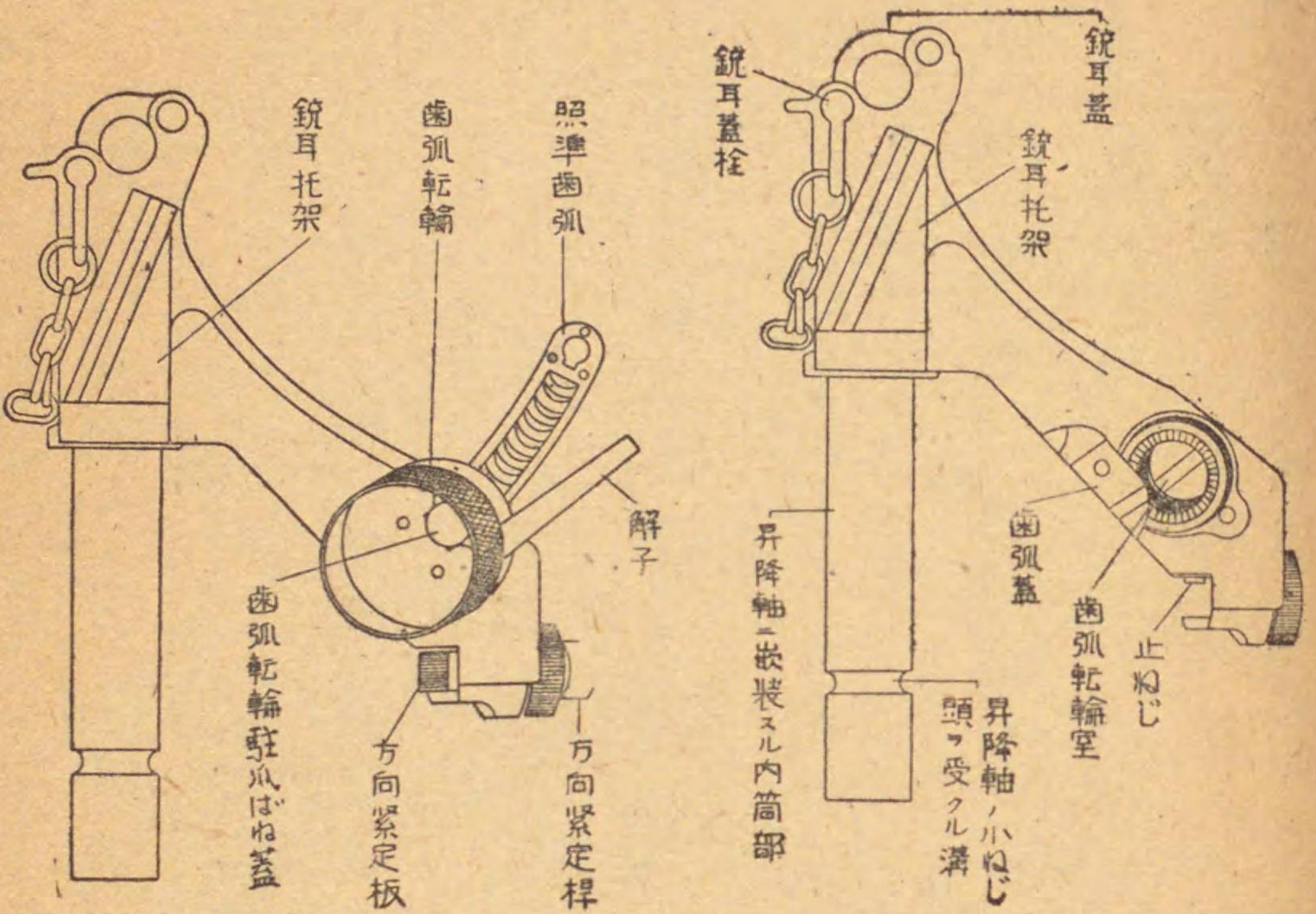
銃器ノ構造機能取扱 機関銃

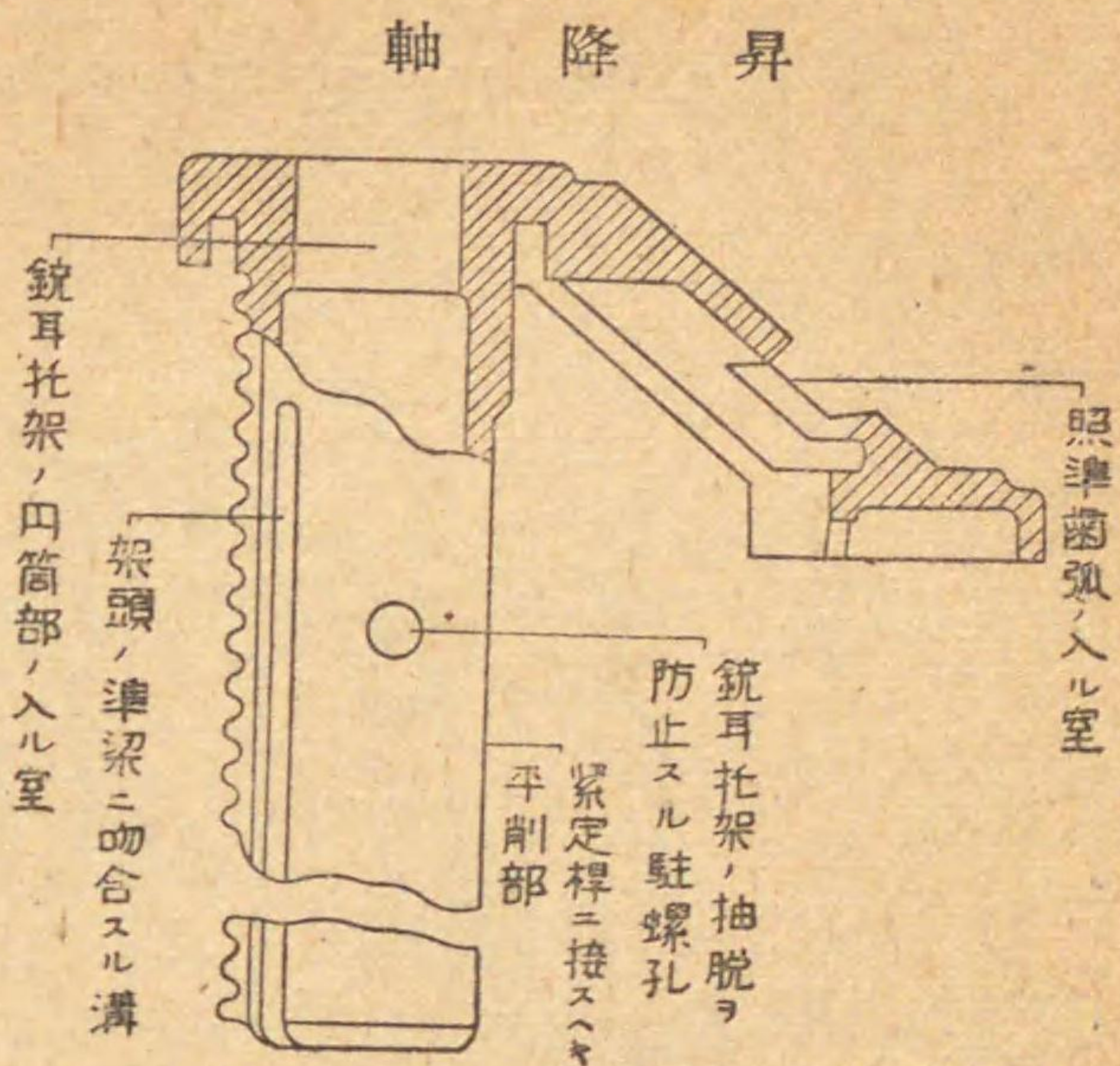


握把駐子
ばねカニヨリ之ヲ壓シ握把
ヲシテ射撃、平常ノ兩姿勢
ヲ取ラシムルノ用ヲナス

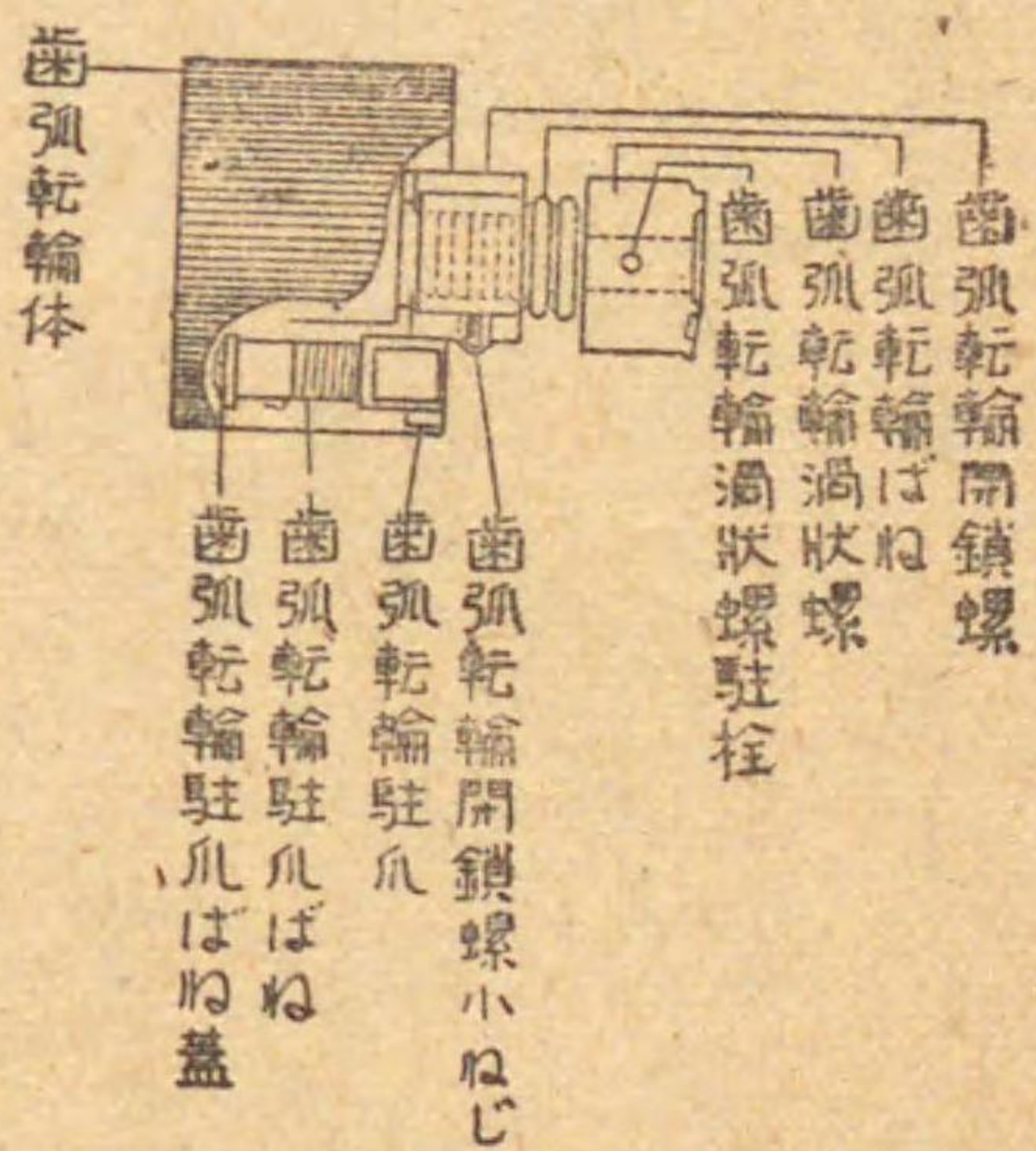
品 隨 附 及 架 托 耳 銃

銃器ノ構造機能取扱 機關銃





齒弧轉輪



第二款 銃尾、機關ノ機能

第二百二十八 銃尾機關ノ機能左ノ如シ

一 射撃前ニ於ケル閉鎖位置

1 槓桿ハ前方ニアリテ蹴出窓蓋ヲ閉鎖ス

2 活塞ハ前方エアリテ遊底ヲ閉鎖ス

3 送彈子座ハ送彈機室ノ左端ニアリテ送彈輪座ヲ閉鎖ス

4 がいしハ其ノ上枝ヲ十分ニ送彈機室内ニ扛起ス

二 遊底ノ開退

1 槓桿ヲ後方ニ強引シ活塞ヲ後退シ遊底ヲ開ク

2 活塞後退ニ伴ヒ蹴出窓蓋、送彈輪ヲ開放ス

3 門子ハ扛起セラレテ閉門ヲ解キ擊莖ヲ後退ス

4 圓筒ハ活塞ニ鉤セラレテ共ニ後退ス

5 活塞後退ノ終期ニ於テ逆鉤止鉤部ハ逆鉤止ヲ通過シ最後ニ活塞平盤部ノ前端ががいしノ中枝ト鉤ス

6 送彈子座ハ活塞ノ後退ニ伴ヒ右方ニ進メラレ彈藥挿入ノ姿勢ヲトル

三 彈藥挿入

1 實包ヲ嵌裝セル保彈板ヲ左方ヨリ十分ニ挿入ス

2 保彈板ノ前進ハがいしノ上枝ヲ壓下シ實包ガ舌形板ニ抱カレテ保彈板ヲ停止ス

3 がいしハ壓下セラレシ爲其ノ中枝ハ活塞ノ鉤止ヲ解キ活塞ハ復座ハね力ニテ前進シ逆鉤止ニ鉤ス

四 發射

1 押鐵ヲ押セバ押鐵壓桿ハ前進シ逆鉤止ヲ壓下シテ活塞ノ鉤止ヲ解ク

2 活塞ハ復座ハね力ニテ遊底ヲ伴ヒ前進シ圓筒ハ頭部ニテ保彈板上ノ一實包ヲ推進シ之ヲ藥室内ニ裝填ス

銃器ノ構造機能取扱 機關銃

- 3 抽筒子ハ實包ノ藥莢起縁部ニ鉤ス
 - 4 門子ハ門子室ニ至リ閉門シ同時ニ擊莖ヲ自由ナラシム
 - 5 活塞ハ尙前進シ隆鼻部ノ前面ニテ擊莖ヲ衝撃シ擊發作用ヲナス
- 五 發射後ノ機能

- 1 彈丸銃身ノ「ガス」漏孔ヲ通過スルヤ火藥「ガス」ノ部ハ「ガスポンプ」内ニ入り活塞頭ニ作用シ活塞ヲ後退ス
- 2 門子ハ活塞ノ後方突堤ニテ扛上セラレ閉門ヲ解キ圓筒ハ前方突堤ニテ後退セシメラル
- 3 抽筒子ハ打殼藥莢ヲ抽出シ圓筒ノ頭部ト共ニ之ヲ保持後退シ藥莢底ヲ蹴子ニ衝突セシメ之ヲ藥莢蹴出窓ヨリ擲出ス
- 4 押鐵ヲ押シアラザルトキハ活塞ハ逆鉤止ニ鉤止シ發射前ノ姿勢トナル
- 5 押鐵ヲ押シアレバ發射、後退、裝填ヲ連續反復ス

六 送彈機能

- 1 遊底ヲ開キ保彈板ヲ挿入スレバ第一ノ實包ハ舌形板ニテ少シク扛起セラレ裝填ヲ容易ニス
- 2 發射ノ爲遊底前進スレバ送彈子座ハ其ノ下面ノ斜堤ガ活塞平盤部ノ斜溝ニ作用シ左方ニ送ラル
- 3 送彈子ハ其ノ頭部ヲ降下シ保彈板ヨリ離レ送彈子座ト共ニ左方ニ送ラル
- 4 がいし上枝ハ保彈板ノ前方ノ孔ニ鉤シ保彈板ヲ其ノ位置ニ駐止ス
- 5 遊底全ク閉鎖セバ送彈子ハ保彈板ノ第二ノ孔ニ鉤ス
- 6 發射後活塞後退セバ送彈子座ハ右方ニ送ラレ送彈子ハ保彈板ヲ進メ第二ノ實包ヲ圓筒前ニ位置セシム

7 爾後前記ノ如ク送彈機ハ各發射毎ニ一發宛實包ヲ右方ニ送ル

第三款 分解及結合

第二百二十九 普通分解及結合

普通分解ト稱スルハ銃ト眼鏡照準具、三脚架ノ離脱竝ニ銃ノ普通分解ヲ謂ヒ其ノ結合ヲ普通結合ト稱ス

本分解ヲ行フニハ銃ヲ略、水平ニシ遊底ヲ閉鎖シ置クヲ要ス

一 銃ト眼鏡照準具トノ離脱裝著

銃ト眼鏡照準具トノ裝著離脱スルニハ先ヅ横尺ヲ最右端ニ移シタル後左ノ方法ニ依ル

- 1 眼鏡照準具ヲ機關銃ニ裝著スルニハ左手拇指ヲ銃ノ照準具托座ノ止金ニ他ノ四指ヲ尾筒下面ニ當テ止金ヲ壓下シ右手ヲ以テ眼鏡照準具ノ眼鏡托座ノ後方ヲ右側ヨリ確實ニ握リ餘、ニ前方ニ押シ進メ眼鏡托座ノ燕尾梁ヲ半分以上吻合セシメタル後眼鏡托架基部後面ヲ更ニ押シ進メ激突セシムルコトナク十分前方ニ壓著シ次デ手ヲ放チタル後止金ノ爪部ガ鉤シタルコトヲ確メタル後照準具托座ノ押ねじ緊定ス
- 2 眼鏡照準具ヲ機關銃ヨリ離脱スルニハ銃ノ左側(又ハ後方)ニ位置シ照準具托座ノ押ねじヲ弛メ右手拇指ヲ眼鏡托架基部後面ニ他ノ四指ヲ托座軸筒前面ニ當テ確實ニ握リ左手ヲ以テ止金ヲ壓下シ約一糎後退セシメタル後左手ヲ眼鏡托座下面ニ添へ兩手ニテ確實ニ握リ離脱ス此ノ際眼鏡體ヲ支持セザル様注意スルヲ要ス

二 銃ト三脚架トノ離脱裝載

銃ヲ三脚架ヨリ離脱スルニハ左ノ方法ニ依ル

銃器ノ構造機能取扱 機關銃

但豫メ架頭ノ緊定桿及解子ヲ緊定ノ位置ニ在ラシムルヲ要ス

1 銃耳蓋止栓ヲ抽出シ蓋ヲ前方ニ開ク

2 照準齒弧止栓ノ摘部ヲ後方ニシ限界マデ之ヲ抽出シテ照準齒弧ト齒弧駐梁トノ連結ヲ解ク

3 銃ヲ前上方ニ離脱ス

三 銃ノ普通分解及結合

1 銃ノ普通分解ニ於テ分解スベキ部品及其ノ順序左ノ如シ

イ 尾筒底及復座ばね

ロ 活塞及遊底

ハ 槓 桿

ニ 裝彈輪座、がいし、送彈子、送彈子座

ホ 規 整 子

ヘ 消 焰 器

但(ホ)ハ此ノ順序ニ依ラザルコトヲ得

2 尾筒底及復座ばねヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

イ 兩手ノ拇指ヲ以テ握リ止ヲ前方ニ壓シ他指ヲ以テ握リ下方ニ旋回シテ射擊位置トナス

ロ 右手ヲ以テ握リ握リ同拇指ヲ床尾後面ニ當テテ前方ニ壓シツツ左方ヲ以テ床尾栓ノ活筒ヲ外方ニ引キツツ下方次ニ後方ニ駐止スル迄旋回シテ之ヲ左方ニ脱シ右手ヲ以テ尾筒底ヲ後方ニ抽出ス

ハ 復座ばねヲばね軸ヨリ脱ス

ニ 緩衝器ノ尾筒底及ばね軸ヨリ抽出ス

尾筒底ヲ結合スルニ方リテハ押鐵壓桿ヲ正シク尾筒ノ其ノ室ニ裝入シ又床尾栓ヲ結合シ終ルマデ尾筒底ヲ十分前方ニ壓著シアルコトニ注意スベシ

3 活塞及遊底ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

イ 左手ヲ尾筒後端ニアテ右手ヲ以テ槓桿ヲ十分後方ニ引キ之ヲ前方ニ返シタル後左手ヲ以テ活塞ヲ後方ニ引キ右手ヲ添ヘテ遊底、活塞ヲ抽出ス

ロ 擊莖ヲ圓筒内ヨリ抽出シ門子ヲ離脱ス

ハ 抽筒子ばねノ頭部ヲ萬能鉗ニテ扛起シ直角ニ旋回シテ之ヲ離脱シ抽筒子ヲ其ノ室ヨリ抽脱ス

活塞及遊底ノ結合ニ方リテハ送彈子座ヲ右方ニ置キテ又門子ハ扛上ノ位置ニ於テ尾筒ノ準溝ニ裝入シがいしヲ引キ活塞ヲ前進セシムベシ

4 槓桿ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

イ 槓桿ヲ十分後方ニ引キ右方ニ脱ス

ロ 槓桿ばねノ爪部ヲ外方ニ壓シツツ直角ニ旋回シ之ヲ槓桿ヨリ離脱ス

5 送彈輪座、がいし、送彈子及送彈子座ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

イ 送彈輪座軸ヲ抽脱シ送彈輪座ヲ送彈輪ト共ニ尾筒ヨリ離脱ス

ロ がいし軸ノ摘ヲ下方ニ直角ニ旋回シ之ヲ前方ニ脱出シテがいしヲ下方ニ離脱ス

銃器ノ構成機能取扱 機關銃

ハ 送彈子座ノ上面ノ刻線ヲ其ノ室ノ刻線ト一致セシメ後方ヨリ轉桿ノ「ピン」部ヲ挿入シ送彈子軸ヲ抽脱シ送彈機ヲ左方ニ抽脱ス此ノ際油槽ヲ扛起シ置クヲ便トス

6 規整子ヲ離脱スルニハ規整子套ヲ戻回シ規整子ト共ニ前方ニ離脱ス要スレバ規整子「ガス」誘導ねじ「スパナ」ヲ使用スベシ又其ノ裝著ニ方リテハ其ノ支爪ヲ「ガス」ポンプノ縱溝ニ嵌合シ置クコトニ注意スベシ

7 消焰器ヲ離脱スルニハ體(左ねじ)ヲ螺脱シ次ニ結合螺ヲ離脱ス

第三百十 特別分解及結合

一 特別分解ハ射撃後ノ手入、修理若クハ必要アル場合ニ行フモノニシテ分解シ得ル部品左ノ如シ

- 1 銃身
- 2 逆鉤止
- 3 蹴子
- 4 規整子
- 5 押鐵
- 6 油入
- 7 握り止、握り
- 8 緩衝器
- 9 門子受被及門子受
- 10 照尺及照尺座

11 照準具止金、照準具抑ねじ、照準壓板、抑ねじ

12 三脚架

但シ1項乃至6項ハ射撃若ハ手入ノ際特ニ必要アリタルトキ幹部監督ノ下ニ之ヲ實施シテ7項乃至12項ハ修理ノ際將校監督ノ下ニ之ヲ實施スルコトヲ得

二 銃身ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

但シ豫メ活塞ヲ後退或ハ離脱シ規整子ヲ離脱スルカ若クハ十分畫以內ニ螺入シ置クベシ

- 1 「ガス」孔蓋ねじノ把部ヲ僅ニ引キ下ゲツツ之ヲ戻脱ス
- 2 規整子「ガス」誘導ねじ「スパナ」ヲ「ガス」誘導ねじニ嵌合シ轉桿ヲ使用シテ「スパナ」ヲ旋回シ誘導ねじヲ螺脱シ下方ニ抽出ス
- 3 抑ねじ止ノ頭ヲ外方ニ引キ之ヲ旋回シテ抑ねじ止ト緊定管抑ねじノ嵌合ヲ解キ緊定管抑ねじ分解器ヲ緊定管分解器ニ嵌装シ之ヲ緊定管抑ねじニ冠シテ抑ねじヲ螺脱ス
- 4 緊定管分解器ヲ放熱筒前端ヨリ挿入シ分解器ノ鏢部ガ放熱筒前端面ニ接スルマデ螺入ス尙更ニ分解器ヲ旋回スルトキハ緊定管ハ緊著ヲ緩メツツ呼ビ出サル此ノ旋回四、五回ニ及ベバ分解器ト共ニ緊定管ヲ僅カニ抽出シ分解器ヲ螺脱ス然ル後銃尾ノ方ニ向ヒ兩手ヲ以テ銃身ヲ握リ之ヲ左ニ九〇度旋回シ銃身及緊定管ヲ共ニ銃口ノ方ニ抽出ス若シ銃身ノ旋回困難ナルトキハ緊定管ヲ更ニ稍、前方ニ抽出シタル後分解器ヲ螺脱シ分解器ノ一端ノ圓孔部ヲ銃口部外周ニ裝シ徐々ニ旋回スベシ
- 5 銃身ノ結合ニ際シテハ左ノ件ニ注意スベシ

銃器ノ構成機能取扱 機關銃

イ 銃身ハ先ヅ緊定管ノ縦割部カ銃身準梁ニ嵌入スル如ク緊定管ヲ結合シタル後銃身準梁ヲ左側ニ位置スル如ク持テ銃身駐柙ヲ放熱筒ノ駐柙室ニ向ハシメ同部ノ切目一致セバ徐々ニ挿入シ十分吻合シタル後之ヲ右ニ旋回シ安定セシムベシ之ニ依リ銃身駐柙竝ニ駐柙室段部ノ磨滅又ハ缺損ヲ防止スルモノトス緊定管ハ十分壓入スルモノトス

ロ 緊定抑ねじノ螺入程度ハ緊定管ノ十分ニ緊著スルヲ度トス而シテ銃毎ニ放熱筒前表面上面ノ分畫ヲ以テ其ノ螺入度ヲ概定シ置クヲ可トス

ハ 「ガス」誘導ねじヲ結合スルニハ先ヅ分解器上ニ誘導ねじヲ載セ下方ヨリ挿入螺著シ且其ノ頭部座金ヲ十分ニ「ガス」ポンプ内面ニ密著セシムベシ

三 逆鉤止ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル但シ豫メ尾筒底ヲ離脱シ置クベシ

逆鉤止室蓋割「ピン」ヲ抽脱シ蓋ヲ下方ニ脱スルト共ニ逆鉤止ばね及逆鉤止ヲ下方ニ離脱ス

四 蹴子ハ蹴子室蓋割「ピン」ヲ離脱シ蹴子室蓋ヲ脱シタル後蹴子ヲ蹴子はねト共ニ離脱ス此ノ際尾筒内面ヨリ萬能鉋ノねじ回部ヲ以テ左方ニ押出ス

五 規整子ヲ分解スルニハ先ヅ其ノ割「ピン」ヲ抽脱シ支爪ノ爪部端ヲ其ノ長軸方向ニ輕打シツツ之ヲ離脱シ次ニ筒ヲ螺脱ス

六 押鐵ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

- 1 托桿軸ヲ抽脱シテ押鐵ヲ後方ニ少シク抽出シ托桿駐筒、托桿ばねヲ離脱ス
- 2 體ヲ右九〇度旋回シテ托桿ヨリ抽脱シ次ニ駐筒ばねヲ抽出ス

3 壓桿軸ヲ抽出シテ壓桿ヲ床尾ノ前方ヨリ離脱ス

七 油入ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

- 1 油入軸ヲ戻回シ其ノ螺出セルニ及ベバ之ヲ抽脱シ油入ヲ尾筒ヨリ離脱ス
- 2 刷毛匣小ねじヲ螺脱シ塗油ばけヲ離脱ス
- 3 油導子小ねじヲ螺脱シ油導子ヲ離脱ス次ニばね蓋ねじヲ螺脱シばね體ヲ抽出ス
- 4 油槽止小ねじヲ螺脱シ油槽止體ヲばねト共ニ離脱ス
- 八 握り止及握りヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

- 1 握り止蓋栓ヲ抽脱シ蓋ヲ螺脱シ次ニ握り止體、ばねヲ床尾前方ヨリ抽脱ス
- 2 握り軸「ナット」ヲ戻回シテ握りヲ床尾ヨリ離脱ス
- 3 握り小ねじヲ螺脱シタル後止ねじヲ戻回螺脱シ握り軸ヨリ握りヲ抽脱ス

九 緩衝器ノ分解ハ左ノ順序方法ニ依ル

- 1 門子緩衝器止栓ヲ抽脱ス
- 2 門子緩衝器ばね軸ヲ戻回シ門子緩衝器及ばねヲ共ニ離脱ス
- 3 活塞緩衝ばねノ小ねじヲばねトノ吻鉤ヲ解クマデ戻回シタル後同ばねヲ離脱ス

十 門子受被及門子受ノ分解ハ左ノ順序方法ニ依ル

- 1 活塞及遊底ヲ銃ヨリ離脱ス
- 2 門子受被小ねじヲ螺脱ス

銃器ノ構成機能取扱 機關銃

- 3 銅桿ヲ門子受被下面ニ當テ之ヲ輕打シツツ上方ニ離脱ス
- 4 油槽ヲ開キ銅桿ヲ尾筒上面ノ孔ヨリ挿入シ門子受ニ當テ銅槌ヲ以テ槌打シ之ヲ外方ニ離脱セシム但シ一側ノ門子受ヲ離脱セシトキハ他側ノモノハ其ノ離脱セル孔ヨリ銅桿ヲ挿入シ槌打スルヲ可トス

十一 照尺及照尺座ノ分解ハ左ノ順序方法ニ依ル

- 1 解脱子ヲ左方ニ壓シツツ轉輪ヲ回轉シ表尺桿ヲ上方ニ解脱ス
- 2 照尺
- イ 横尺座止金ヲ螺脱シ横尺座止ヲ壓シ横尺ヲ右方ニ抽脱ス
- ロ 横尺座止子ヲばねト共ニ抽脱ス
- ハ 照尺止金ヲ螺脱シ照門止ヲ壓シツツ照門ヲ抽脱ス
- ニ 照門止子頭ヲ螺脱シテ止、ばねヲ抽出ス

3 照尺座

- イ 昇降ねじノ小ねじ及「ナット」ヲ螺脱ス
- ロ 昇降ねじヲ上方ニ抽脱ス
- ハ 轉輪ヲ側方ニ抽脱ス
- ニ 轉輪止ノ頭部ヲたがね等ヲ以テ削肉シ頭ヲ螺脱シタル後轉輪止ヲ内方ニ壓シばねト共ニ抽脱ス
- ホ 轉輪解脱子軸ヲ抽脱シ解脱子ヲ離脱ス

ハ 小ねじヲ螺脱シ被筒ヲ脱ス

- 十二 照準具止金、照準具抑ねじ座、照準具抑金及抑ねじノ分解ハ左ノ順序方法ニ依ル
- 1 照準具止金ハねじヲ螺脱シタル後前方ニ抽出ス
- 2 照準具抑ねじ座ノ小ねじヲ螺脱シタル後抑ねじ座ヲ側方ニ離脱ス
- 3 照準具押金、同ばねヲ側方ニ離脱ス
- 4 照準具抑ねじノ小ねじヲ戻回シ抑ねじヲ解脱ス

結合後各小ねじニハ駐刻ヲ施スベシ

十三 三脚架ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

- 1 銃耳托架ヲ離脱スルニハ八耗柄附ねじ回ヲ以テ昇降體小ねじヲ脱シ方向緊定桿ヲ緩メ照準齒弧ヲ上方ニ舉ゲ銃耳托架ト昇降軸トノ結合ヲ解キタル後上方ニ抽出ス
- 照準齒弧ヲ銃耳托架ヨリ脱スルニハ五耗柄附ねじ回ヲ以テ照準齒弧止ヲ螺脱シタル後之ヲ脱ス
- 2 方向緊定桿ヲ止子ト共ニ握リ左ニ戻回シテ之ヲ脱シ次ニ五耗柄附ねじ回ヲ以テ方向緊定板小ねじヲ螺脱シ方向緊定板ヲ脱ス若シ補助板ヲ使用シアルトキハ之ヲ脱ス
- 3 齒弧轉輪及解脱子ノ分解左ノ如シ
- イ 齒弧轉輪止金ばね蓋ヲ壓シ之ヲ左方ニ九〇度旋回シテ抽出シ止金室ヲ下方ニ向ケ解脱子ノ握リヲ十分後方ニ倒シタル後ばねト共ニ止金ヲ脱ス

銃器ノ構造機能取扱 機關銃

ロ 解子上面ノ小孔ヨリ丁形ねじ同ニテ閉鎖ねじ小ねじヲ戻回シタル後小ねじ孔ヲ下方ニ向ケテ小ねじヲ脱シ齒弧轉輪ヲ旋回シテ其ノ「スパナ」孔ト閉鎖ねじ「スパナ」孔トヲ一致セシメ緊定管分解器ヲ之ニ嵌入シ轉輪ト閉鎖ねじトヲ同時ニ戻回シテ齒弧轉輪ヲ脱ス

「ピン」拔ヲ以テうす巻ねじ止ノ止栓ヲ脱シばね及うす巻ねじヲ分離ス

ハ 解子ヲ十分前方ニ倒シ萬能鉗ヲ以テ解子止ノ頭ヲ壓シツツ解子ヲ戻回シテ之ヲ銃耳托架ヨリ脱シ次ニ止及ばねヲ脱ス

4 照準齒弧蓋ヲ離脱スルニハ四箇ノ小ねじヲ螺脱シタル後同蓋ヲ脱スベシ

5 架頭附隨品ノ分解左ノ如シ但シ(へ)ハ此ノ順序ニ依ラザルコトヲ得

イ 萬能鉗ヲ以テ緊定桿ノ割「ピン」ヲ拔キ小自在「スパナ」ヲ以テ「ナット」ヲ脱シタル後座金ヲ脱シ緊定桿ヲ右方ニ抽出ス

ロ 「ハンドル」ヲ回轉シツツ昇降軸ヲ上方ニ脱ス又昇降軸ヨリ方向止金ヲ離脱スルニハ摺ヲ十分戻回シタル後鏢部ヨリ側方ニ脱ス

ハ 萬能鉗ヲ以テ起動ねじノ割「ピン」ヲ拔キ小自在「スパナ」ヲ以テ「ナット」ヲ戻脱シ「ハンドル」ヲ脱ス

ニ 萬能鉗ヲ以テ誘導齒車軸ノ割「ピン」ヲ拔キ小自在「スパナ」ヲ以テ「ナット」ヲ脱シタル後座金ヲ脱シ軸ヲ右方ニ抽出シ誘導齒車ヲ其ノ室ヨリ脱ス

ホ 八耗柄附ねじ同ヲ以テ起動ねじ室蓋ノ小ねじヲ脱シタル後小自在「スパナ」ヲ以テ起動ねじ室蓋ヲ戻回シ之ヲ前方ニ脱シ起動ねじヲ離脱ス

へ 五耗柄附ねじ同ヲ以テ軸被止環ノ三箇ノ小ねじヲ脱シ軸被止環ヲ除キ軸被ヲ脱ス

十四 三脚架ノ結合ニ際シテハ左ノ件ニ注意スベシ

1 齒弧轉輪ヲ結合スルニハ閉鎖ねじ小ねじ孔、銃耳托架及解子ノ相當孔ヲ正シク一致セシメタル後小ねじヲ緊定ス

2 方向緊定板及方向緊定桿ヲ結合スル際緊定桿ヲ緊定シ其ノ握リガ右方水平以下ニ旋回スルニ至レバ緊定補助板ヲ兩者ノ中間ニ挿入ス

第五章 自動砲

第一節 九七式自動砲

第一款 構造

第三百三十一 九七式自動砲ハ砲ト屬品トヨリ成ル

一 砲ハ砲身、尾筒、尾筒底、砲尾機關、積桿、彈倉、搖架、駐退機、擊發機、床尾、照準具、前脚、後脚、提棍ヨリ成ル

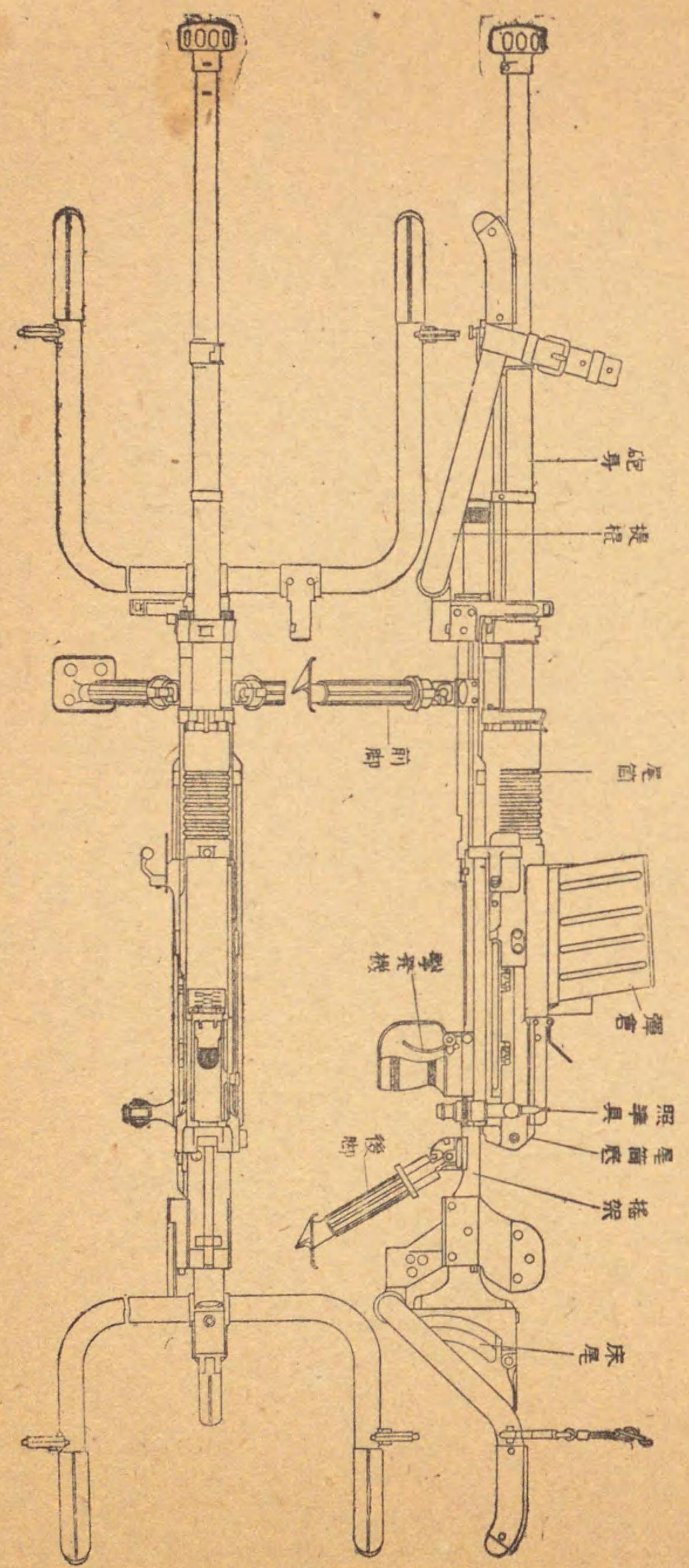
1 砲身ハ砲口制退器、第一連結管、規整子、規整子止、「ガス」管、第二連結管、「ガスポンプ」第三連結管、修正環、連結螺ノ附隨品ヲ有ス

2 尾筒ハ門子受、逆鉤、單發機動子、蹴子、彈倉止、活塞止、活塞止壓子、安全栓ノ附隨品ヲ有ス
銃器ノ構造機能取扱 自動砲

- 3 尾筒底ハ尾筒底栓、復座ばねノ附隨品ヲ有ス
- 4 砲尾機關ハ活塞、遊筒、門子、抽筒子、擊莖、擊鐵ヨリ成ル
- 5 槓桿ハ槓桿鉤板、槓桿止、槓桿握把、槓桿防危板ノ附隨品ヲ有ス
- 6 搖架ハ前棍口、前脚頭、前脚頭廻止、蹴出口蓋板、防危板、尾筒後座止、後棍口ノ附屬品ヲ有ス
- 7 駐退機ハ駐退管、駐退機ばね大小、ばね桿、尾筒連結爪、節制瓣、駐退管蓋、防塵網、ばね座、豫壓調整ねじ、駐退管「ナット」ヨリ成ル
- 8 擊發機ハ擊發機體、握把、用心金、逆鉤解子、單發子、引金、傳導軸、結合軸、安全栓ヨリ成ル
- 9 床尾ハ床尾軸、床尾結合子、床尾ばね、床尾板ばね長短、肩當、床尾板ノ附隨品ヲ有ス
- 10 照準具ハ照星、照門座、昇降桿、照門ヨリ成ル
- 11 前脚ハ結合軸、前脚止、前脚上桿、前脚下桿、前脚調整ねじ、前脚分解止、前脚調整止、踵鐵ヨリ成ル
- 12 後脚ハ結合軸、後脚止、後脚上桿、後脚調整ねじ、後脚分解止、後脚調整止、後脚下桿、踵鐵ヨリ成ル
- 二 屬品ハ外部屬品、携帶袋、彈藥袋、屬品箱、彈倉箱ヨリ成ル
- 1 外部屬品ハ砲被、砲身被、砲身後方被、砲尾搖架被、活塞被ヨリ成ル
- 2 携帶袋ノ收入品中主ナルモノ左ノ如シ
銅槌、單發裝彈器、砲身「スパナ」、黃銅桿、「ピン」拔、六耗ねじ回
- 3 屬品箱ノ收入品中主ナルモノ左ノ如シ
洗頭大小、洗桿大小、「ガス」搔、擊莖室手入桿、「ガス」漏孔手入桿、三耗、九耗ねじ回、駐退器「スパナ」、「ス

「パナ」大小、豫壓調整桿、油罐

全體

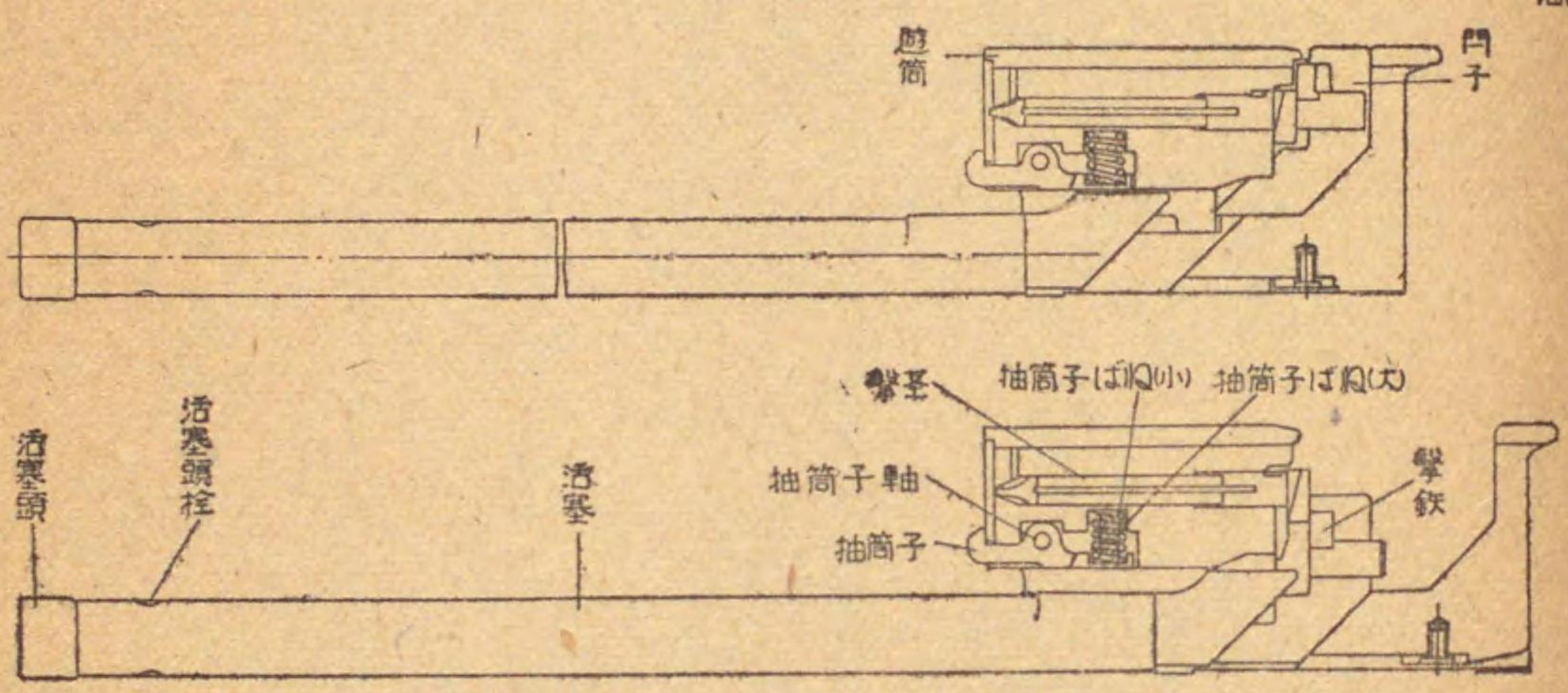


銃器ノ構造機能取扱 自動砲

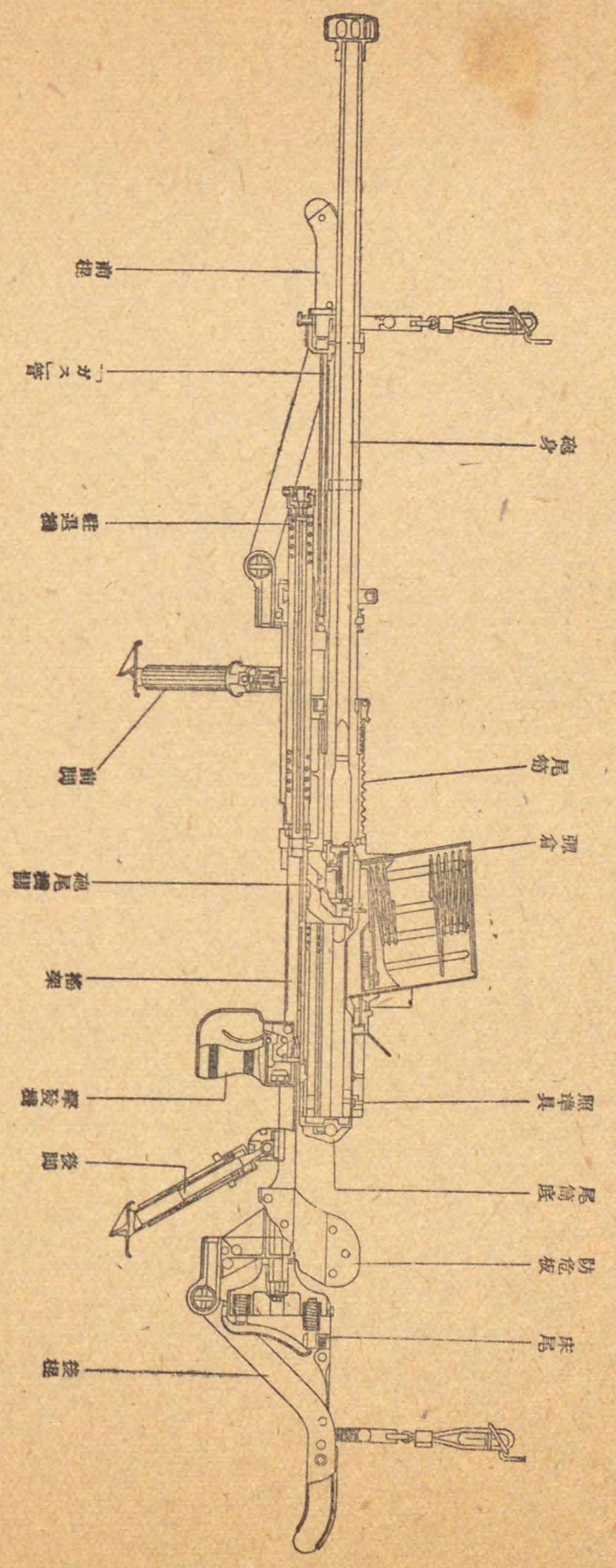
三 砲尾機關ノ結合狀態

砲尾機關

銃器ノ構造機能取扱 自動砲

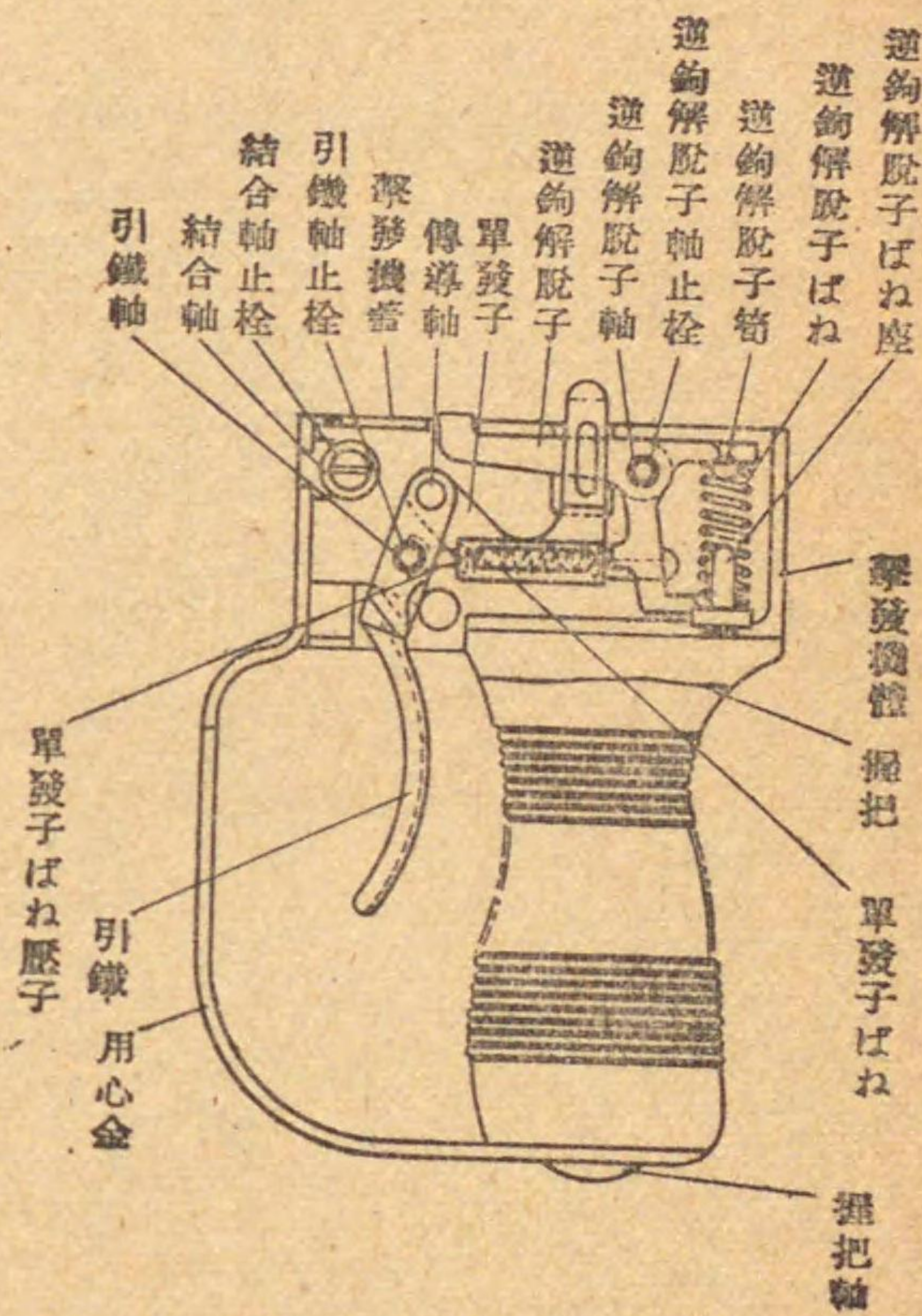


全體圖 (縱斷面)



六 擊發機ノ構造

機 發 擊



第二款 機關部ノ機能

第三百三十二 機關部ノ機能左ノ如シ

- 一 彈倉ニ彈藥筒ノ充填
彈倉ノ頭部ヲ下方ニシテ臺上ニ立テ、受筒板ヲ壓下シツツ一發宛七發ヲ充填ス
- 二 射撃前ニ於ケル閉鎖位置
1 槓桿ハ前方ニアリ

2 砲尾機關ハ復座ばね力ニヨリ前方ニアリテ閉鎖ノ位置ヲ保持ス

三 砲尾機關ノ開退

- 1 槓桿ヲ十分引キ活塞ヲ後退ス
- 2 活塞ノ後退ニ伴ヒ
イ 門子ハ下降シ門子受トノ接觸ヲ解キ同時ニ擊莖ヲ僅カニ後退ス
ロ 遊筒ハ活塞ノ段部ニ鉤セラレテ後退ス
ハ 逆鉤々板逆鉤ヲ壓下シテ通過シ之ヲ鉤止ス

四 彈倉ノ裝著

- 1 尾筒ノ彈倉止把子ヲ扛起シテ裝填口蓋板ヲ開ク
- 2 彈倉ノ前面下部ヲ裝填口前壁ノ横溝ニ鉤セシメタル後、後方ニ強ク壓下シ彈倉止ニ鉤セシム

五 擊發作用

- 1 引金ヲ引ケバ逆鉤ハ壓下セラレ活塞トノ鉤止ヲトク
- 2 活塞ハ復座ばね力ニ依リ前進ス
- 3 活塞ノ前進ニ伴ヒ
イ 遊筒門子ハ共ニ前進ス
ロ 遊筒頭部ハ彈倉内最下ノ彈藥筒ヲ推進シ之ヲ藥室ニ裝填ス
ハ 門子ハ門子室ニ達セバ壓上セラレ、門子受ニ接シ同時ニ擊莖ノ運動ヲ自由ナラシム

銃器ノ構造機能取扱 自動砲

- ニ 抽筒子ハ其ノ爪部ニテ藥莢起縁部ニ鉤ス
 - ホ 活塞ハ尙前進シ撃鐵ノ後面ヲ衝撃シ、次デ撃鐵前面ニテ擊莖ヲ衝撃シ撃發作用ヲナス
- 六 發射後ノ機能

- 1 彈丸砲腔内ヲ前進シ「ガス」漏孔ヲ通過スルヤ火藥「ガス」ノ一部ハ同漏孔ヨリ漏出シ、次デ各部ヲ通過シ「ガスポンプ」ニ入り活塞頭ニ作用シテ活塞ヲ後退セシム
 - 2 活塞後退ニ伴ヒ三ノ2項ト同一ノ作用ヲナス
 - 3 彈丸砲口ヲ離ルルヤ砲身及尾筒ハ發射ノ反動ニヨリ駐退機ばねヲ壓縮シツツ後座ス
 - 4 尾筒ノ後座ニ伴ヒ
 - イ 尾筒下面ノ單發起動子ハ單發子ノ上端ヲ壓シテ之ヲ下降セシム
 - ロ 單發子下方後端ノ爪部ハ逆鉤解子トノ鉤合ヲ解ク
 - ハ 逆鉤解子ハ其ノばねニヨリ先端ヲ壓下セラレ逆鉤トノ鉤止ヲ解ク
 - ニ 逆鉤ハ其ノばね力ニヨリ尾筒内ニ突出シテ活塞鉤止ノ位置ヲトル
 - ホ 駐退機ノ尾筒連結爪ハ後退シ下方爪部ニテ蹴出口蓋板ヲ開放ス
 - 5 抽筒子ハ打殼藥莢ヲ抽出シ遊底ノ包底面ト共ニ之ヲ保持後退シ蹴子頭ニテ打殼藥莢蹴出窓ヨリ下方ニ蹴出ス
 - 6 活塞ハ逆鉤々部ニテ鉤止セラレ發射前ノ位置ヲトル
 - 7 尾筒ハ駐退機ばねノ彈發力ニヨリ舊位ニ復ス
- 七 彈倉ノ離脫

彈倉ヲ離脫スルニハ彈倉止把子ヲ起シテ其ノ鉤合ヲ解キ、彈倉ノ後部ヲ脱シツツ前面下端ノ突筒ヲ裝填口前壁ノ横溝ヨリ脱シ彈倉ヲ上方ニ脱ス

第三款 分解及結合

第三百三十三 普通分解及結合

- 一 普通分解ニ於テハ分解及離脫シ得ベキ部品竝ニ順序左ノ如シ
 - 提棍、尾筒底、砲尾機關、砲身、規整子、規整子止、「ガスポンプ」蓋、「ガスポンプ」蓋止、尾筒、駐退機
 - 二 提棍、砲ヨリ前棍及後棍ヲ離脫スルニハ搖架、前棍口及後棍口止頭ヲ壓シ止活筒ヲシテ前棍及後棍ノ内管座ヨリ脱セシメタル後前方及後方へ離脫ス
 - 三 尾筒底、尾筒ヨリ尾筒底ヲ離脫スルニハ「ピン」拔ヲ尾筒底栓ノ左端ニ當テ槌打シ之ヲ右方へ僅カ抽出シタル後左手ニテ尾筒底ヲ前方ニ壓シツツ右手ニテ尾筒底栓ノ摘部ヲ強ク右方ニ引キテ之ヲ抽脫シタル後左手ノ力ヲ漸次緩メツツ尾筒底ヲ後方ニ抽出シ次デ右手ヲ復座ばねニ添へ共ニ後方ニ脱ス
- 復座ばね桿ヨリ復座ばねヲ脱ス

四 砲尾機關

- 1 尾筒ヨリ砲尾機關ヲ抽脫スルニハ尾筒底ヲ離脫シタル後右手掌ヲ尾筒ノ後方ニ當テ槓桿ヲ後方ニ引キ活塞ヲ抽出シ左手ヲ添へテ砲尾機關ヲ抽脫ス結合ニ際シテハ門子、遊筒ヲ降下セル姿勢ニテ尾筒ニ装入シ且活塞ノ前端部ヲ尾筒内面ニ衝突セシメザル様注意スベシ

銃器ノ構造機能取扱 自動砲

- 2 遊筒ヲ擊莖ト共ニ門子ヨリ脱シ擊莖ヲ同室ヨリ脱ス
- 3 門子ヲ活塞ノ斜孔ヨリ扛上離脱シ擊鐵ヲ門子ヨリ抽脱ス
- 4 遊筒ヨリ抽筒子ヲ分解スルニハ「ピン」拔ヲ以テ軸ヲ脱シ抽筒子及同ばね大、小ヲ其ノ室ヨリ抽脱ス結合ノ際ハばね小ハばね大ノ中ニ挿入シ且其ノ機能ヲ點檢スベシ
- 5 砲身 尾筒ヨリ砲身ヲ分解スルニハねじ回ヲ以テ尾筒上面ノ砲身止ヲ戻回シタル後連結螺回止軸頭ヲ押シツツ連結螺回止ヲ扛起シタル後連結螺回ヲ以テ連結螺ヲ右ニ旋回シ「解」ノ刻印及標線ヲ尾筒ノ標線ト一致セシメタル後砲身ヲ尾筒ノ同室ヨリ前方ニ徐ニ抽脱ス
- 結合ニ際シテハ砲身後端及「ガスポンプ」後端ヲ尾筒ニ觸突セザル様注意シ且連結螺ハ正シク前項ノ位置ニ在ラシメ其ノ鏢部ヲ尾筒前面ニ接著セシメタル後連結螺回ヲ以テ連結螺ヲ左ニ旋回シ「締」ノ標線ヲ尾筒ノ標線ト一致セシメタル後連結螺回止頭ヲ押シツツ回止ヲ確實ニ連結螺ノ溝ニ吻鉤セシム
- 6 規整子及規整子止 砲身ヨリ規整子ヲ脱スルニハ規整子頭ヲ引キツツ規整子止ヲ僅カ戻回シ又ハ全部戻回螺脱シタル後規整子ヲ戻回螺脱ス若シ手ニテ螺脱困難ナルトキハ頭部ヲ圓孔ニ「ピン」拔ヲ挿入シ戻回スベシ
- 7 「ガスポンプ」蓋及蓋止 砲身ヨリ「ガスポンプ」蓋ヲ脱スルニハ「ガスポンプ」蓋止頭ヲ引キツツ蓋止ヲ僅カニ戻回シ又ハ全部戻回螺脱シタル後蓋ヲ戻回螺脱ス
- 若シ手ニテ螺脱困難ナルトキハ砲身連結螺回ノ小ナル方ノ蟹目ヲ用ヒ戻回スベシ
- 結合ニ際シテハ「左」「右」ノ刻印ニ注意シ砲尾ヨリ向ツテ「右」「左」ナル如ク結合シ且十分螺入シ「右」「左」ノ標線ヲ第二支維ノ標線ト一致スル如ク爲スベシ

八 尾筒及駐退機 砲ヨリ尾筒及駐退機ヲ離脱スルニハ砲身ヲ脱シタル後左ノ順序方法ニ依ル但シ1項乃至4項ハ此ノ順序ニ依ラザルコトヲ得

- 1 槓桿握把ノ離脱 槓桿握把止割「ピン」ヲ「ピン」拔ヲ以テ抽脱シ握把ヲ槓桿ヨリ離脱ス
- 2 駐退機ノ旋回 搖架前端ノ駐退機止筒ヲ駐退機回ノ小ナル筒ヲ以テ壓シツツ駐退機回ノ大ナル二箇ノ筒ヲ駐退機ノ鏢部圓孔ニ裝シ駐退機ヲ左へ旋回シ其ノ半圓蟻部ヲ搖架ヨリ脱セシム
- 3 床尾ノ旋回 左手拇指ニテ尾筒後座止ヲ壓シツツ右手ヲ以テ床尾ヲ後方ニ十分ニ引キ右又ハ左ニ九〇度旋回ス
- 4 防危板ノ旋回 防危板軸頭ヲ壓シツツ防危板ヲ左へ倒シ下方ニ旋回ス
- 5 尾筒ヲ後方ニ徐ニ移動シ搖架ヨリ脱セシム
- 此ノ際尾筒後方ヲ確實ニ支ヘ搖架及尾筒ノ準梁ヲ損傷セザル様注意スベシ結合ニ際シテハ尾筒ノ逆鉤ヲ十分壓上シツツ搖架ニ結合シ逆鉤ニテ床尾板褥革ヲ損傷セザル様注意スベシ
- 6 駐退機ヲ搖架ヨリ上方ニ抜キ取ル

第三百三十四 特別分解及結合

一 特別分解ハ精密手入其ノ他特ニ必要アル場合幹部監督ノ下ニ之ヲ行フモノニシテ分解シ得ル部品左ノ如シ但シ本分解ヲ行フニハ通常普通分解ヲナシタル後ニ行フモノトス

- 1 砲身附隨品
- 2 尾筒附隨品

銃器ノ構造機能取扱 自動砲

- 3 活塞頭
- 4 槓桿及附隨品
- 5 彈倉
- 6 搖架附隨品
- 7 駐退機
- 8 擊發機
- 9 床尾及附隨品
- 10 照準具
- 11 前脚
- 12 後脚

二 砲身附隨品 砲身ヨリ附隨品ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

- 1 砲口制退器割「ピン」ヲ「ピン」拔ヲ以テ抽脱シ制退器ヲ戻回螺脱ス
- 2 第一支箍平行「ピン」乙ヲ「ピン」拔ヲ以テ抽脱シ第二支箍止ねじ回ヲ以テ螺脱シタル後第一支箍及第二支箍後端ヲ銅槌ヲ以テ全周ニ互リ交互ニ輕打シ之等ヲ「ガス」管「ガス」管支箍及「ガスポンプ」ト共ニ前方へ抽出ス
- 3 「スパナ」ヲ用ヒ「ガス」管ト第一支箍及第二支箍ヲ戻回螺脱ス第一支箍ト「ガス」管トノ間ニ装入シアル座ヲ抽出ス
- 4 「ガス」管支箍割「ピン」ヲ「ピン」拔ヲ以テ抽脱シ支箍ト「ガス」管ヲ分離ス

- 5 「ガスポンプ」止ねじヲねじ回ニテ螺脱セル後第二支箍ヨリ「ガスポンプ」ヲ戻回螺脱ス結合ニ際シテハ「ガスポンプ」ノ左右ノ標示(左用ハ青右用ハ赤色エナメル充填ノ刻線アリ)ニ注意スベシ
- 6 第三支箍平行「ピン」乙ヲ「ピン」拔ニテ抽脱シ銅槌ヲ以テ前方へ槌打脱出ス
- 7 第三支箍ヨリ連結螺止ヲ螺脱ス
- 8 砲身連結螺ヲ前方へ抽脱ス結合ニ際シテハ連結螺回止吻入溝ヲ上方ニスル如ク装入セル後第三支箍ヲ嵌入スベシ
- 9 修正環ヲ砲身ヨリ前方へ抽脱ス

三 尾筒附隨品 尾筒ヨリ尾筒附隨品ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

- 但シ2項乃至7項ヲ除ク以外ハ此ノ順序ニ依ラザルコトヲ得
- 1 砲身止ヲねじ回ヲ以テ戻回螺脱ス
- 2 上板蓋割「ピン」ヲ「ピン」拔ヲ以テ抽出シ後方弧缺部ニ「ピン」拔ヲ當テ之ヲ後方ニ槌打離脱ス
- 3 「ピン」拔ヲ以テ活塞止軸「ピン」ヲ抽脱シ尾筒上板ヨリ活塞止ヲばね軸ト共ニ上方ニ抜キトル活塞止トばね及ばね軸ヲ分離ス結合ニ際シテハばねハ十分其ノ效力ヲ發揮スル如ク壓縮シテ結合スベシ
- 4 ねじ回ヲ以テ活塞止壓子軸ヲ螺脱シ活塞止壓子ヲ抽脱ス
- 5 「ピン」拔ヲ以テ彈倉止把子軸割「ピン」ヲ脱シ次デ把子軸ヲ脱シ彈倉止把子ヲ上方ニ彈倉止及同ばねヲ前方ニ抽出ス此ノ際彈倉止ばねハ平素壓縮セラレアルヲ以テ把子ヲ上方ニ抽出スルトキハ彈倉止 同ばねヲ飛散セザル如ク注意スベシ

- 6 「ピン」拔ヲ以テ蹴子軸ヲ拔キ蹴子ヲ前方ニ離脱ス
- 7 ねじ回ヲ以テ安全栓左方ノ止ねじヲ螺脱シ安全栓ヲ右ニ抽脱シ爪ヲ上方ニ抜取ル
- 8 逆鉤ばねノ前方ヲねじ回尖端ニテ扛起シばね嵌裝部ノ孔ニ「ピン」拔ヲ當テばねヲ前方ニ槌打離脱シ逆鉤ヲ同室ヨリ脱ス
- 9 門子受止ねじ駐栓ヲ「ピン」拔ニテ槌打抽出シ止ねじヲ螺脱シタル後座ヲ尾筒ヨリ離脱シ「ピン」拔ニテ門子受ヲ尾筒内面へ槌打脱出セシム
- 10 單發起動子ヲ離脱スルニハ頭部ヲやすりがけシタル後尾筒内面ニ槌打離脱スベシ
- 11 但シ本分解ハ部品交換ノ場合以外ハ實施スベカラズ
- 11 裝填口蓋板ヲ尾筒ヨリ離脱スルニハ「ピン」拔ヲ以テ蝶番軸ヲ拔キ蝶番ばね及蓋板ヲ分離ス結合ニ際シハ蝶番ばねノ効力ヲ十分發揮スル如ク壓縮シテ結合スベシ本分解ハ修理以外ハ避クベシ
- 12 槓桿口蓋板ヲ尾筒ヨリ離脱スルニハ「ピン」拔ヲ以テ蓋板座軸ヲ拔キばね及蓋板ヲ分離ス
- 結合ニ際シテハばねハ其ノ効力ヲ十分發揮シ得ル如ク壓縮シテ結合スベシ本分解ハ修理以外避クベシ
- 四 活塞頭 部品交換ノ場合活塞頭ヲ活塞ヨリ分解スルニハ頭前端ヨリ三・五耗ノ位置ニ止栓ヲ挿入シ兩端ヲ鉸著シアルヲ以テ止栓頭ヲやすりがけシ「ピン」拔ヲ以テ槌打抽出シ活塞頭ヲ螺脱ス
- 五 槓桿及附隨品 尾筒ヨリ槓桿及附隨品ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル
 - 1 ねじ回ヲ以テ二箇ノ槓桿鉤板止ねじヲ螺脱シ體ト槓桿鉤板ヲ分離シ鉤板ヲ分離シ鉤板ヲ尾筒内面ヨリ抽出ス
 - 2 槓桿止軸ヲ「ピン」拔ニテ抽脱シ槓桿體ヨリ槓桿止及ばね大、小ヲ分離ス本分解ハ修理以外實施スベカラズ

六 彈倉 分解ノ順序方法左ノ如シ

- 1 「ピン」拔ヲ以テばね底板筒ヲ壓下シツツ彈倉板ヲ抽出ス、コノ際彈倉上面ニ右手掌ヲ當テばねノ飛出ニ注意スベシ
- 2 彈倉ばねヲ受筒板ト共ニ上方ニ拔出ス
- 結合ニ際シテハ彈倉ばねノ長短アル側ガ後方トナル如ク結合スルヲ要ス
- 3 受筒板ヨリばねヲ脱ス
- 4 受筒板ノ活塞止起動子割「ピン」ヲ拔キ活塞止起動子ヲばねト共ニ各々ノ室ヨリ抽出ス
- 七 搖架附隨品 搖架體ヨリ其ノ附隨品ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニヨル但シ本分解ハ總テ修理ノ際以外ハ分解スベカラズ
 - 1 駐退機止筒蓋ヲねじ回ヲ以テ戻回シ止筒及ばねヲ搖架ヨリ離脱ス
 - 2 照星座止ねじヲねじ回ヲ以テ螺脱シ照星座ヲ搖架體ヨリ分離シ照星ヲ座ヨリ槌打離脱ス但シ照星座ヲ搖架ニ裝著ノ儘照星ヲ離脱スルコトヲ得
 - 3 前脚頭割「ピン」ヲ「ピン」拔ヲ以テ抽脱シ次デ止栓ヲ抽出シ前脚頭ヲ止、止頭及ばねト共ニ下方ニ離脱ス前脚頭止、同頭同ばねヲ同室ヨリ抽出ス
 - 4 前脚頭回止ノ割「ピン」ヲ抽出シ活筒頭ヲ螺脱シ體及ばねヲ分離ス
 - 5 蹴出口蓋板蝶番軸頭ヲやすりがけシ軸ヲ抽出シ蓋板ヲばねト共ニ搖架ヨリ脱スねじ回ヲ以テ鉤ばね蓋ねじヲ螺脱シ鉤ヲばねト共ニ離脱ス

- 6 防危板軸ヲねじ回ニテ螺脱シ防危板ヲ搖架ヨリ離脱ス止栓頭「ピン」ヲ抽出シ止栓頭ヲばねト共ニ螺脱シ止栓ヲ前方へ抜取ル
- 7 尾筒後座上ハ床尾ヲ分離シテ後搖架ヨリ離脱ス
- 八 駐退機ノ分解ハ左ノ順序方法ニ依ル
 - 1 駐退機ヲ臺上ニテ「ピン」拔ヲ以テ駐退管蓋活箱ヲ壓シツツ駐退管蓋ヲ左ニ六〇度回シ之ヲ上方ニ脱ス
 - 2 駐退管蓋活箱ヲ分解スルニハ「ピン」拔ヲ以テ活箱底ヲ押シツツ活箱蓋ヲ上方ニ槌打其ノ蟻室ヨリ離脱シ活箱底及ばね及活箱ヲ取出ス
 - 3 ねじ回ヲ以テ三個ノ防塵網止ねじヲ螺脱シ防塵網ヲ其ノ室ヨリ抽脱ス
 - 4 節制瓣座上ノ鏢部ニ砲身連結ねじ回ノ小ナル蟹目部ヲ裝シ之ニ戻回螺脱ス節制瓣桿部端末ハ鉸著シアルヲ以テ之ヲやすりがけシタル後戻回螺脱シばね及ばね室ヲ分離ス
 - 5 「ピン」拔ヲ以テ尾筒連結爪止割「ピン」ヲ抽脱シタル後駐退ばね桿止ヲねじ回ヲ以テ螺脱ス
 - 6 駐退管頭部ヲ臺上ニ立テ駐退ねじ桿頭ヲ壓シツツ「スパナ」ヲ以テ尾筒連結爪止ヲ徐々ニ戻回シ止及爪ヲ脱シ漸次力ヲ緩メツツばね桿ヲばね及ばね座ト共ニ抽出シばね桿ヨリばね大、小及ばね座ヲ脱ス
 - 7 駐退管ヨリ駐退管「ナット」及豫壓調整ねぢヲ螺脱ス
 - 8 ばね桿ヨリ緊塞環ヲ脱スルニハねじ回ノ尖端ヲ緊塞環ノ割目ニ挿入シテ緊塞環ヲ開大シテ同室ヨリ脱出ス
- 九 擊發機 搖架ヨリ擊發機ノ離脱及其ノ分解左ノ如シ
 - 1 結合軸割「ピン」ヲ「ピン」拔ヲ以テ抽脱シ次デ軸ヲ抽脱ス
 - 2 擊發機後端ニ當金ヲナシ之ヲ前方ニ槌打シ搖架ヨリ離脱ス
 - 3 安全栓摘部ヲ上方ニ旋回シ「安全」發火「フ」中間ニ位置セシメ之ヲ左方ニ抽脱ス
 - 4 ねじ回大ヲ以テ握把軸ヲ戻回螺脱ス
 - 5 用心金ヲ輕ク下方ニ槌打離脱ス
 - 6 蓋板ノ圓溝ニ「ピン」拔ヲ當テ前方ニ槌打離脱ス
 - 7 「ピン」拔ヲ以テ逆鉤解子軸割「ピン」ヲ抽脱シ更ニ軸ヲ抽脱シ解子ヲばねト共ニ上方ニ押出ス此ノ際單發子ハ上方ニ扛起シ單發子ばね壓子ハ外レテ落下スル故散逸セザル様注意ヲ要ス
 - 8 「ピン」拔ヲ以テ引金軸割「ピン」ヲ拔キタル後引金軸ヲ離脱シ單發子上端ヲ摘ミ之ヲ前方ニ旋回シ引金ト共ニ下方ニ抽脱ス
 - 9 單發子ばねヲ單發子ノ室ヨリ拔出ス
 - 10 握把ヲ下方ニ抽出ス結合ニ際シテハ單發子ト引金ヲ結合セルモノヲ逆鉤解子ニ結合シ解子ばねト共ニ室ニ收容シ擊發機體ノ前方ヲ上ニシテ引金ノ間隙ヨリ單發子ばねヲ單發子ノ室ニ入レ更ニ單發子ばね壓子ヲ挿入シ「ピン」拔ヲ以テ之ヲ壓入シツツ引金軸ヲ挿入シ引金軸ニ壓子ノ脚部ヲ把持セシメ引金ヲ十分引キツツ逆鉤解子軸ヲ挿入ス然ル後引金ヲ引キタル前逆鉤解子ハ扛起スルヤ又引金ヲ引キタル儘單發子ノ頭部ヲ後方ニ押ス時ハ扛起セル逆鉤解子ハ沈下シ引金ヲ弛ムレバ舊位ニ復スルヤ點檢スベシ機能良好ナラバ引金軸及逆鉤解子軸割「ピン」ヲ挿入ス

- 十 床尾及附隨品ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

銃器ノ構造機能取扱 自動砲

- 1 床尾板ヲ前方ニ壓シツツ上下ノ止ねじヲ螺脱シ床尾板ヲ後方ニ離脱シ床尾板ねぢ長、短ヲ抽出ス
- 2 床尾軸「ナット」割「ピン」ヲ抽出シ「ナット」ヲ戻回螺脱ス
- 3 床尾結合子ねじ四箇ヲねじ回ニテ螺脱シ床尾體及床尾結合子ヲ座板ト共ニ後方ニ抽出ス
- 4 床尾ばね蓋ノ三箇ノ止ねじヲ螺脱シ蓋ヲ六〇度旋回シ尾筒後座止ヲ壓シツツ蓋ヲ床尾軸及床尾ばねヲ後方ニ抽出ス
- 5 尾筒後座止ヲ搖架ヨリ其ノばねト共ニ上方ニ拔取ル
- 6 肩當軸頭ヲやすりがけシ之ヲ槌打抽出シ肩當止活筒蓋ヲ抽脱シばね及止活筒ヲ床尾板ヨリ抽出ス
- 十一 照準具ノ分解ハ左ノ順序方法ニ依ル
- 1 昇降桿蓋割「ピン」ヲ「ピン」拔ヲ以テ抽出シ蓋ヲ下方ニ抽脱ス
- 2 昇降桿轉輪止頭ヲ壓シツツ轉輪ヲ左へ回轉シ昇降桿ヲ上方へ離脱ス
- 3 轉輪ヲ座ヨリ抽出ス
- 4 照門規整子轉子「ピン」ヲ抽出シ轉子ヲ回轉シ規整ねじヲ離脱スコノ際規整活筒及ばねヲ飛散セザル様注意ス
- 5 照門ヲ昇降桿ヨリ拔取ル
- 6 昇降轉輪止頭ニ回轉螺脱シばねヲ上方ニ轉輪止ヲ下方ニ押出ス
- 十二 前脚ノ分解ハ左ノ順序方法ニ依ル
- 1 前脚軸「ナット」割「ピン」ヲ抽出シ「ナット」ヲ抽脱シ前脚頭ト前脚トヲ分離ス
- 2 前脚止及同ばねヲ抽出ス
- 3 ねじ回ヲ以テ前脚調整止ヲ螺脱シタル後調整ねじヲ回轉シ前脚下桿ヲ上桿内ニ装入シ上桿ノ前脚分解止挿入
- 4 ロト分解止ヲ一致セシメテ「ピン」拔ヲ以テ槌打シ分解止ヲ抽出ス
- 4 調整ねじヲ旋回シ上下桿及調整ねじヲ分離ス
- 十三 後脚ノ分離ハ前脚ニ同ジ

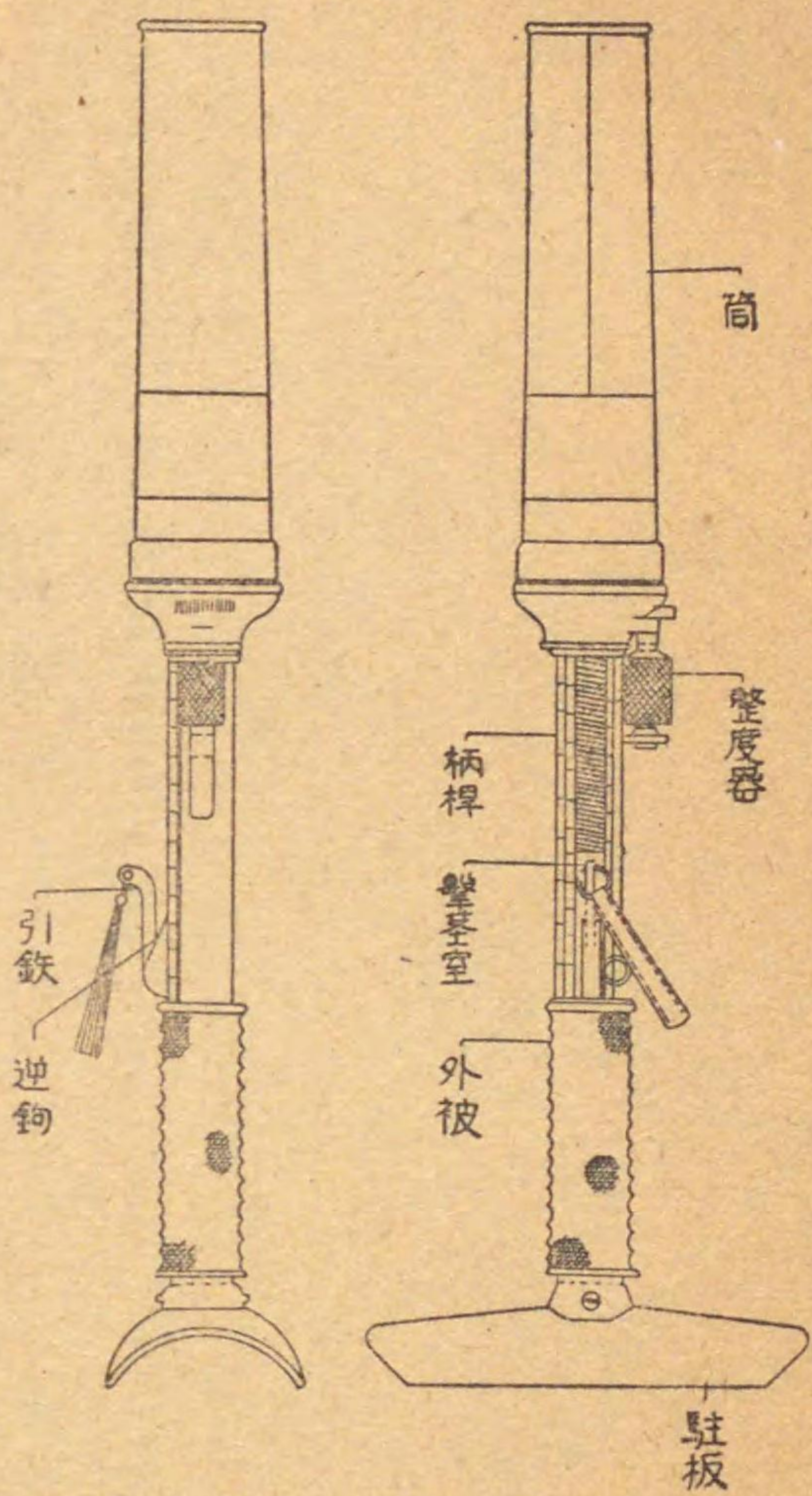
第六章 擲彈筒

第一節 八九式重擲彈筒

第一款 構速

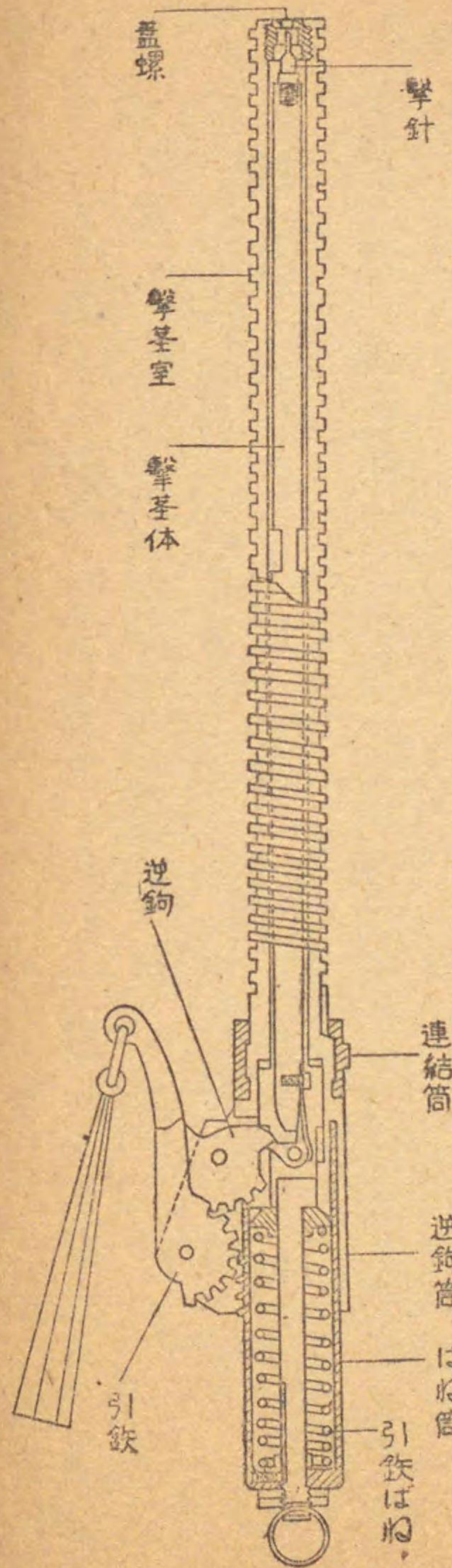
第三百三十五 八九式重擲彈筒ハ筒、柄桿、整度器、擊發機關、駐板、外被及屬品ヨリ成ル

筒彈擲重式九八



擊發機關ハ擊莖、擊莖室、連結筒、ばね受、ばね、ばね筒、引金ばね、逆鉤及引金ヨリ成ル

擊發機關



第二款 分解及結合

第三百三十六 普通分解及結合

一 普通分解ヲナスベキ部位左ノ如シ
整度器、筒、擊發機關

二 整度器

- 1 齒車軸駐環ヲ抽出ス
- 2 底塞ヲ左方ニ戻回シテ齒車軸ヨリ離脱ス
- 3 轉輪ヲ底螺ト共ニ齒車軸ヨリ下方ニ抽出ス
- 4 齒車軸支筒ヲ左方ニ戻回シテ齒車軸ト共ニ筒底ヨリ離脱ス（「スパナ」ヲ使用セバ容易ナリ）
- 5 齒車乙ヲ其ノ室ヨリ抽出ス

三 筒

- 1 柄桿頭部ノ駐鉤ヲ外方ニ旋回シテ筒底ノ駐鉤室トノ吻合ヲ解ク
- 2 筒ヲ左ニ戻回シテ筒ト柄桿トノ結合ヲ解キ筒ト擊發機關ヲ結合ノ儘柄桿ヨリ上方ニ抽出ス（固クシテ分解困難ナルトキハ筒底ヲ才槌ニテ二、三回槌打セバ可ナリ）
- 3 擊莖室ヲ握リ筒ヲ右方ニ戻回シテ擊發機關トノ結合ヲ解ク、此ノ際擊莖脱落シ易キヲ以テ注意ヲ要ス

四 擊發機關

銃器ノ構造機能取扱 擲彈筒

- 1 整度器齒車甲ヲ擊發室縱溝ニ沿ヒ上方ニ抽出ス
 - 2 連結筒ヲ右若クハ左ニ九〇度旋回シテ逆鉤筒上部鏢部ト連結筒内面切缺部トヲ一致セシメ逆鉤筒ヲ下方ニ引キ擊莖ト共ニ抽出ス
 - 3 引金軸駐環ヲ脱シ引金軸ヲ抽出シ次ニ引金ヲ逆鉤筒ヨリ離脱ス
 - 4 逆鉤軸ヲ抽出シ逆鉤筒ヨリ離脱ス
 - 5 駐環ヲ脱シ左手拇指頭ヲ以テばね筒ヲ上方ニ押シ引金ばねヲ壓縮シツツ擊莖底ねじヲ左ニ戻回シテ擊莖ヨリ離脱ス此ノ際擊針ヲ机上ニ押著クル等ノ操作ヲナスベカラズ
 - 6 ばね筒、引金ばね及ばね受ヲ擊莖ヨリ抽出ス
 - 7 擊莖ヲ逆鉤筒ヨリ上方ニ抽出ス
 - 8 擊莖室下端鏢部ト連結筒内面切缺部ト一致セシメ連結筒ヲ上方ニ抽出ス
 - 9 蓋ねじヲ左ニ戻回シテ擊莖室ヨリ離脱ス
- 五 結合ハ概ネ分解ト反對ノ順序方法ニヨル
- 第三百三十七 特別分解及結合**

- 一 柄桿ト止板
- 二 筒ノ小ねじヲ離脱シタル後、柄桿ヲ左ニ戻回シテ止板ヨリ離脱ス
- 二 擊莖體ト擊針
- 「スパナ」ヲ以テ擊針ヲ戻回離脱ス

三 外被

- 柄桿ト止板トヲ分解セル後下方ニ離脱ス
- 四 結合ハ概ネ分解ト反對ノ順序方法ニヨル

第七章 銃器使用上ノ注意

第一節 銃器使用上ノ一般注意

第三百三十八 銃器使用上一般ニ注意スベキ事項左ノ如シ

- 一 常用品ノ手入ハ左ノ如ク行フ
 - 1 塵拂等ニテ外部ノ土砂、塵埃等ヲ清掃ス
 - 2 布片ニテ外部ノ舊油、污垢、泥土及著色部、木部ノ油氣ヲ清拭ス
 - 3 氣密ヲ要スル以外ノ鐵部ノ錆ヲ除クニハ燈油、又ハ揮發油ニ浸シタル刷毛、綿布等ニテ拭キトルベシ
錆ノ甚シキトキハ燈油ヲ注ギ三〇分以上經過ノ後燈油ニ浸シタル木賊又ハ絨布等ニテ拭キ除クベシ
 - 4 各部清拭後素地部、錆染部、染烘部ニ「スピンドル」油ヲ塗油ス、此ノ際塗料部、木部ニ油ヲ流下スベカラズ
 - イ 樞軸部、摩擦部ニハ稍、多ク塗油ス
 - ロ 錆染部、染烘部ニハ薄ク塗油ス
 - 5 過度ノ塗油ハ塵埃ノ附着、油ノ流下ニヨリ害アルモノトス
- 二 銃身腔中ノ手入ハ左ノ如ク行フ
- 銃器ノ構造機能取扱 銃器使用上ノ注意

- 1 銃ヲ略、水平ニ托シ、保心筒ヲ裝シタル洗矢ノ洗管ニ布片ヲ卷キ、之ヲ腔中ニ入レタル後保心筒尾筒ニ裝シ徐、ニ洗矢ヲ進退シテ舊油ヲ清拭ス
 - 2 藥室掃除棒ノ先端割目ニ布片ヲ卷キ藥室內ノ舊油ヲ清拭ス
 - 3 含油(「スピンドル」油)布片ヲ洗管若クハ藥室掃除棒ニ卷キ腔中、藥室ニ塗油ス
- 三 射撃前後ノ手入ハ左ノ如ク行フ
- 1 射撃前ノ手入
 - イ 腔中及藥室ヲ丁寧ニ清拭ス
 - ロ 實包射撃前腔中ニ多量ニ塗油スルハ害アリ、特ニ寒地ニ於テ其ノ害多シ
 - ハ 腔中、藥室ハ特ニ嚴密ニ檢シ異物ノナキヲ確カムベシ
 - 2 射撃後ノ手入
 - イ 腔中洗滌液ニテ洗滌ス
 - ロ 布片ニテ清拭シ腔中油ヲ塗布ス
 - ハ 數時間乃至十數時間ノ後布片ニテ清拭ス
 - ニ 爾後腔中ノ状態ヲ考ヘ布片ノ汚ノナクナルマデ「イロハ」ヲ反復ス
 - ホ 布片ノ汚ガナクナレバ「スピンドル」油ヲ塗布ス
 - ヘ 腔中洗滌液ノナキトキハ腔中油ニテ拭淨ス
 - ト 爾後ノ手入ハ「ロハニ」ノ手入ニ準ズ

チ 腔中洗滌液、腔中油ナキトキハ「スピンドル」油ニテ洗滌ス
 リ 射撃後直チニ洗滌手入ヲ行フ餘裕ナキトキハ、稍、多量ニ腔中油ヲ塗布シ一時發錆ヲ防止シ機會ヲ得シ時十分手入ヲ行フベシ

第二節 水際ニ於ケル銃器使用上ノ注意

第三百三十九 水際ニ於ケル銃器使用上ノ注意左ノ如シ

- 一 兵器ニ海水附着セバ金屬部ハ錆ヲ生ジ、木製品、革製品、麻、綿、毛製品、「ゴム」製品ハ變質腐敗スルヲ以テ海水ニ浸サザル様努ムベシ
 - 二 潮風ハ海水ト同様ノ害ヲ及スモノナレバ海水ト同様ノ注意必要ナリ
 - 三 河水ハ海水ノ如ク大ナル害ハナキモ錆、變質、腐敗ノ原因トナル故注意スベシ
 - 四 鐵部ニハ稍、多量ニ「スピンドル」油ヲ塗布スベシ
 - 五 腔中ニハ「スピンドル」油ヲ稍、多量ニ塗布スルカ「ワセリン」又ハ「ペトロタム」ト「スピンドル」油トノ混合油ヲ塗布スルヲ可トス
- 然レドモ射撃ニ方リテハ之ヲ拭淨シ「スピンドル」油ヲ薄ク塗布スベシ
- 六 腔中、尾筒等ニ浸水スルヲ防グ爲尾筒、彈倉、裝填架、藥莢蹴出窓等ハ努メテ油紙ニテ包ミ銃覆、銃口蓋等ヲ裝スベシ

拳銃、擲彈筒等ハ油紙ニテ包ミ袋ニ收ムルヲ可トス

銃器ノ構造機能取扱 銃器使用上ノ注意

- 七 銃身ト銃床トノ接際部及さく杖室ニハ「ペトロタム」ト「バラフィン」トノ混合セルモノ又ハ密蠟等ニテ填塞スルヲ可トス
- 八 上陸作戦等ニ際シテハ銃器ノ木部ニハ稍、多量ニ亞麻仁油ヲ塗り置クヲ可トス
- 九 上陸後ハ成ルベク速カニ各部特ニ銃尾機關ヲ分解シ、水分ヲ十分除去シタル後稍、多量ニ塗油スベシ海水ニ浸リタルモノハ爾後數日間本手入ヲ復行スルコト必要ナリ
- 十 情況上浸水後直チニ分解手入ヲ行ヒ得ザル場合ニ於テモ腔中ノ水分ハ努メテ速カニ除去スルヲ要ス
- 十一 銃覆、銃床等ニ附著セル鹽分ハ金屬ヲ發錆セシムル故此等モ洗滌又ハ拭淨シ乾燥セシムルコト必要ナリ

第三節 炎熱地ニ於ケル銃器使用上ノ注意

第四百十 炎熱地ニ於ケル銃器使用上ノ注意左ノ如シ

- 一 晝ト夜及日向ト日蔭トノ溫度ノ差大ニシテ濕度ノ高キトキハ金屬部ハ錆ヲ生ジ、革製品、綿、毛製品ハ發黴、變質シ其ノ害極メテ大ナル故不斷ノ注意ヲ必要トス
- 二 兵器ハ人馬ノ汗ノ爲ニ錆ヲ生ジ又變質スルコト多キヲ以テ使用間又ハ使用後ノ手入ヲ十分ニスルコト必要ナリ
- 三 高溫ノ爲油類ハ流出シテ鐵部ニ錆ヲ生ジ易ク又防擦油ノ粘度低下シテ摩擦部ニ燒付ヲ生ジヤスキ故塗油ノ回数ヲ増加スルコト必要ナリ
- 四 降雨又ハ水洗後炎熱ノ爲ニ錆ヲ生ズルコト速カナル故事後ノ手入ヲ十分ニスルコト必要ナリ
- 五 銃尾機關防擦ノ爲「スピンドル」油ノ效果十分ナラザル場合ニハ「マシン」油「ダイナモ」油又ハ茶種油、白絞油等

粘度ノ大ナルモノヲ使用スルヲ可トス

- 六 塗油ノ流下ヲ防止スル爲必要以外ノ時ハ銃ヲ水平ニ靜置スルヲ可トス
- 七 氣温ノ上昇ニツレ一般ニ銃尾機關ノ運動ハ圓滑トナル故規整子ハ機能ニ支障ナキ限り小分畫ニ改ムベシ
- 八 日光ノ直射ニ依リ銃床ハ屈曲、反リ等ヲ生ズル故努メテ銃覆ニテ覆フカ又ハ日蔭ニ置クベシ
銃床等木部ノ乾燥ヲ防グ爲亞麻仁油ヲ塗布スルヲ可トス
- 九 銃身ト銃床トノ間隙ニ「ペトロタム」ト「バラフィン」トノ混合物ヲ填塞スルトキハ高溫ノ爲流下シテ射擊操作ニ不便ヲ與フルヲ以テ密蠟ノ如キ溶融點ノ高キモノヲ用フルヲ可トス
- 十 各種油入ノ口栓ハ特ニ確實ニ密塞シテ油ノ浸出ヲ防グコト必要ナリ

第四節 極寒地ニ於ケル銃器使用上ノ注意

第四百十一 極寒地ニ於ケル銃器使用上ノ注意左ノ如シ

- 一 「スピンドル」油ノ塗油多キトキハ零下二〇度ニ於テ塗油凍結シ不發ヲ生ズルニ至ル
塗油ヲ拭除セバ多クノ場合射擊ヲナスコトヲ得
- 二 射擊ノ前ニハ遊底、活塞ノ進退圓滑ナルコトヲ確ムルヲ要ス
要シ圓滑ナラザルトキハ槓桿ヲ以テ速カニ活塞、遊底ノ進退ヲ連續行ヒ活塞ノ進退ガ擊發シ得ル程度ニ圓滑ニナルマデ之ヲ反復ス
- 三 ばね類殊ニ復座ばね、擊莖ばね等ハ衰損セザル強力ノモノヲ用フルヲ可トス

銃器ノ構造機能取扱 銃器使用上ノ注意

- 四 射撃スル場合ニハ外部ノ塗油ハ必要ナキモ内部ノ油ハ必ズ射撃直前ニ舊油ヲ清拭シ新シク塗油スルヲ要ス
- 五 連發ハ不可能ナルモ單發シ得ル場合ハ數發單發ヲナスコトニヨリ遊底附近加熱セラレ遂ニ連發シ得ルコトアリ
- 六 活塞ハ十分後退スルモ蹴子室ノ塗油凝固シ藥莖蹴出不良ヲ生ジテ連發セザルコトアリ
- 七 油入刷毛ノ凍結ニヨリ保彈板ノ運動ヲ阻害シ連發不能ナル場合アリ(重機)
- 八 送彈機部ノ塗油凝固シテ連發不能ナル場合アリ
- 九 連發不能ノ場合ヲ考ヘ「ガス」漏孔ハ常時使用ノモノヨリ孔徑ノ一段大ナルモノヲ用フルヲ可トスルコトアリ
- 十 圓筒ノ前進十分ナルモ圓筒頭部ノ擊莖孔ノ油凝固シテ同孔ヲ塞ギ不發ヲ生ズルコトアリ
- 十一 室外ニ於テ冷却セル銃ヲ其ノ儘溫暖ナル室内ニ入ルルトキハ金屬面ニ露ヲ結ビ次デ機關部ニ流下シ室外ニ出ストキ凍結シテ機能ヲ害スルコトアリ
- 室内ニ入レシ時ハ露ヲ生ズル前ニ十分連續拭淨スルヲ要ス
- 十二 野外ニ於ケル保溫處置トシテ毛布、外套又ハ天幕等ヲ以テ包覆スルヲ可トス
- 十三 機關銃ヲ零下二〇度以下ニ於テ使用スルトキハ潤滑油トシテ耐寒性「スピンドル」油ヲ使用スベシ
- 十四 「ベトロラタム」ハ極寒時固結シ之ガ除去ニ困難ヲ生ズル故極寒時ハ「ワセリン」ト塗り替ヘ置クヲ可トス
- 十五 鋼製品ハ零下三〇度以下ニ於テ著シク抗力ヲ減ズル故擊莖、ばね類等ハ必要以外ニ力ヲ加フルコトハ不可ナリ

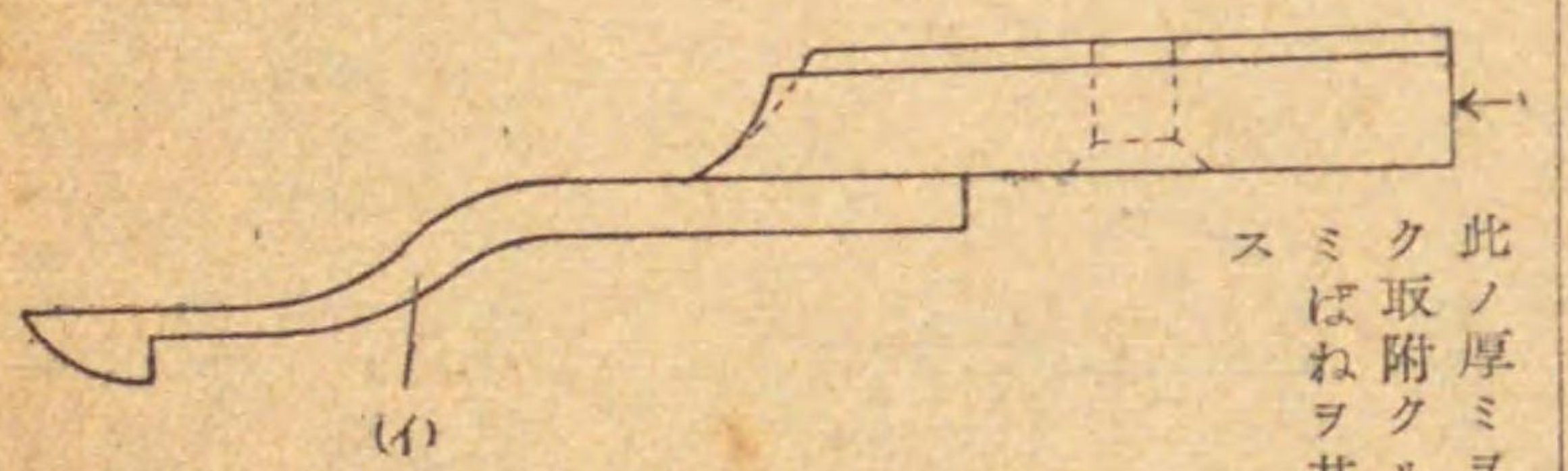
第四篇 銃器ノ修理


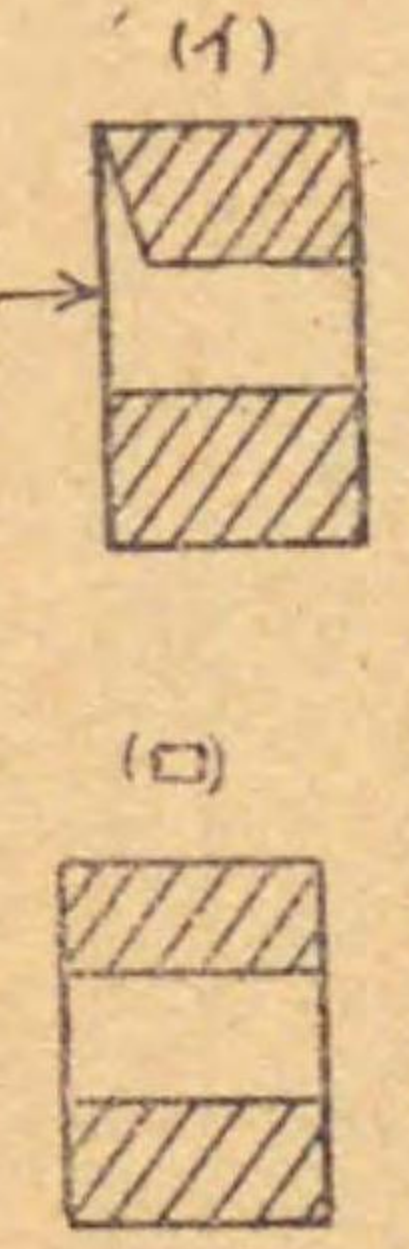
第一章 刀 劍


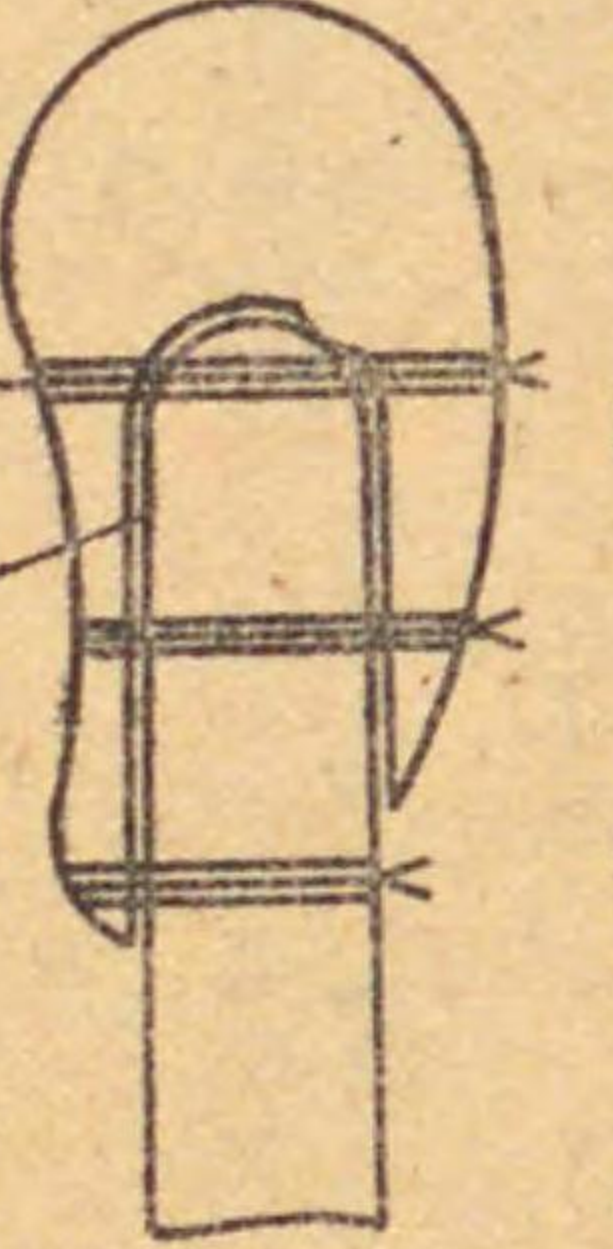
第一節 三十二年式軍刀

第四百二十二 三十二年式軍刀ノ検査法及修理法左ノ如シ

故障區分	原 因	檢 査 法	修 理 法
刀身ノ駐不定	駐爪ばね折損	目 視	此ノ厚ミヲ交換下品ノ寸法ヨリ稍、厚クシ其ノつか室ニ堅ク取附ケルマデ漸次削ルベシ之ガ爲なごヲつか木ニ挿込ミばねヲ其ノ室ニ入レ時々點檢シテ厚ミヲ決定スルヲ可トス



刀身ノ駐不定不良	
駐爪ばね衰損	指頭ヲ以テ押シテ元ニ戻ル狀況ヲ見ル
駐爪ばね又ハ鯉口ノ鉤部磨損	ばねヲ壓セズシテ抜刀シ得ルモノハ不可ナリ
<p>一</p>  <p>此ノ面ヲ削リ直角ニシタル後前回ノ(イ)ノ部分變曲セシム</p> <p>二</p>  <p>鯉口ノ磨損セルモノノ中輕度ノモノ</p> <p>此ノ面ヲ削リ(ロ)ノ如ク磨損部ヲ削リ落ス 鯉口ノ磨損甚シキモノハ交換ス</p>	<p>ばねヲつかヨリ分解シ燒鈍ノ上原形ニ修正シタル後燒入ス 油燒入辰 燒入溫度八〇〇度 燒房溫度</p> <p>應急修理 駐爪ばねヲ屈曲セシム</p>

こじりノ衰損	
取扱不良目	視
<p>一 修理</p> <p>とこのヲ塗リテ鐵ノ熔クルヲ防グヲ可トス</p>  <p>磨損ノ部分ヲ削リ圖ノ如ク蟻室ヲ作り下圖ノ如キ附金ヲナシ其ノ部ニ鐵附作業ヲ行ヒタル後仕上ヲナス</p> <p>二 交換</p> <p>熱熔シタル後舊こじリヲ離脱ス</p> <p>圖ノ如ク新こじリヲ装着セル後黃銅線ヲ以テ縛着ス</p> <p>3 鐵附作業ヲ行ヒタル後仕上ヲナス</p> <p>4 鐵附ノ代リニ熔接作業ヲセバ有利ナリ</p>  <p>紐鐵線 黃銅線(徑二・三耗)</p>	<p>二一九</p>

第二節 三十年式銃劍

第四百三十三 三十年式銃劍ノ検査法及修理法左ノ如シ

銃器ノ修理 刀劍

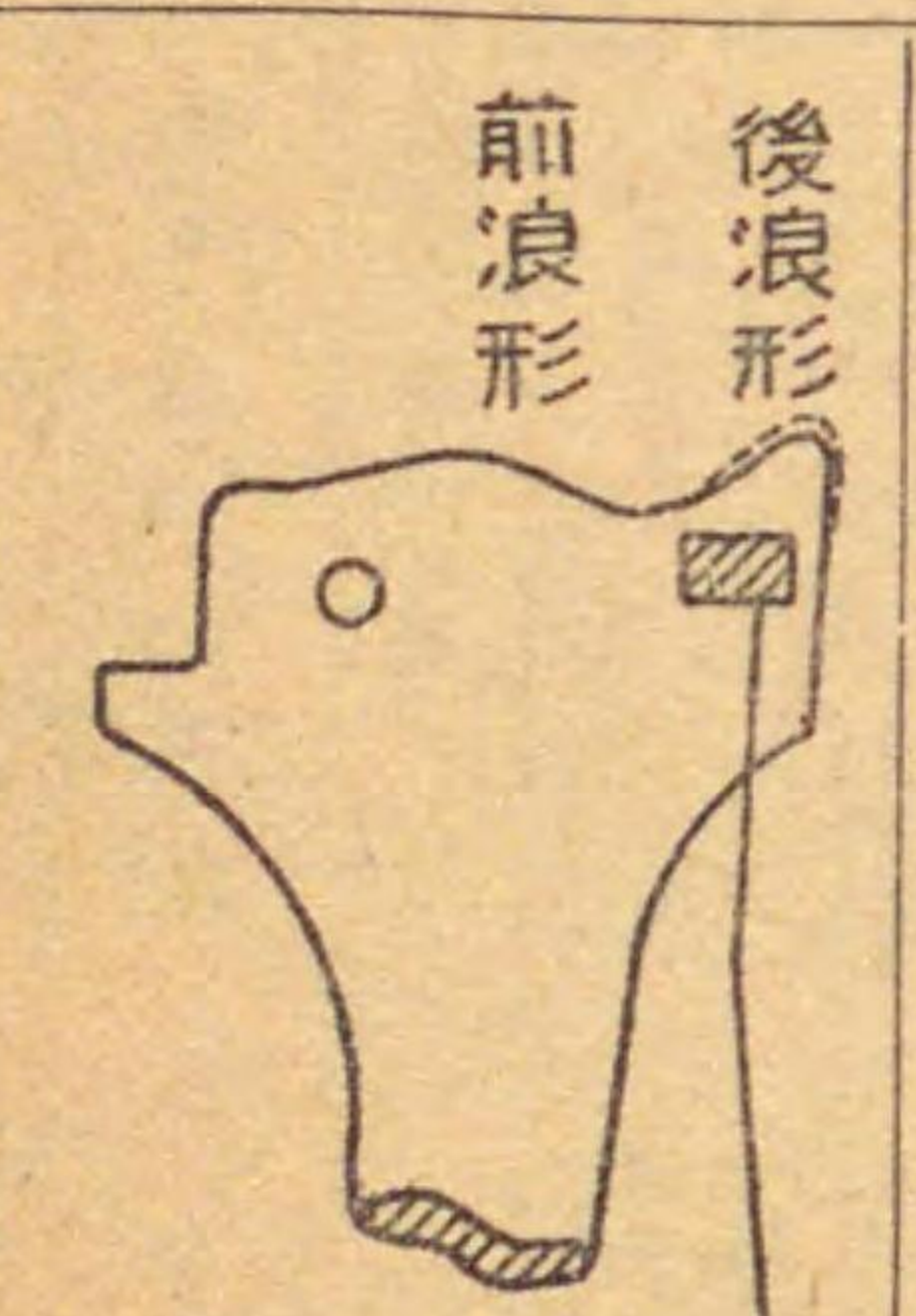
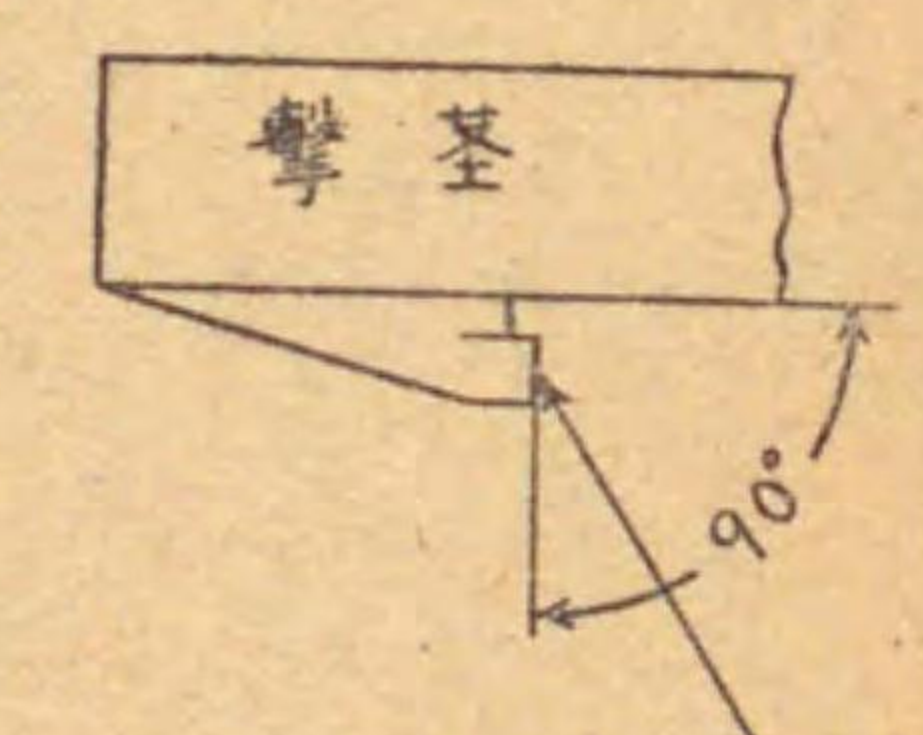
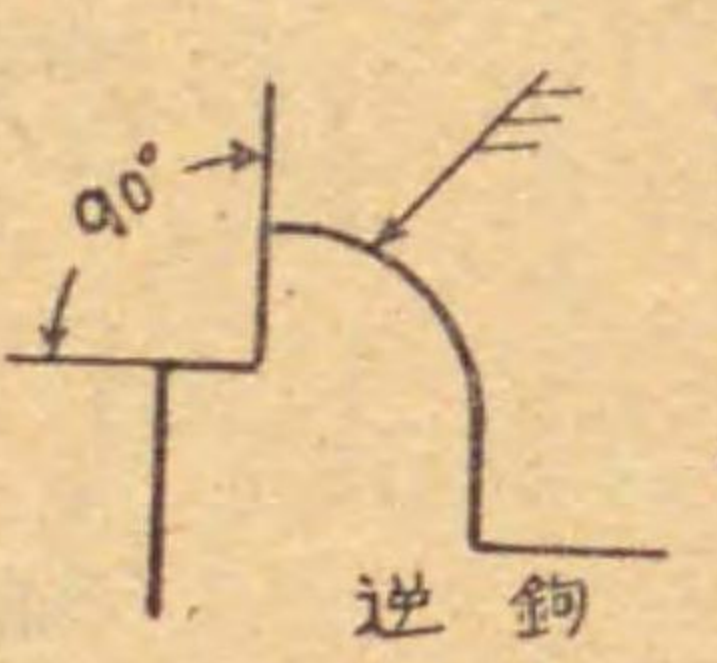
故障區分	原	因	檢	査	法	修	理	法
損	衰	止	や	さ				
		ばね力ノ衰損						
					さやヨリ血溝ノ見ユルマデ劍身ヲ抜キさやノ下部ヲ握リつかヲ下ニシテ輕ク振ル時容易ニ抽脱スルモノハ不可ナリ			
						一 修理 此ノ部ヲやつとこニ依リ(又ハ眞金ヲ装シ仕上樋ニテ輕打)矯正シ劍身ヲ裝シテ其ノ抗力ヲ檢シタル後さやニ嵌入スベシ極度ニばね力衰損セルモノハ油焼入ヲ施ス 注意 矯正ノ際さや止ヲ過度ニ變形セシメザルコト		
						二 交換 1 ばね力十分ナルモノヲ選定シ此ノ面ヲ削リさやニ適合セシム 2 さやニ嵌裝セル後三耗小ねじ孔ヲ穿孔ス 注意 (1)ノ作業ニ於テ側面ヲ削ルトキハ兩面ヲ平等ニ削ルコト		
								眞金

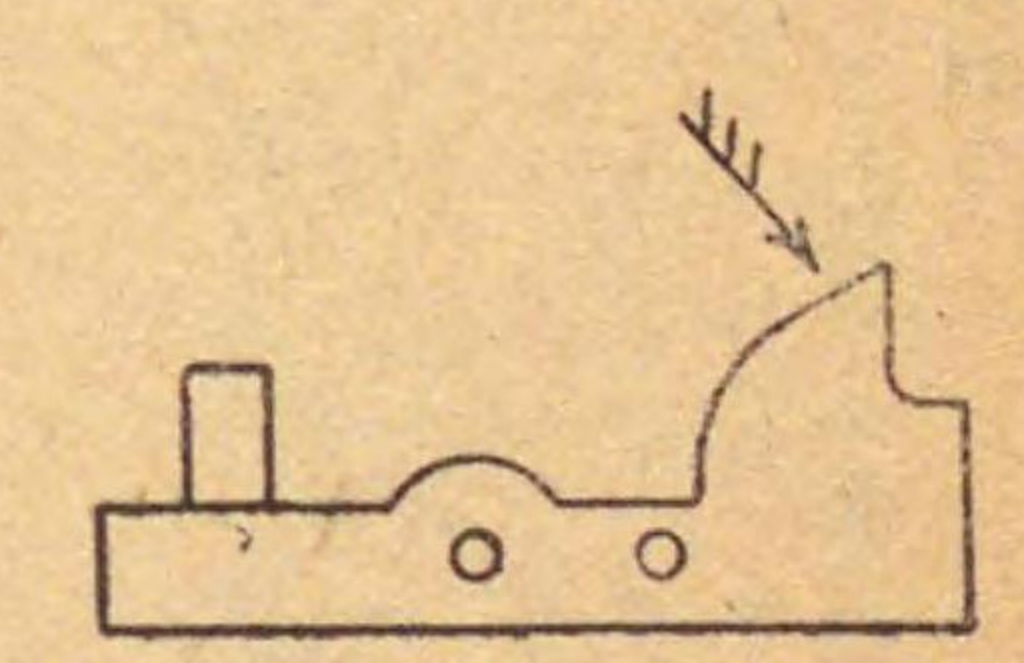
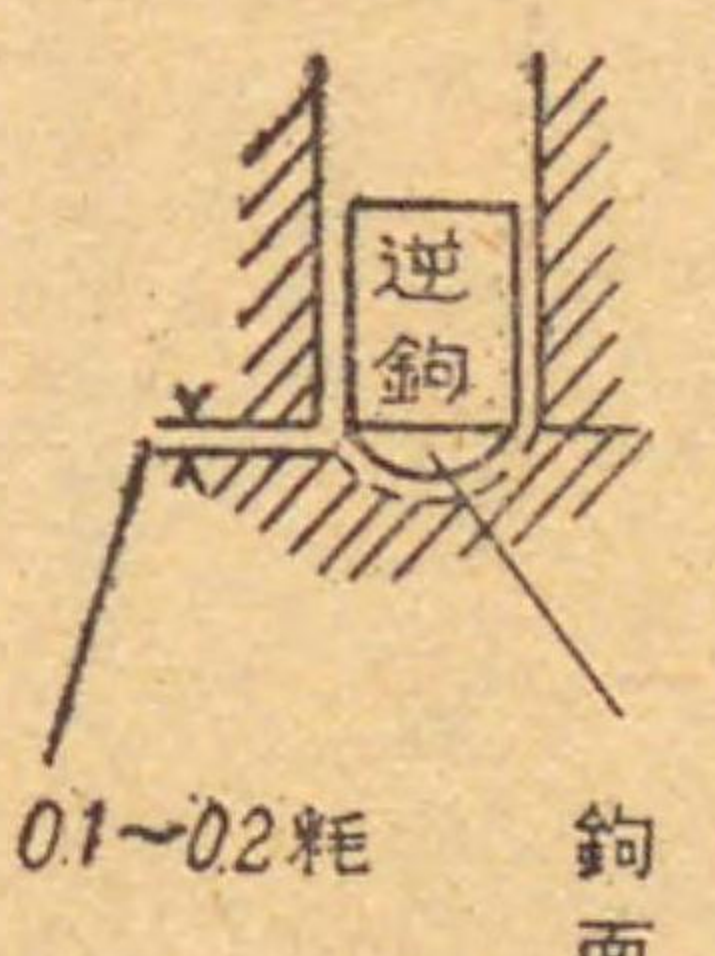
第二章 小銃

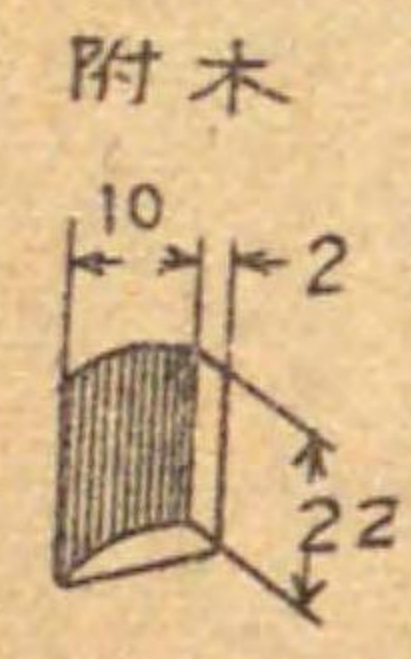
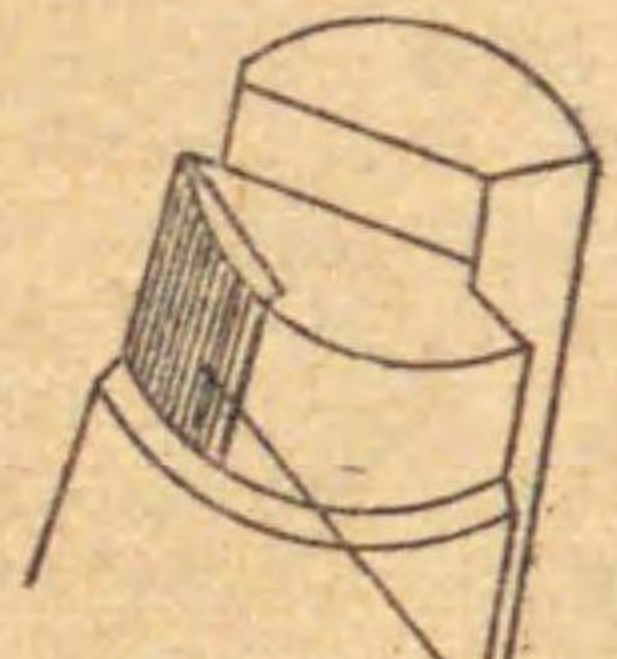
第一百四十四 小銃ノ検査法及修理法左ノ如シ

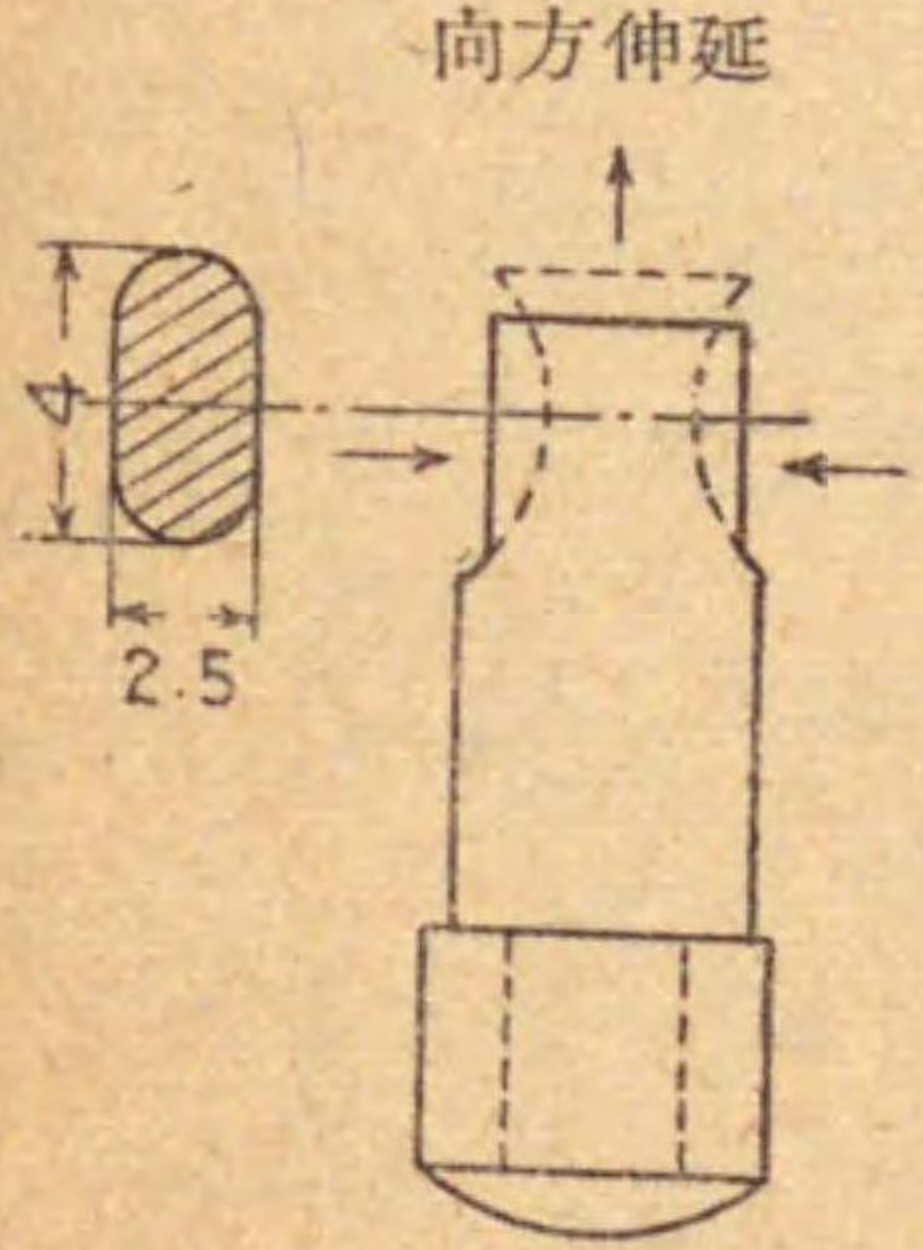

故障區分	原	因	檢	査	法	修	理	法
合	具	不	能	機	全	安		
		安全子突筈又ハ尾筒ノ溝部ノ反起打痕			安全裝置ヲナサントスルモ安全子ノ旋回不十分ナルモノハ不可ナリ			
						一 凸筈ノ修理 隅角部ニ打痕又ハ反起アルモノハ僅カニ削リテ修正ス 注意 削リ過ギテ小クセザルコト		
						二 尾筒溝部修理 此ノ部ニ反起、打痕アルモノハ削リ取ルベシ		
						一 安全子ノ交換 要スレバ前項ノ(一)ニ準ジテ修正ス		
						二 尾筒ノ溝ノ修理 前項ノ(二)ト同ジ		

銃器ノ修理 小銃

(落 早)		落	弱
兩浪形ノ過高	後浪形ノ磨損		擊莖ノ磨損又ハ逆鉤頭ノ磨損
<p>引金検査器ヲ使用セルトキ抗力三・五瓦以下ナルトキ 早落ハ引金抗力ハ三・五瓦以上アルモ僅カ引金ヲ引キタルトキ擊莖ノ弱落ト同ジ</p>			
前浪形ヲ僅カニ削ル	<p>後浪形 前浪形</p>  <p>燒鈍セル後此ノ部ヲ丸たがね等ニシテ點線ノ如ク増肉シ燒入ヲ爲ス 燒戻(金黃色)</p>	<p>一 擊莖ノ擊發段ノ磨損 此ノ面ヲ油砥ヲ以テ研磨シテ擊莖ニ對シ直角ニナス</p>  <p>二 逆鉤頭ノ磨損 燒鈍セル後圖ノ如ク矢ノ方向ヨリ槌打修正シ油燒入ス</p> 	

合 具 不 能 機 全 安	
安全子凸筒ノ磨損	逆鉤面ノ磨損又ハ軸孔ノ開大
安全裝置ヲナシ得ルモ槓桿ヲ動カストキ過度ニ動搖スルハ不可ナリ	安全裝置ヲナサントスルモ安全子ノ旋回セザルモノハ不可ナリ (安全裝置不能)
安全子ヲ交換ス要領ハ前ニ同ジ	<p>1 逆鉤ヲ燒鈍セル後矢ノ方向ヨリ槌打成形シ燒入ス</p>  <p>2 軸孔ノ開大セルモノハ軸ヲ交換スルカ若クハ逆鉤ヲ交換ス 註 逆鉤後面ハ圖示ノ如ク尾筒ノ後面ヨリ若干後退シアルヲ要ス</p>  <p>01~02耗 鈎面</p>

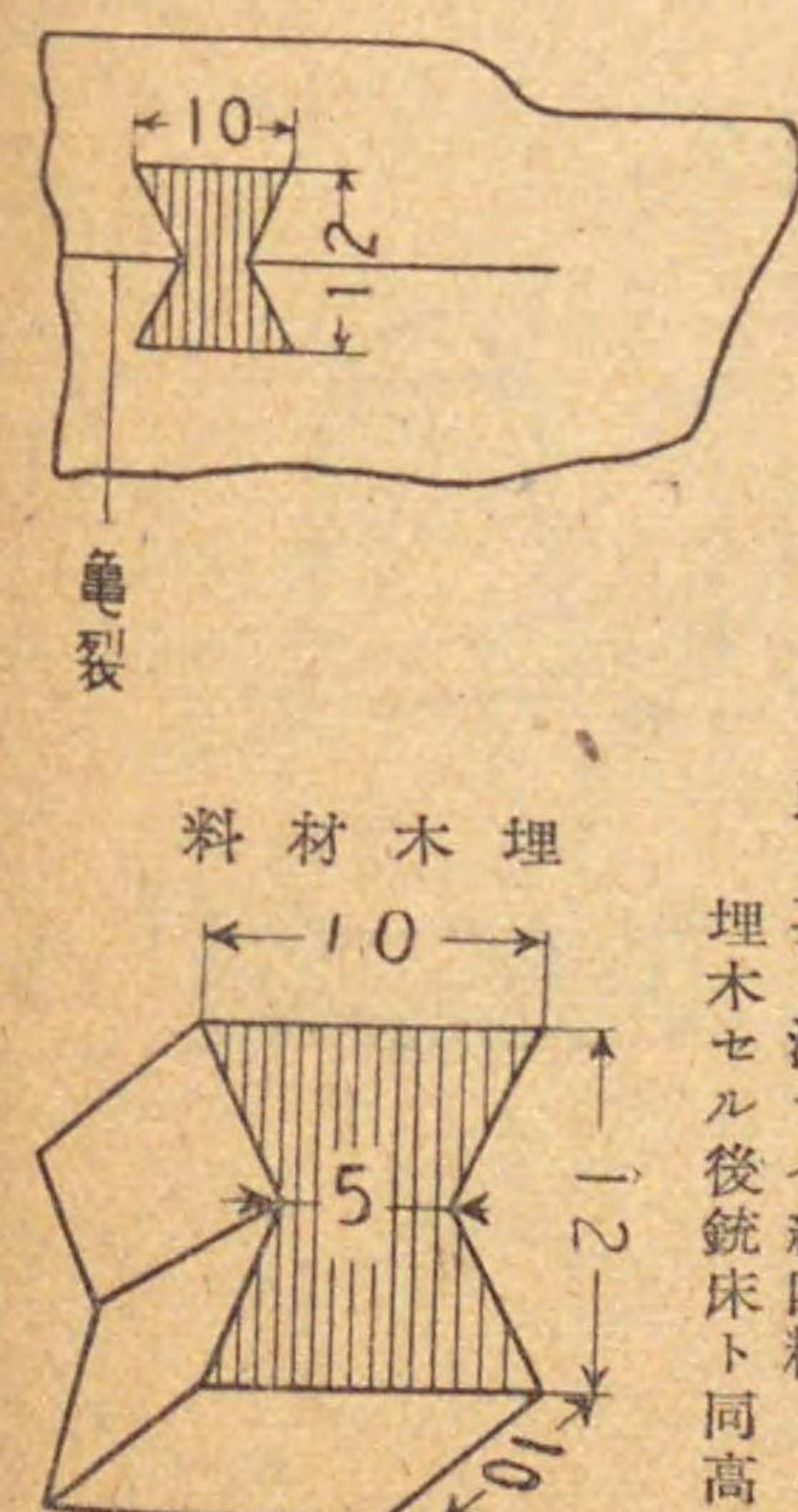
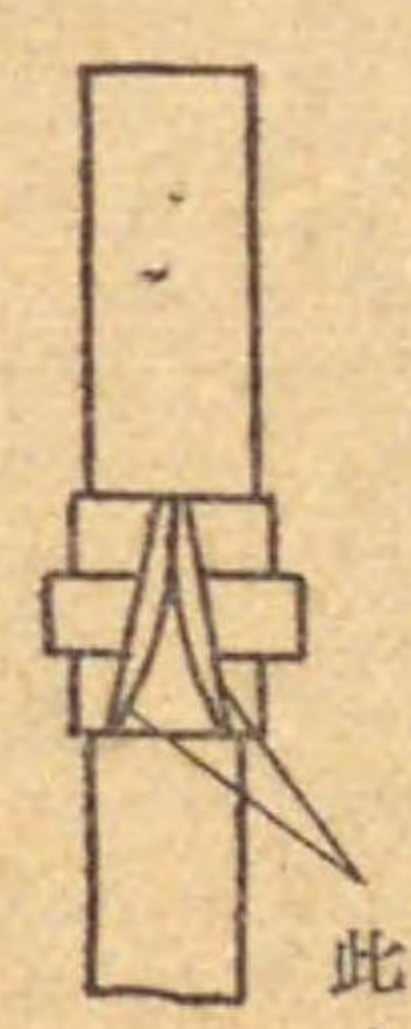
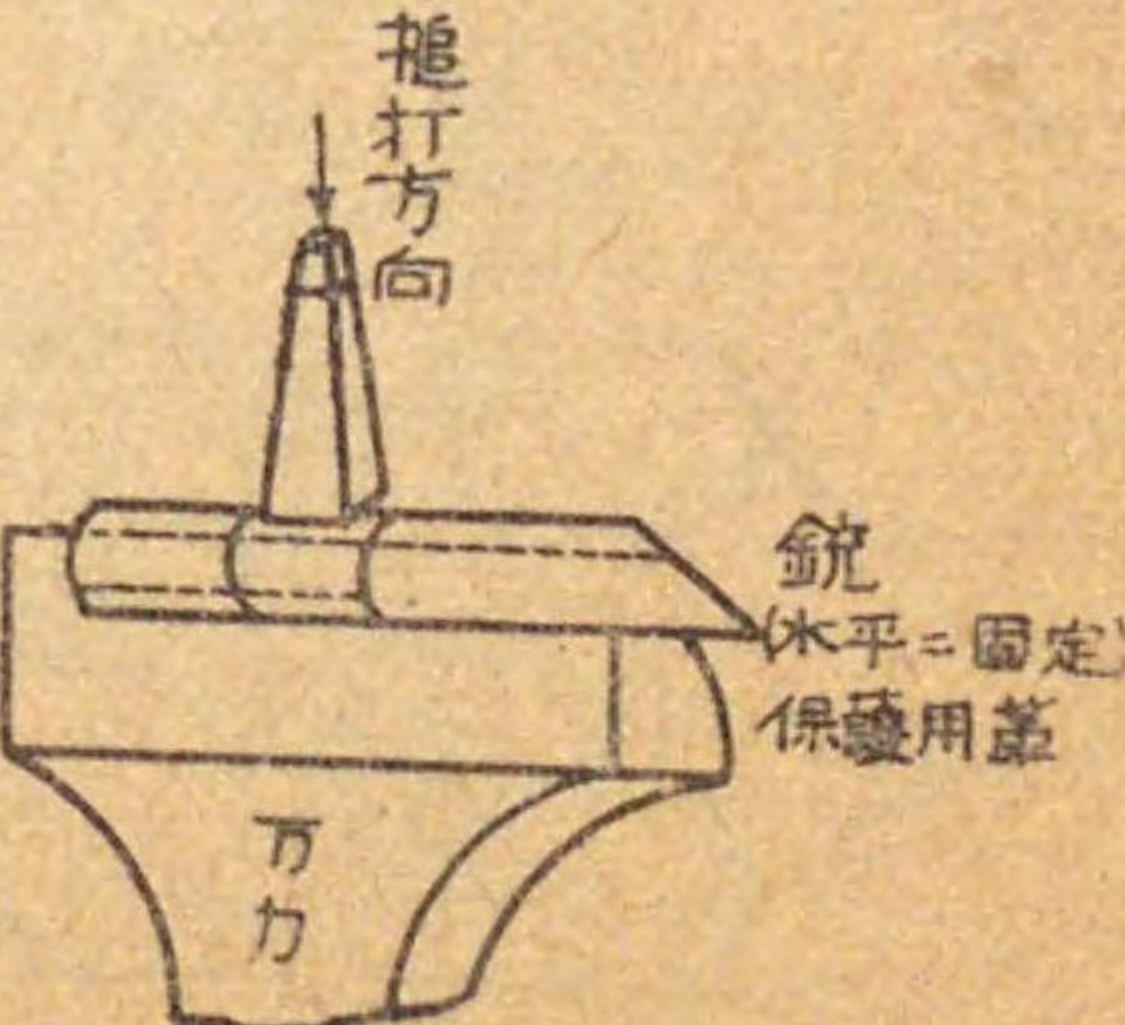
良	不	中	命	落	強	ら	ぶ	引
			上 帶 動 搖		逆 鉤 頭 及 擊 發 段 ノ 變 形	逆 鉤 ば ね 衰 (折、損)	逆 鉤 ト 同 室 ノ 軋 リ	逆 鉤 頭 及 擊 發 段 ノ 磨 滅 變 形
			左手ニテ銃ヲ握リ右手ニテ上帶ヲ動カストキ左右一耗上下〇・五耗以上動搖スルハ不可ナリ		引金検査器ヲ使用シ検査スルトキ引金ノ抗力四五珎以上ハ不可ナリ		第一段ヲ引キ指ヲ放ス時引金が完全ニ舊位ニ復セズブラ／＼スルハ不可ナリ	
			 附木  圖示ノ位置ニ附木ヲナシ約〇・五耗高クス 注意 上帶動搖ニ於テ上帶ヲ槌打變形スルハ不可ナリ		弱落ノ部(一)ニ準ズ	ばねヲ交換ス	主トシテ逆鉤室ノ反起ナルヲ以テ之ヲ削ル	弱落ノ部(一)ニ同ジ

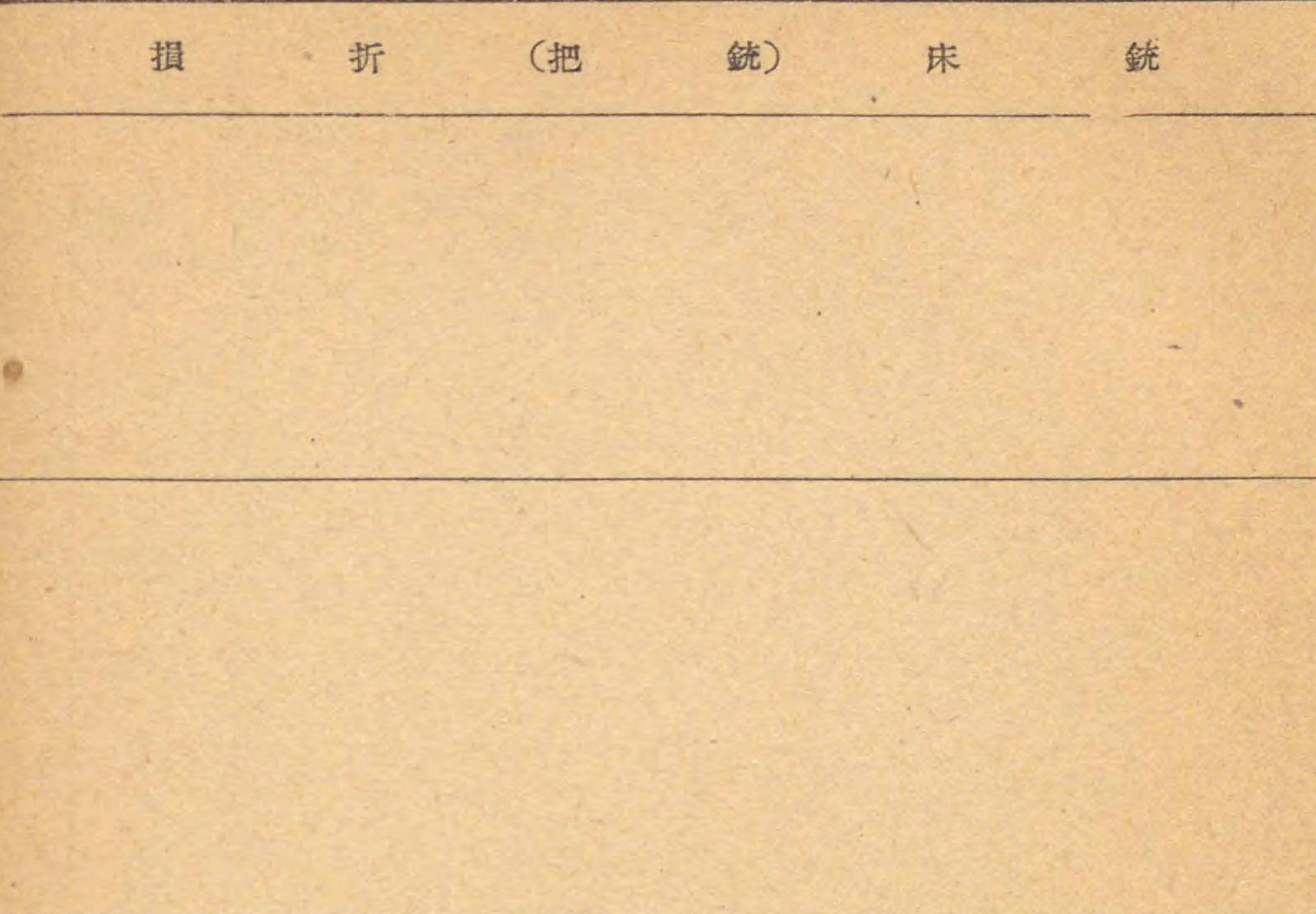
落	鎖	閉	半	落	段	一	落	二
			一 避 害 子 ノ 變 形 二 避 害 子 ノ 磨 損		逆 鉤 頭 及 擊 發 段 ノ 磨 損 又 ハ 變 形	後 浪 形 ノ 過 低	逆 鉤 頭 磨 損 變 形 擊 發 段 ノ 磨 損	逆 鉤 頭 磨 損 變 形 擊 發 段 ノ 磨 損
			擊發装置ニシテ槓桿ヲ約四耗扛起シテ擊發シ得ルモノハ不可ナリ		第二段ヲ感ゼズ擊發スルモノハ不可ナリ		遊底閉鎖ト同時ニ擊發スルモノハ不可ナリ	
			 向方伸延 一 修理 槌打 圖ニ示ス如ク槌打シテ延伸又ハ修正ス 二 交換 銃頭ヲ削リ抽脱交換セル後銃着ス 注意 避害子、引金ヲ引カザル時尾筒内面ト同高ナルカ或ハ少シク低キヲ可トス		 弱落ノ部(一)ニ同ジ 弱落ノ部(一)ニ同ジ 弱落ノ部(一)ニ同ジ 燒鈍セル後此ノ部ヲ丸たがね等ニテ點線ノ如ク増肉シタル後燒入燒辰(金黃色)ス 注意 軸孔ヲ變形セルモノハえぐリヲ以テ修正ス		弱落ノ部(一)ニ同ジ	弱落ノ部(一)ニ同ジ

良	不	中	命
	照星ノ偏位及照星高ノ不適當		遊標ノ裏面抱合部ノ開大ニ因ル遊標ノ動搖
	彈著左右上下ニ偏セザルヤ	目視 間隙ナキヤ	
	<p>一 左右ノ修正 彈著右(左)ニ偏スルモノハ照星ヲ右(左)ニ移セシム彈著移動量ハ射距離三〇〇米ニ於テ歩兵銃ハ〇・一耗ニ對シ約四糎、三八式騎銃ハ約八糎、四四式騎銃ハ約九糎修正シ得</p> <p>二 上下ノ修正 彈著高(低)キモノハ照星ヲ高(低)キモノト交換ス其ノ修正量ハ前項ニ同ジ</p> <p>三 照星ノ交換 1 舊照星ノ離脱 銃口ニ向ヒテ右ヨリ左ニ槌打分解ス</p> <p>2 照星結合部修正上方ヨリ槌打シテ反起等ヲ修正ス</p> <p>3 新照星ノ裝著 銃口ニ向ヒテ左ヨリ右ニ槌打結合ス</p>	表尺ニ遊標ヲ裝シタル儘平ナル臺上ニ置キへしたかねヲ以テ槌打修正ス	

良	不	中	命
	遊標ノ爪ノ磨損ニ因ル遊標ノ動搖	尾筒小ねじ緩ミ	下帶動搖
		ねじ回ニヨリ締メテ檢ス	左手ニテ銃ヲ握リ右手ニテ下帶ヲ動カストキ左右ニ耗上一耗以上動搖スルモノハ不可ナリ
			<p>木被ニ附木ヲナシ約〇・五耗高クス</p> <p>溝ヲ作ル 膠着ス やすり仕上ス</p> <p>注意 下帶動搖ニ於テ下帶ヲ槌打シ變形スルハ不可ナリ</p> <p>各小ねじヲ交互ニ緊定ス</p> <p> </p>

損折 (把銃) 床銃
<p>一 自然衰損 (射撃ノ衝力ニヨル)</p> <p>二 取扱粗暴</p>
<p>目視</p> <p>主トシテ銃把部ガ折損ス</p>
<p>銃床ヲ交換ス</p> <p>一 床尾板ヲ結合ス</p> <p>二 此ノ間隙ハ約〇・五耗トス</p> <p>然ラザレバ龜裂ヲ生ズルコトアリ</p> <p>銃床</p> <p>床尾板</p> <p>三 床尾負革止ヲ長短木ねじヲ誤ラザル如ク結合ス</p> <p>四 上帯ばねヲ結合ス</p> <p>五 ばね座ハ木部ト同高或ハ若干低下シアルヲ要ス</p> <p>六 中間部ニテ軋リヲ生ジばねノ上半分ノミ作用スルハ不良ナリ</p> <p>七 尾筒受金及尾筒管ヲ各同室ニ挿入シ受金ハ「リーマー」ニテいばリヲ取ル</p> <p>八 木被止金ヲ整形シ木被止ヲ裝ス</p> <p>九 銃身ヲ左ノ要領ニヨリ銃床ニ安頓セシム</p> <p>一〇 上帯ばね室附近ノ内面ヲ小かなニヨリ削ル</p> <p>一一 銃身後端部ノ當リヲ取ル此ノ際銃身ガ左右ニ片寄ラザルコト</p> <p>一二 遊底止ノ當ル部分ヲ僅力削ル</p> <p>一三 銃身、上支鐵ヲ共ニ銃床ニ取附ケ當リヲ取ル</p> <p>一四 用心金及彈倉ノ取附</p> <p>一五 前方ノ圓弧部及兩側ニハ若干ノ間隙アルヲ可トス</p> <p>一六 下支鐵ノ取附</p>

裂龜床銃	良不中命
<p>取扱不良</p>	
<p>目視</p>	
<p>龜裂部ノ端末附近ニ埋木ヲ施ス</p> <p>此ノ孔ノ深サハ約四耗</p> <p>埋木セル後銃床ト同高マデ削ル</p> <p>料材木埋</p>  <p>龜裂</p>	<p>4 命中試験</p> <p>正照準ニ導クマデ照星ヲ移動</p> <p>又ハ交換ス</p> <p>5 照星位置標示</p> <p>6 照星脚ノ仕上</p> <p>脚ノ兩側ヲ削リ座ト平等ニ仕上グ</p> <p>此ノ線ニ沿ヒけがき針ニテ標線ヲ引ク</p>  <p>此ノ線ニ沿ヒけがき針ニテ標線ヲ引ク</p>  <p>銃</p> <p>水平=固定</p> <p>保強用蓋</p> <p>力</p>



十一 ねじヲ緊定シ圖ノ如キ検査器ニヨリ銃身ノ安頓ヲ檢ス上帶附近ハ約〇・八耗マデノ間隙ヲ許スモ表尺ノ前方ニ於テハ間隙ナキヲ要ス

十二 次ニ尾筒長短小ねじヲ螺脱シ支鐵小ねじヲ支點トシテ銃口ヲ僅ニ持テ上ゲ靜カニ下ス時軌ルコトナキヲ要ス

十三 ねじヲ改メテ十分緊定ス

注意

- 1 鐵部ハ木部ヨリ〇・五耗低下シアルコト
- 2 木部ノ削面ニハ漆ヲ塗布スベシ

密着セシム
 〇五耗以上ノ間隙ハ不可ナリ
 誤テ密着スルトハ銃把ニ亀裂ヲ生ジ易シ

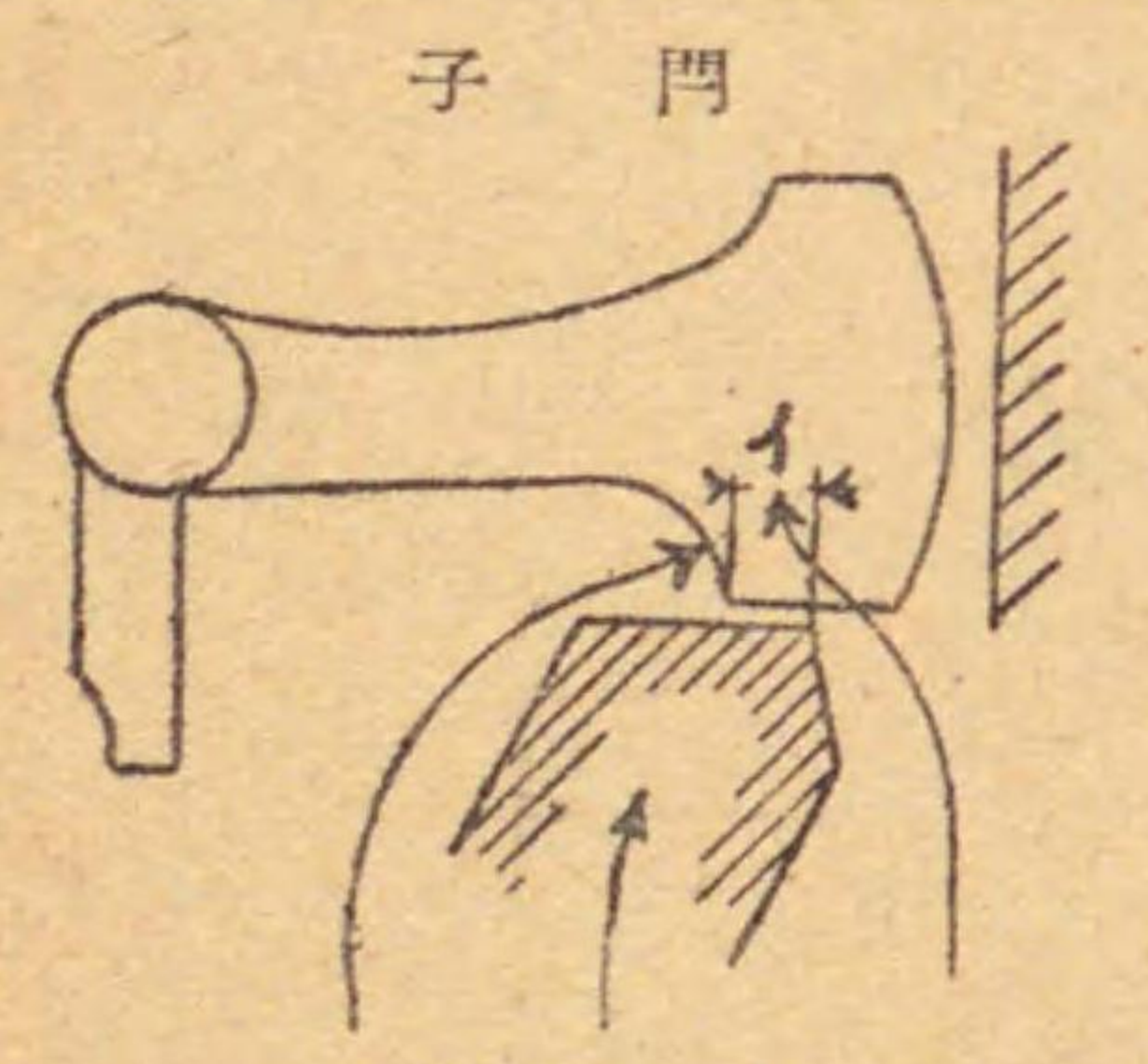
上支銃

第三章 拳銃

第一節 十四年式拳銃

第四百十五 十四式拳銃ノ検査法及修理法左ノ如シ

故障區分		原 因	檢 査 法	修 理 法
後	座	復座ばね過強 門子下方突起ノ過長 又ハ打痕反起	結合子ヲ握リ銃身ヲ後退セル時ノ手感ニ依ル	復座ばねヲ交換ス 左右平等ノ強サナルコトニ注意スベシ
不	良	圓筒ノ軋リ		軋痕ヲ研磨修正ス



鉤部量 (イノ寸法ハ一・六一一・七耗ヲ適當トス)

銃 床 (鉤部量過大ナルモノハ此ノ面ヲ削リ修正ス)

修正部位

銃器ノ修理 拳銃

良	不	筒	抽
			一 抽筒子缺損 二 抽筒子ノばね性 衰損
			目視 擬製彈ニヨリ檢ス
部品交換 一 ①ノ面ヲ削リ圓筒ノ室ニ稍、 堅ク入り得ル如クス 二 ②ノ幅廣クシテ圓筒ニ軋ルモ ノハ削ル 三 ③ノ凸筒ハ通常過長ナルヲ以 テ削ル 四 圓筒ニ挿入セル後④ノ面ヲ削 リ圓筒ノ上面ト等齊ニス			

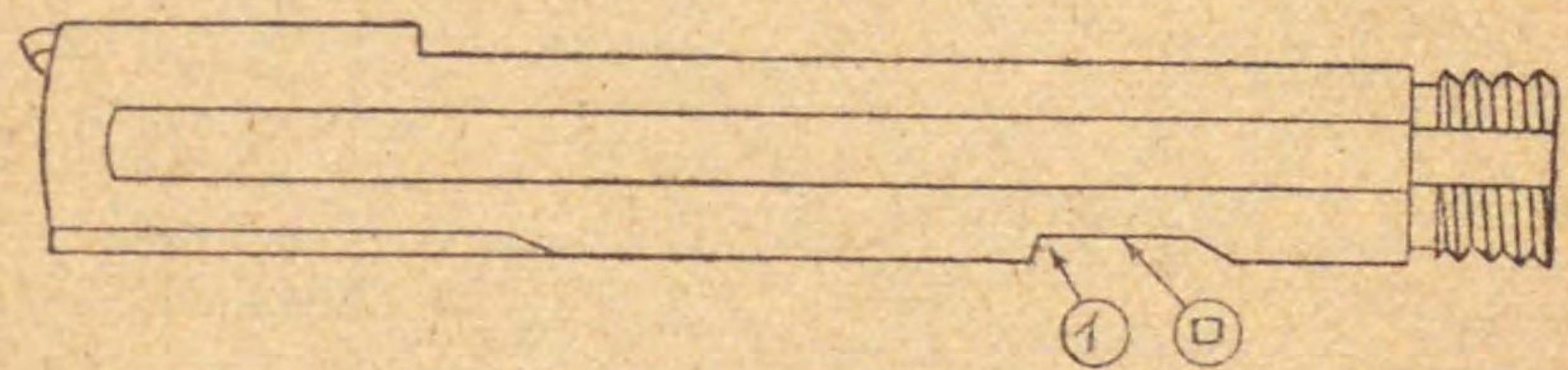
良	不	座	復
門子ばねノ落失		門子上方突起ノ過長 又ハ反起打痕	圓筒ノ軋リ 擊莖ばね過強
			復座ばね衰損 結合子ヲ握リ銃身ヲ後退 セシムル時ノ手感ニ依ル カ靜カニ復舊スル時確實 ニ復座スルヤ否ヤヲ檢ス 二、三耗復坐不足スルモ ノハ不可ナリ
			復座ばね強キモノト交換ス 左右平等ノ強サナルコトニ注意スベシ 擊莖ばね弱キモノト交換ス 軋痕ヲ研磨修正ス
			此ノ部ニ打痕反起アルモノハ除去ス 寸法過長ナルモノハ此ノ部ヲ削ル
門子ばねヲ補充ス			

良	不	筒	抽
			藥室ノ不良
			目視
			<p>一 輕度ノ疵ハ「リーマー」ニテ除去ス 程度大ナルモノハ銃身ヲ交換ス</p> <p>二 ①ノ準梁ヲ削リ銃床ニ圓滑ニ且ツ動搖ナク挿入セシム</p> <p>三 用心鐵ヲ裝セルトキ②ノ面ハ銃床及用心鐵ト共ニ平面ナルベシ</p> <p>四 ③部ニ「メテ」ヲ塗り安全栓トノ當リヲ削リ稍、堅ク安全栓ヲ操作シ得ル如ク④部ヲ圓削ス</p> <p>五 ⑤部ト引鐵鉤板トノ當リアルモノハ引鐵鉤板ヲ削ル</p>

良	不	筒	蹴
			蹴子變形
			目視
			<p>二 後座不足</p> <p>後座不良ノ項ニ同ジ</p> <p> </p> <p> 一 ①ノ準梁ヲ削リ銃身ニ稍堅ク結合セシム 二 ②ノ側面ガ圓筒ニ軌ルモノハ側面ヲ削ル 三 ③ノ位置ニ目打ヲ施ス 四 ④試射ヲ行ヒ長サヲ決定ス此ノ際藥莢ハ頭上ヲ後方ニ跳飛スルヲ要ス </p>

圓筒龜裂

自然衰損



部品交換

- 一 銃身ニ挿入シ當ルモノハ其ノ部ヲ修正ス
- 二 門子ヲ結合シ圓筒ノ④面ト密著スル如ク摺合セス銃全體ヲ結合セルトキ密著スルヲ要ス特ニ④面トハ微動ヲモ許サズ此部ニ間隙アレバ門子龜裂ヲ頻發ス
- 三 擊莖ヲ結合シテ軌リヲ修正ス
- 四 抽筒子ヲ結合ス(抽筒子ノ交換要領ニ準ズ)
- 五 結合子ヲ結合ス(結合子ノ交換要領ニ準ズ)

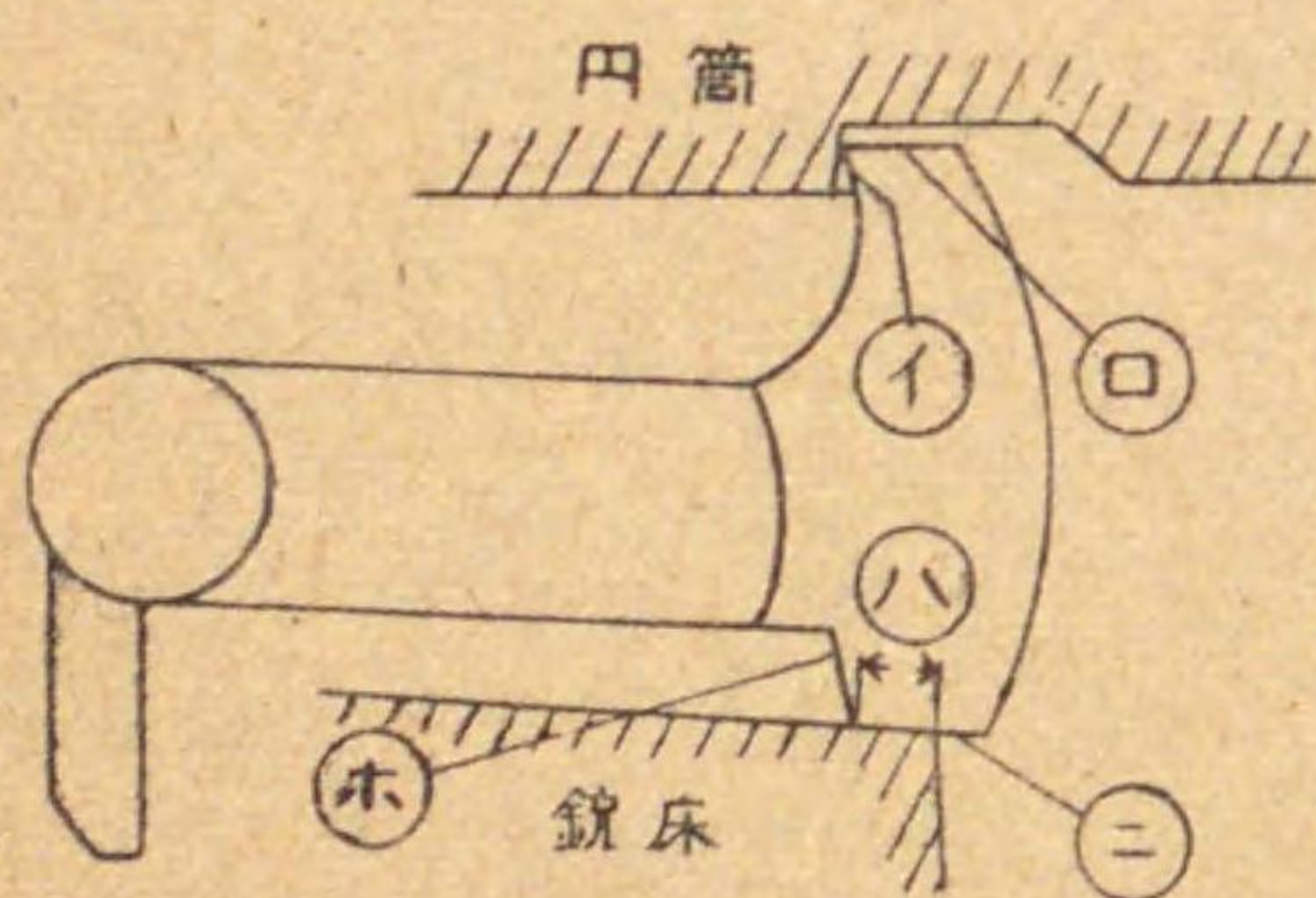
門子龜裂

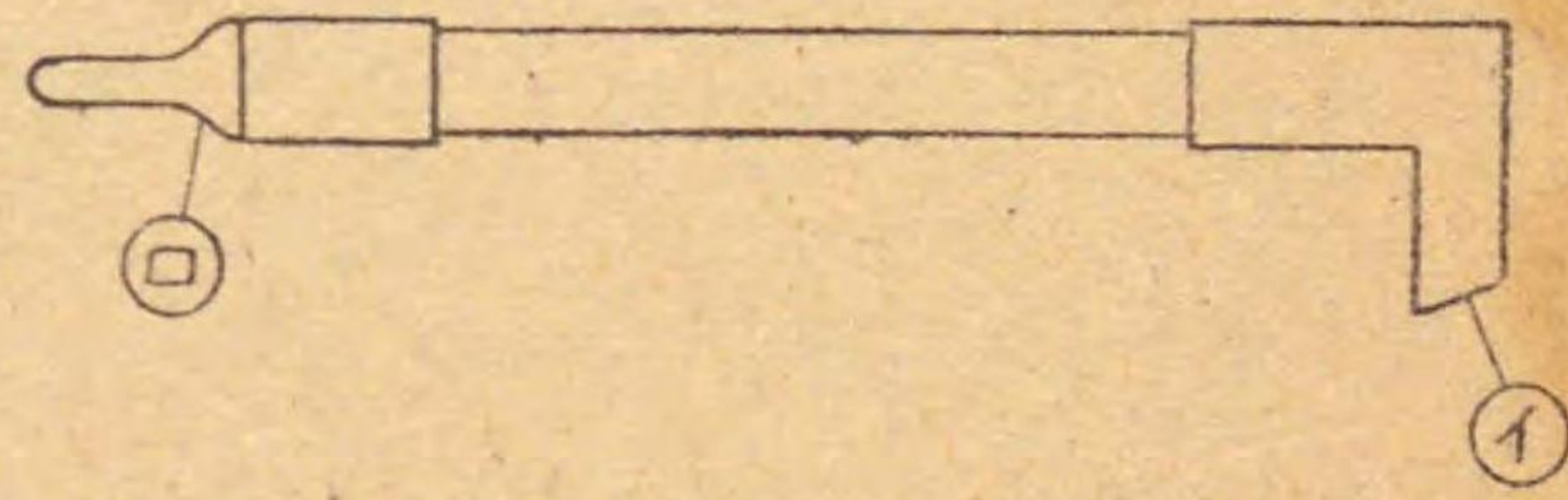
- 一 自然衰損
- 二 圓筒トノ鉤止不良

結合状態ニ於テ圓筒微動ナキヲ要ス

部品ヲ交換ス

- 一 銃身圓筒及門子ノ三者ヲ結合シ④面ヲ圓筒ニ密著セシム此際③面ハ銃身ノ面ヲリ〇・一〇〇・三耗程度高キヲ要ス寧ロ低クナルヲ以テ④面ヲ過削セザル様注意ヲ要ス
- 二 前作業終ラバ銃床ニ結合シ圓筒ヲ進退セシメテ④面ノ密著状態ヲ「メニ」検査ス
- 三 銃床ノ下側ヨリ門子ニけがきヲ行ヒ④ノ鉤部量ヲ一・六一・七ニナル如ク④面ヲ削ル



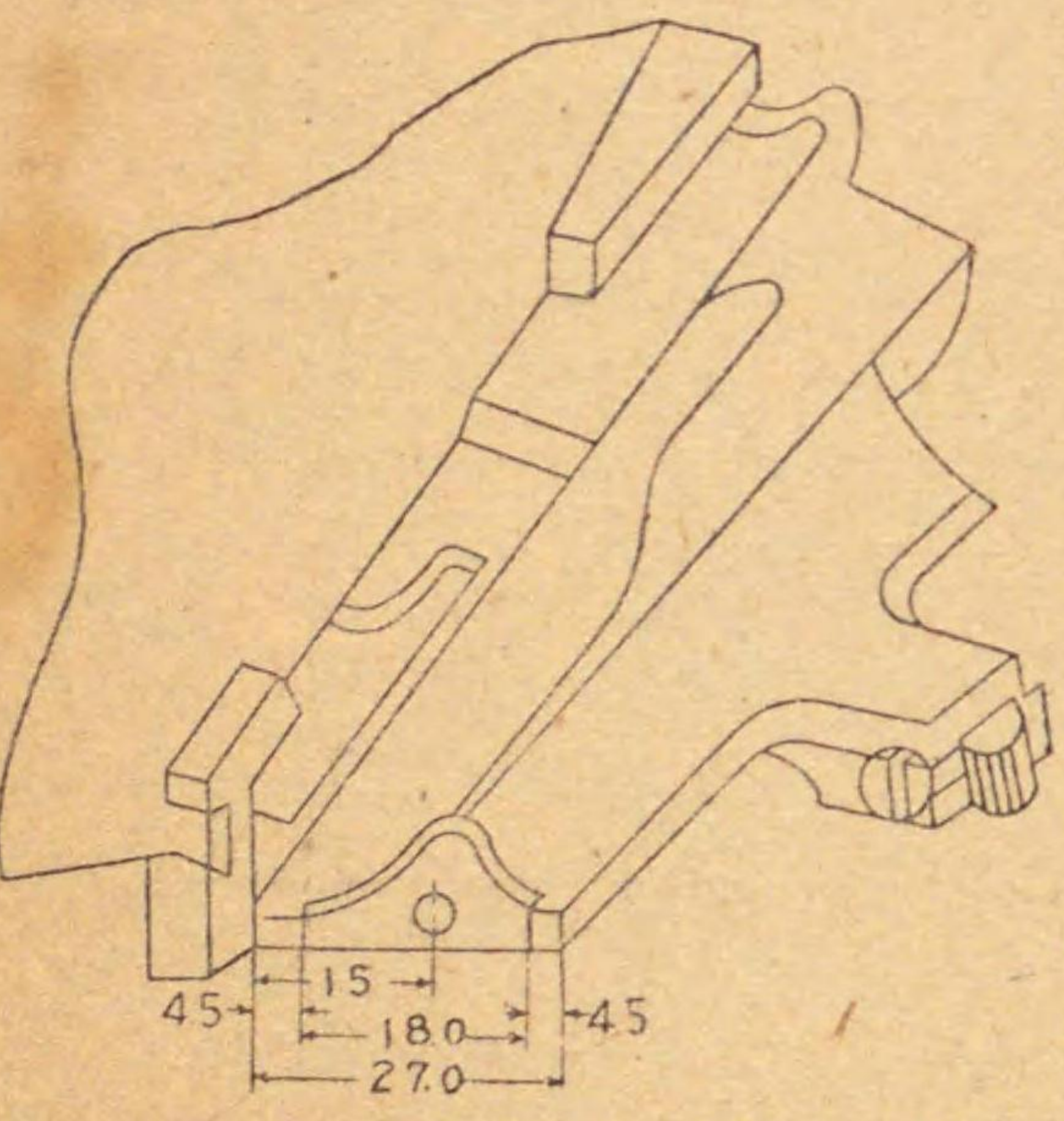
發	不
	<p>一 擊莖折損</p> <p>二 擊莖過短</p> <p>三 擊莖ばねノ衰</p> <p>四 實包不良</p>
	<p>目視</p> <p>衝痕不十分ナルモノハ圓筒ニ擊莖ヲ裝シ突出量ヲ檢ス</p> <p>衝痕不十分ナルモノハばねヲ分解ス</p> <p>衝痕十分ニシテ尙不發ノモノ</p>
	
	<p>部品交換ス</p> <p>一 「メニ」ヲ塗り圓筒ニ結合シテ當ル部分ヲ削ル</p> <p>二 油砥ヲ以テ④部ヲ磨キ逆鉤トノ滑動ヲ容易ナラシム</p> <p>三 擊針ノ突出量小ナルモノハ⑤部ヲ油砥ニヨリ研磨シテ約一・二耗突出セシム</p>

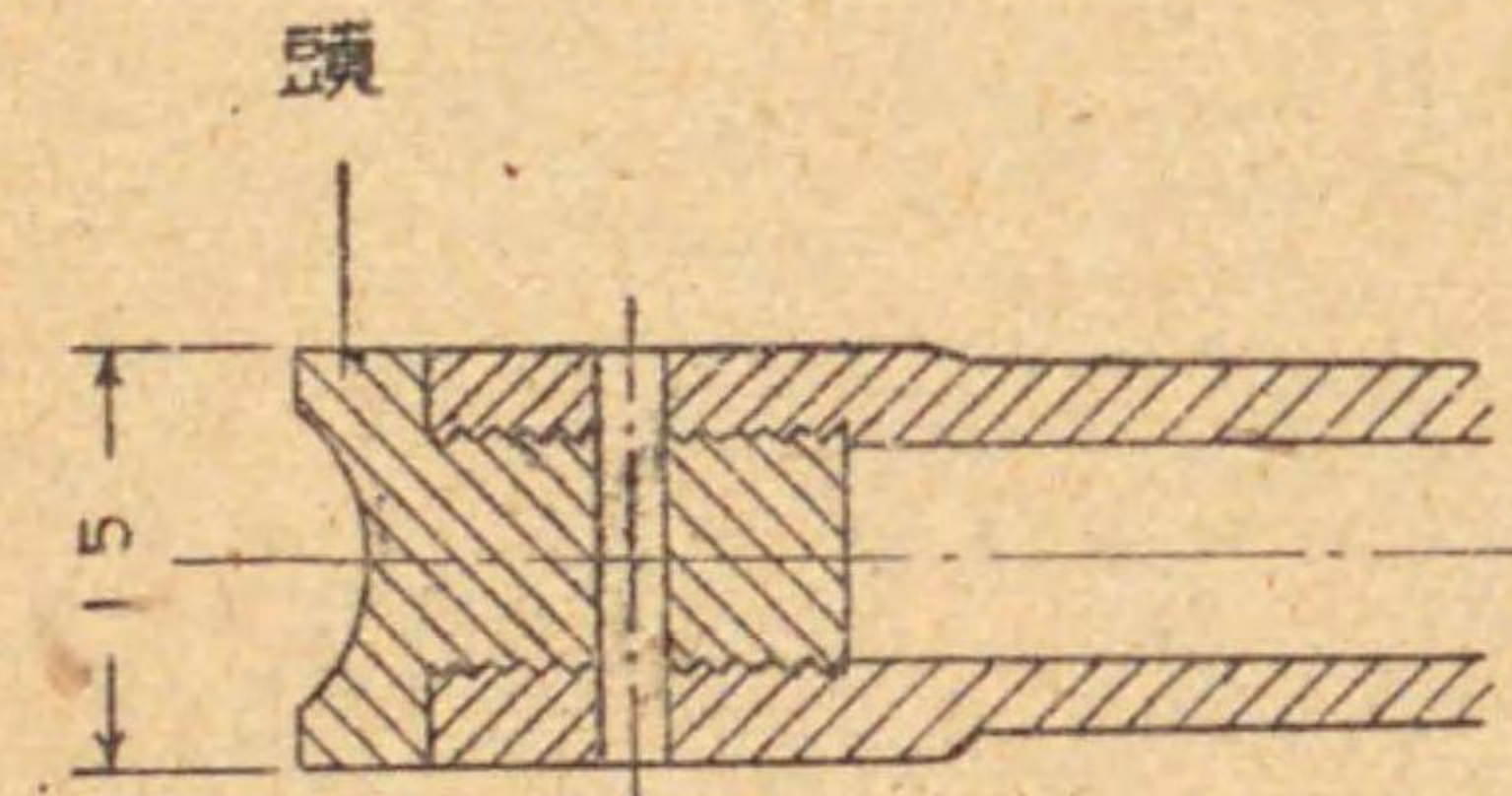
第四章 機關銃

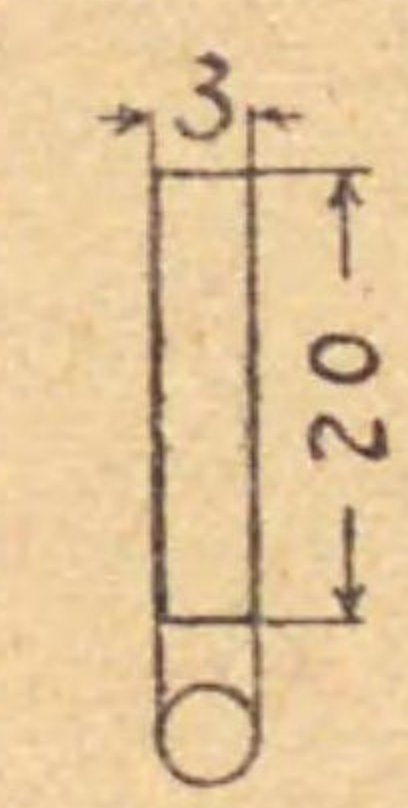
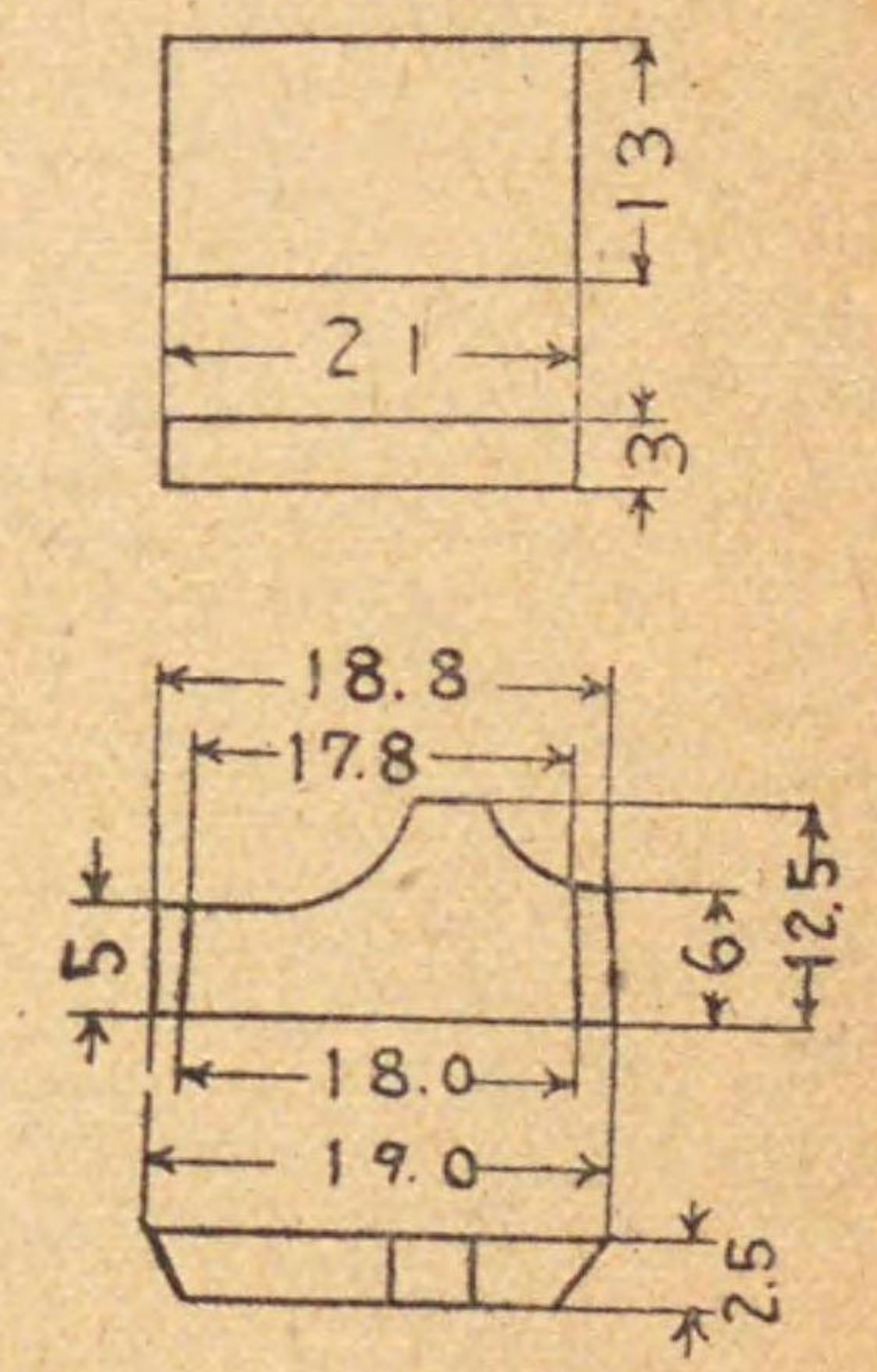
第一節 十一年式輕機關銃

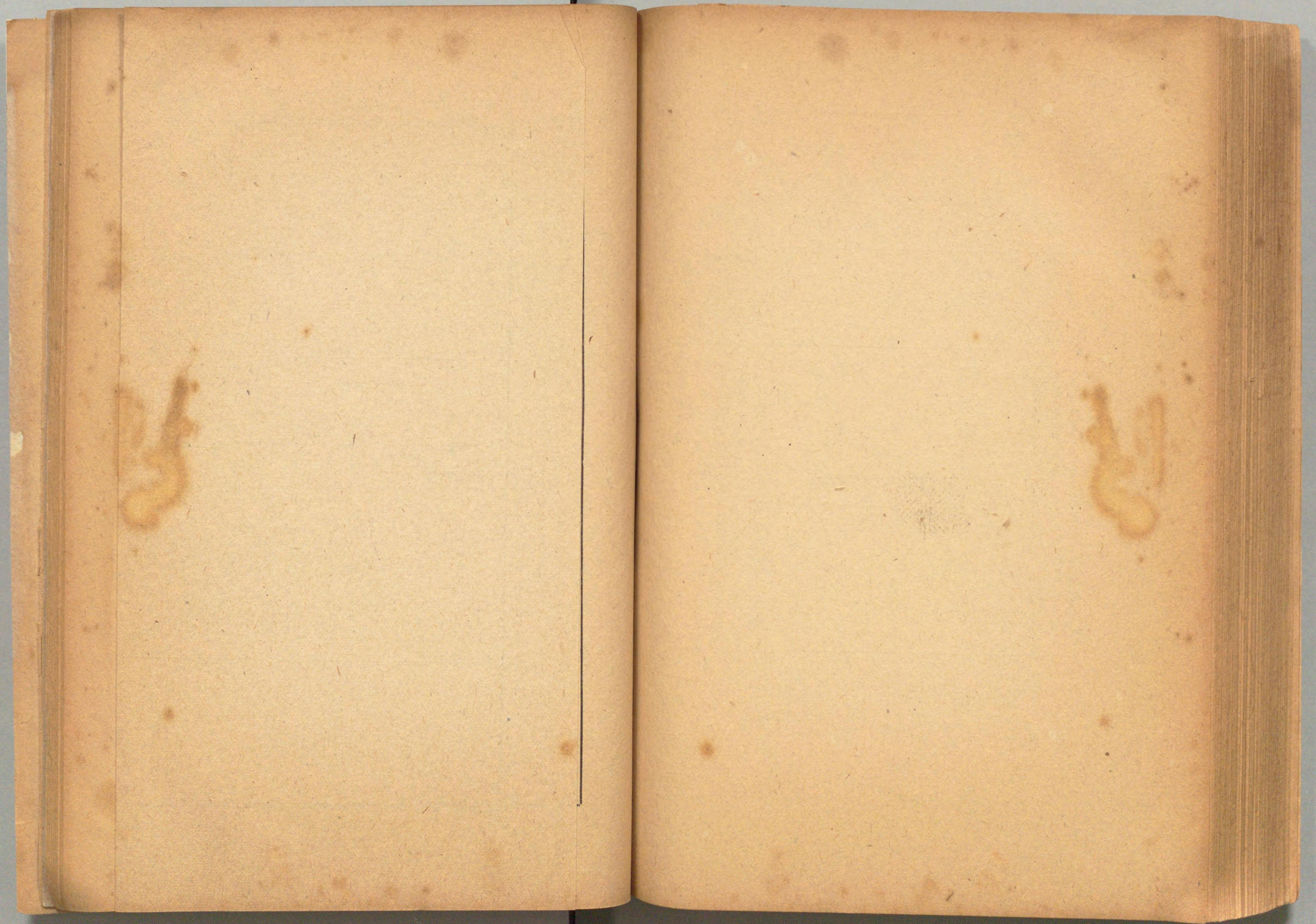
第四百十六 十一年式輕機關銃ノ検査法及修理法左ノ如シ

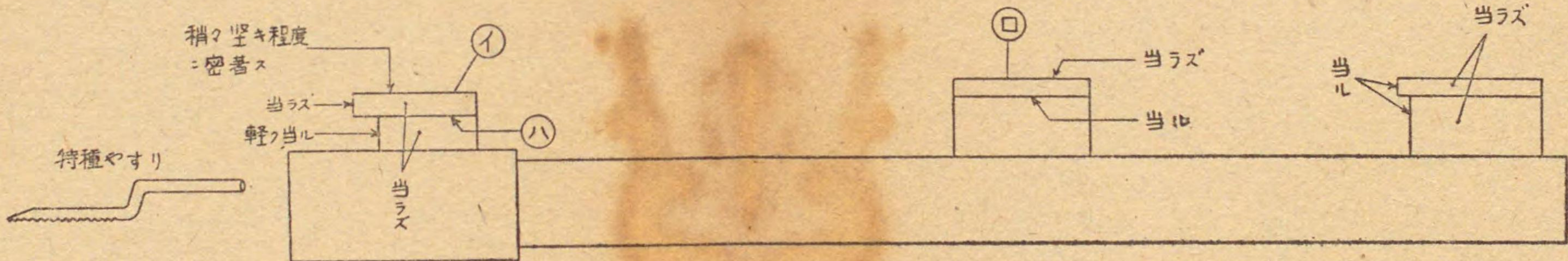
故障區分	原	因	檢	査	法	修	理	法
------	---	---	---	---	---	---	---	---

搖	動	架	填	裝
			裝填架ノ尾筒裝入部ノ磨損	裝填架止磨減
			裝填架動搖シ受座ト尾筒ノ同室トノ隙ニはがき一枚ヲ挿入レ得ルモノハ修理ヲ要ス	裝填架動搖中止ト尾筒ノ右側トニ〇・二耗以上ノ隙アルモノ
			<p>受彈座後面ニ附金ヲナス</p> <p>一 新止ノ外面ヲ削リ止室ニテ輕ク運動スルマデ削ル</p> <p>二 裝填架ニ結合ス</p> <p>三 尾筒ノ右側面ニ對シ隙ナク摺合セス</p> <p>四 附金材料ヲ嵌裝セル稍、徑三耗深サ約一五耗ノ穿孔ヲナス</p> <p>五 軟鋼線ヲ以テ絞着ス</p> <p>六 附金部ニはんぞ附ヲナス</p> <p>七 附金ヲ受彈座ノ形狀ニ仕上グ</p> <p>附金ノ厚ミハ動搖ノ大小ニヨリ決定ス</p>	<p>部品交換</p> <p>一 新止ノ外面ヲ削リ止室ニテ輕ク運動スルマデ削ル</p> <p>二 裝填架ニ結合ス</p> <p>三 尾筒ノ右側面ニ對シ隙ナク摺合セス</p>
				<p>應急修理</p> <p>裝填架下面④部ヲ植打増肉ス</p>

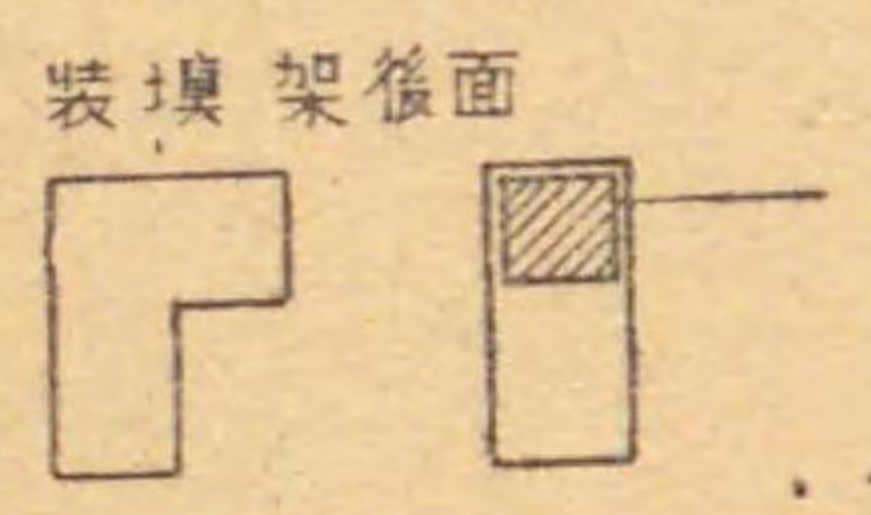
塞 後 退 不 足	
<p>活塞頭ノ磨損</p> <p>射撃中ニ於ケル「ガス」ノ流入過度ナルモノ又ハ頭ノ外徑一四・六耗以下ナルモノ</p>	<p>一 舊活塞頭分解</p> <p>1 銕ノ一端ヨリ二耗半「ピン」拔ヲ以テ槌打分解ス 若シ分解困難ナル時ハ二・五耗錐ニテ銕ノ中央ニ穿孔シタル後「ピン」拔ヲ以テ分解ス</p> <p>2 活塞頭ヲ万力ニ取附活塞隆鼻部ヲ持チテ旋回シ分解ス</p>
 <p>頭</p> <p>15</p>	
<p>二 新活塞頭ヲ十分ニねじ込ミタル後活塞ノ銕孔ヨリ三耗錐孔ヲ穿チ銕著ス</p> <p>三 銃ニ活塞ヲ結合シ當リヲ検査シツツ摺合セヲナス</p>	

裝 填 架 動 搖	
<p>活塞及遊底ノ軌</p> <p>活塞ヲ前進後退セシメ摩擦音ニヨルカ分解後摩擦痕ヲ目視ス</p>	<p>「メニール」検査ヲ實施シツツ當リアル部分ヲ細目ヤサリ又ハ油砥ニヨリ修正ス</p> <p>活塞ノ屈曲ニ原因スルモノハ槌打修正ス</p>
<p>線 綱 軟</p>  <p>3 20</p>	
<p>(網硬半) 料材金附</p>  <p>13 21 3 18.8 17.8 18.0 19.0 5 6 12.5 2.5</p>	

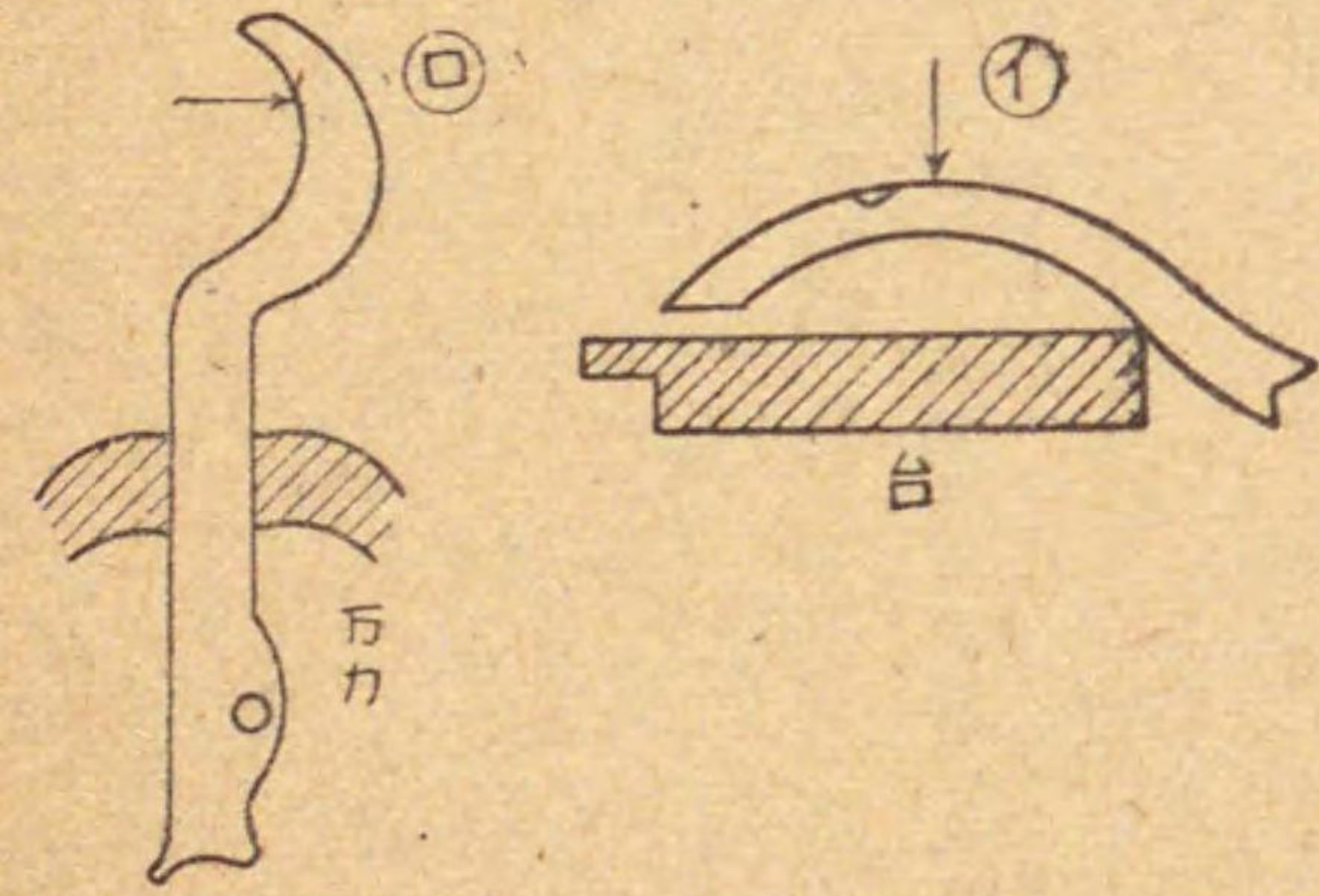


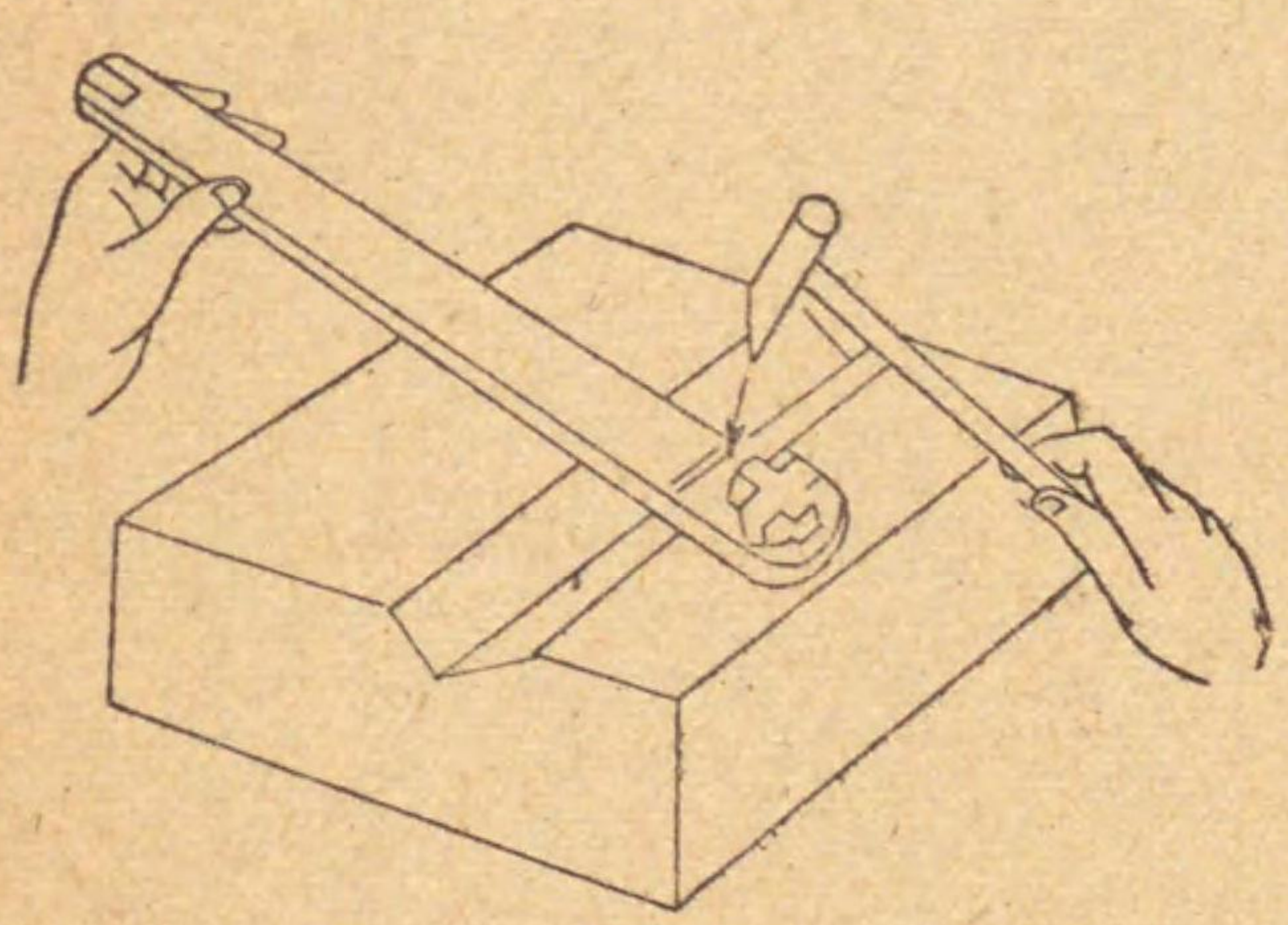
區故障	活 塞 後 退 不 足
原 因	「ガスポンプ」ノ「ガス」漏レ
檢 査 法	「ガス」漏孔附近ニ「ガス」漏レノ形跡ヲ認ム
修 理	 <p>「ガスポンプ」ノ前方鍔部ニ附金ヲナス</p> <p>一 「ガスポンプ」④ノ上面ヲ約一耗殘シ削ル</p> <p>二 厚ミ約一・五耗ノ半硬鋼板ヲ鍔部ニ黃銅鑲付ス</p> <p>三 放熱筒ノ鍔部ノ室ヲ特殊やすリニテ削リ腐蝕部ヲ除去ス</p> <p>四 附金セル部ノ側面ヲ前ノ形状ト略、同ジニ削ル</p> <p>五 附金セル④ノ上面ヲ稍、削リ④ノ鍔部マデ結合シ得ル如クス</p> <p>六 検査器ニヨリ「ガスポンプ」ト放熱筒トノ平行ヲ検査シ④部ノ上面ト⑤面トノ削肉量ヲ決定ス</p> <p>七 前方既ニ開クモノハ鍔ノ側面ヲ槌打シテ裏面⑥ニ増肉ス</p> <p>八 爾後ハ當リヲ除去シツツ逐次壓入ス壓入ニ際シ放熱筒トノ當リノ關係上圖ノ如シ</p> <p>九 検査器ニヨリ平行ヲ檢ス公差ハ〇・二耗ナリ</p> <p>九 鍔部上面ニ印セル放熱筒ノ漏孔ノ痕ニ三・八耗ノ穿孔ヲナス</p>
法	

良		不		彈		送		區分
活塞ノ後退不良	彈倉ノ變形			誘導子ノ磨損	誘導子ノ折損	彈送ニ反起打痕アルトキ	亂レ 壓桿ばね衰損ニ起因スル彈列ノ	原
	擬製彈五發ヲ挿 彈子ト共ニ輕ク 裝填シ得ザルモ ノハ不可ナリ	積桿ヲ引イテ彈 送ヲ右ニ移動シ 誘導子ガ裝填架 ノ右孔ニ來ルト キ槌ノ柄等デ彈 送ヲ上カラ押シ 誘導子ノ突出セ ザルモノハ不可 ナリ		積桿ヲ引イテ彈 送ヲ右ニ移動シ 誘導子ガ裝填架 ノ右孔ニ來ルト キ槌ノ柄等デ彈 送ヲ上カラ押シ 誘導子ノ突出セ ザルモノハ不可 ナリ	目視	目視	壓桿ヲ打起スル トキノ手感	因
前項活塞後退不足ノ部ニ同ジ	彈倉眞金ヲ裝シ 彈倉内部ノ形狀ヲ 槌打修正ス	誘導子ヲ交換ス 此ノ位置ニ來ルト キ彈送ヲ上カラ 押シ 誘導子ハ活塞ニ 突出スルヲ要ス		誘導子ヲ交換ス 此ノ位置ニ來ルト キ彈送ヲ上カラ 押シ 誘導子ハ活塞ニ 突出スルヲ要ス	ばねヲ交換ス	細目やすリ又ハ布 やすリヲ以テ除去ス	壓桿ばねヲ交換ス 九九式携行銃工具 中ノ分解器ヲ使用ス	修
								理
								法



良	不	筒	蹴
活塞ノ後退不足			蹴子ノ磨損變形
實包射擊			擬製彈ヲ使用シ 検査セルトキ銃 ノ直下ニ落チル モノハ不可ナリ
前項活塞ノ後退不足ノ部ニヨル			蹴子ヲ槌打修正ス 一 ①圖ノ如ク少シク前端ヲ槌打延伸ス ②圖ノ如ク尾部ヲ槌打彎曲シ靜カニ活塞ヲ後退 セシメタル時ノ抵抗ヲ大ナラシム
			打發拔ヲ以テ藥莖ヲ引出ス 抽出困難ナルトキハ銃口ヨリさく杖ヲ挿入シ抽出スコ ノ際危害豫防ノ注意ヲ要ス 油入ノ修理ハ別項ニヨル



良	不	筒	抽
			抽筒子ノ缺損又 ハ磨損
			目視
			部品交換ス 銃身ノ後端ニ觸突セザルヤ「メニ」検査ニヨリ檢 ス當ルモノハ抽筒子ノ前面ヲ油砥ニヨリ研磨修正ス
			抽筒子ばねノ衰 (折)損 工具ヲ使用セズ ニ抽筒子ばねヲ 分解シ得ルモノ ハ不可ナリ
			一 抽筒子ばね交換 抽筒子ばねノ長サハ結合セル抽筒子ヨリ〇・五耗短 キモノヲ可トスルヲ以テばね頭部ヲ削ルベシ 二 ばね力弱キモノノ修理 臺上ニテ裏面ヲ槌打ス
			

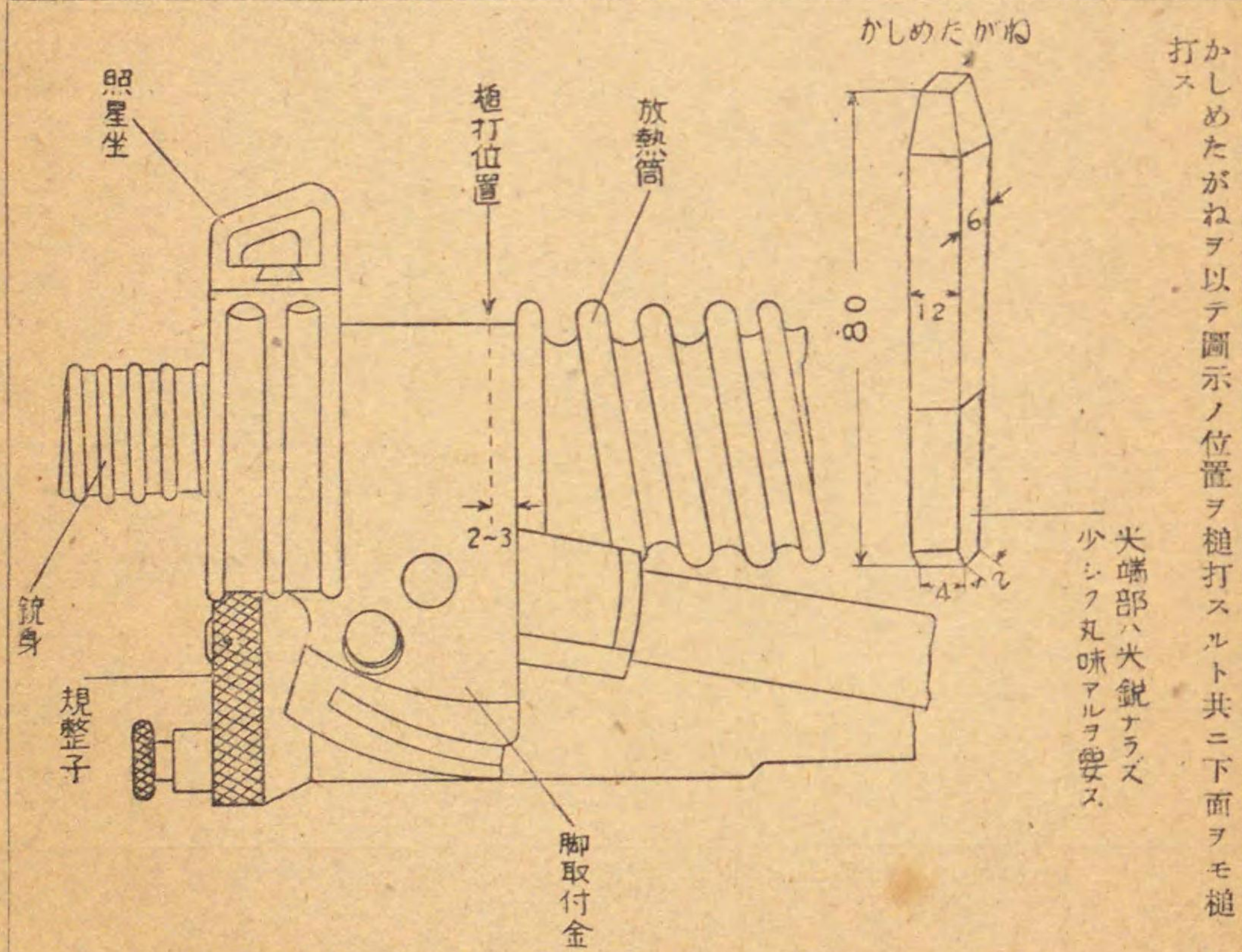
油 入 機 能 不 良			連發 不良
油 入 動 搖	漏 孔 辨 ノ 變 形 磨 損	辨 ば ね ノ 衰 損	活 塞 ノ 後 退 不 足 復 座 ば ね 過 強
上下左右共約一 耗以上動搖スル ハ不可ナリ	油 導 子 ヲ 壓 サズ シテ 漏 油 スルハ 不 可 ナリ	油 導 子 ヲ 壓 シテ 放 ツ ト キ 活 渡 ニ 元 ニ 戻 レ バ 可 ナ リ	
一 上下動搖 二 左右動搖 主トシテ油入止ヲ交換ス其ノ要領左ノ如シ 1 目打止ヲナス部位ヲやすリニテ少シク削ル 2 油入止ヲ輕ク結合セル後油入ヲ結合シ止ヲ右 方ヨリ輕打シツツばねノ位置ヲ決定ス	尾 筒 此ノ部ヲ輕打シテ修正ス	辨 ば ね 蓋 ヲ 手 万 力 ニ テ 分 解 ス ば ね ヲ 交 換 ス 辨 ば ね 蓋 ヲ 結 合 シ は ん だ 鐵 附 ス 辨 ば ね 蓋 ヲ 前 項 ニ ヨ リ 分 解 ス 辨 ヲ 交 換 ス (「メニ」檢査ヲ要ス) 辨 ば ね 蓋 ヲ 結 合 ス	活 塞 ノ 後 退 不 足 ノ 部 ニ 同 ジ ば ね 過 強 ナ ル ト キ ハ 交 換 ス 辨 ば ね 蓋 ヲ 手 万 力 ニ テ 分 解 ス ば ね ヲ 交 換 ス 辨 ば ね 蓋 ヲ 結 合 シ は ん だ 鐵 附 ス 辨 ば ね 蓋 ヲ 前 項 ニ ヨ リ 分 解 ス 辨 ヲ 交 換 ス (「メニ」檢査ヲ要ス) 辨 ば ね 蓋 ヲ 結 合 ス

單 發 不 良 (能 不)			連發 不良
逆 鉤 ば ね ノ 衰 (折) 損	活 塞 ノ 逆 鉤 部 ノ 磨 滅 又 ハ 缺 損	目 視	活 塞 ノ 後 退 不 足 逆 鉤 頭 ノ 磨 損 又 ハ 缺 損
引 金 ヲ 引 キ タル キ ノ 手 感 ニ ヨ ル	尾 筒 後 端 ヲ 逆 鉤 頭 ヲ 目 視 ス 逆 鉤 ハ 尾 筒 ノ 内 面 ヲ 約 三 耗 突 出 シ 引 金 ヲ 十 分 引 ク ト キ 全 ク 沈 下 ス ル ヲ 要 ス	ば ね ヲ 交 換 ス	前 項 活 塞 ノ 後 退 不 足 ノ 項 ニ 同 ジ
磨 滅 セ ル モ ハ 油 砥 ニ ヨ リ	一 修 理 此ノ如ク磨損セルモノハ油砥デ研磨修正シテ下 圖ノ如ク直角ニナス 二 交 換 缺 損 セ ル モ ノ ハ 交 換 ス 交 換 セ ル ト キ 逆 鉤 ノ 圓 筒 部 ト 同 室 ト 軋 ラ ザ ル 様 「メ ニ」 檢 査 ニ ヨ リ 修 正 ス	下 圖 ノ 如 ク 直 角 ニ 研 磨 ス	
直 角			

脚 取 附 金 動 搖

自然衰損

空裝填架ノ重サニヨリ銃ガ左ニ傾クモノハ不可ナリ



かしためたがねヲ以テ圖示ノ位置ヲ植打スルト共ニ下面ヲモ槌打ス

起 緣 室 寸 法 過 大

- 一 門子受ノ磨滅
- 二 門子ノ磨滅
- 三 圓筒包底面磨滅

起緣模範ニヨリ檢査ス
一・四五耗模範ニテ抵抗ヲ感ゼザルモノハ修理ヲ要ス

門子受ヲ交換ス
一 舊門子受ノ離脱

- 1 小ねじ及門子受被ヲ分解セル後左門子受ヲ最初ニ分解ス
- 2 左門子受室ヨリ銅桿ヲ挿入シ右門子受ヲ分解ス

二 門子受ノ摺合せ

新品ヲ結合シ「メニ」檢査ヲ行フ
門子ノ反動受面ニ門子受ノ衝痕ガ平等ニ明瞭ニツク様油砥ニヨリ摺合せ

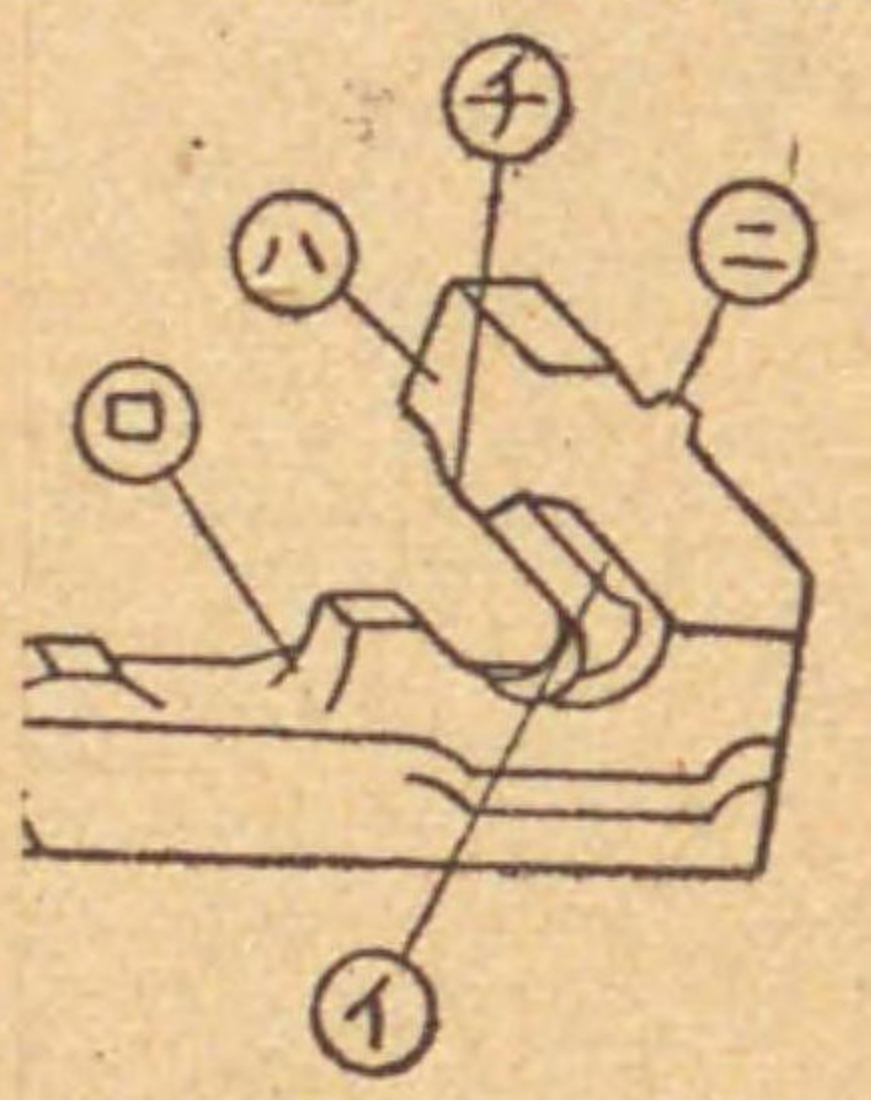


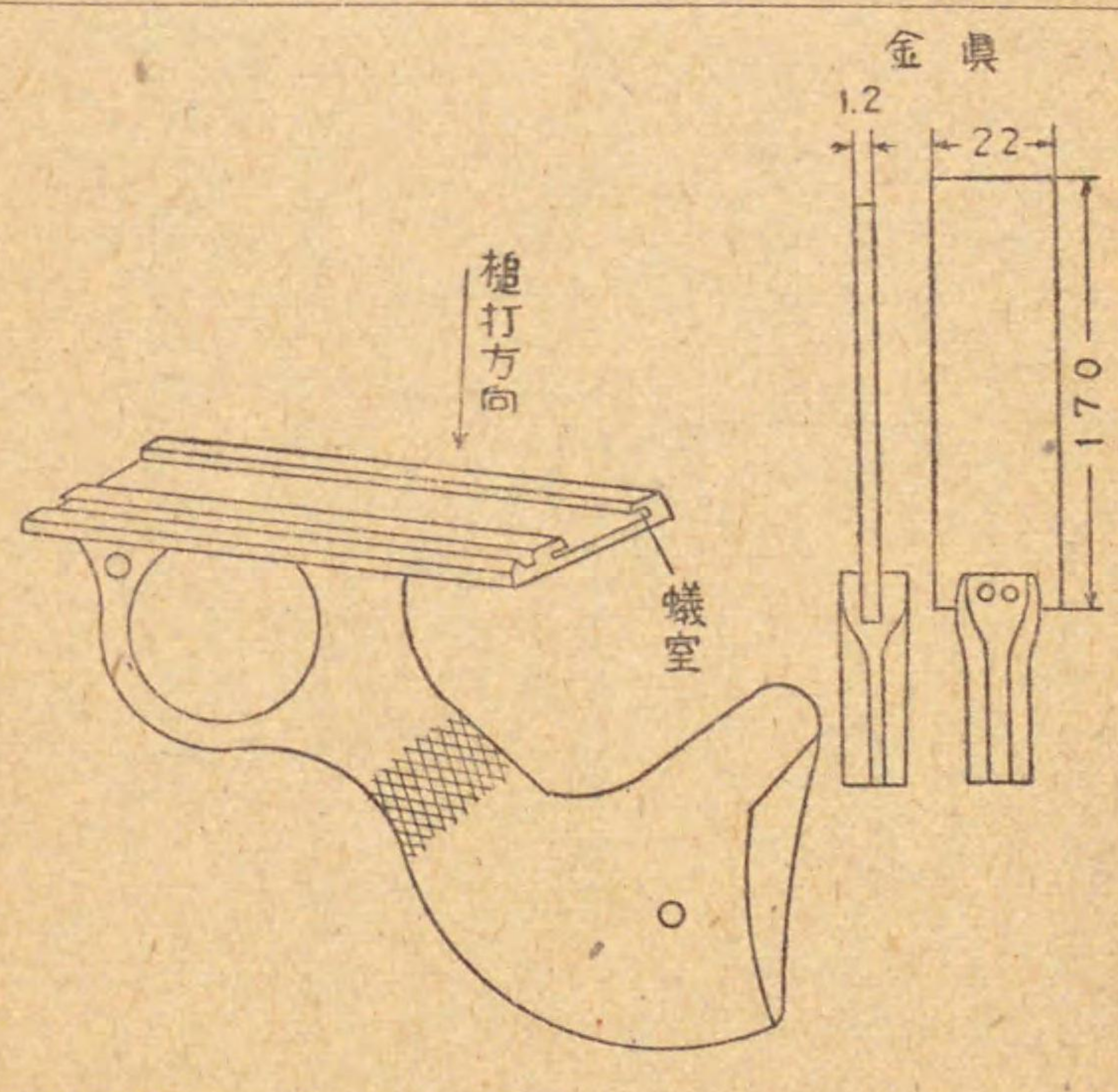
三 起緣室檢査

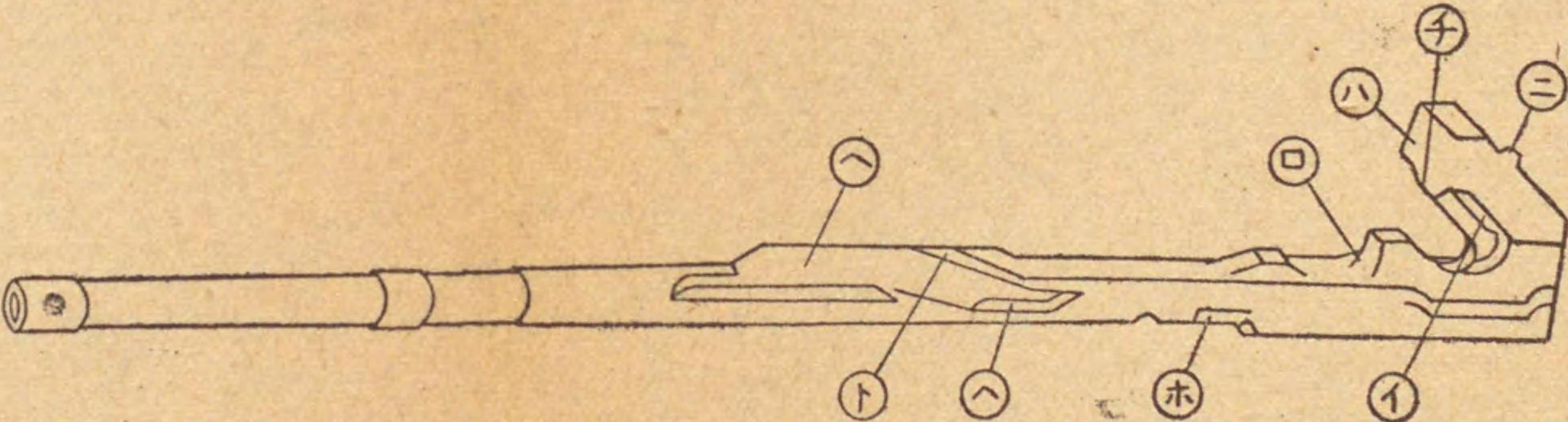
- 一・三模範ヲ使用スル時槓桿ニ十分抵抗ヲ感ズルヲ要ス

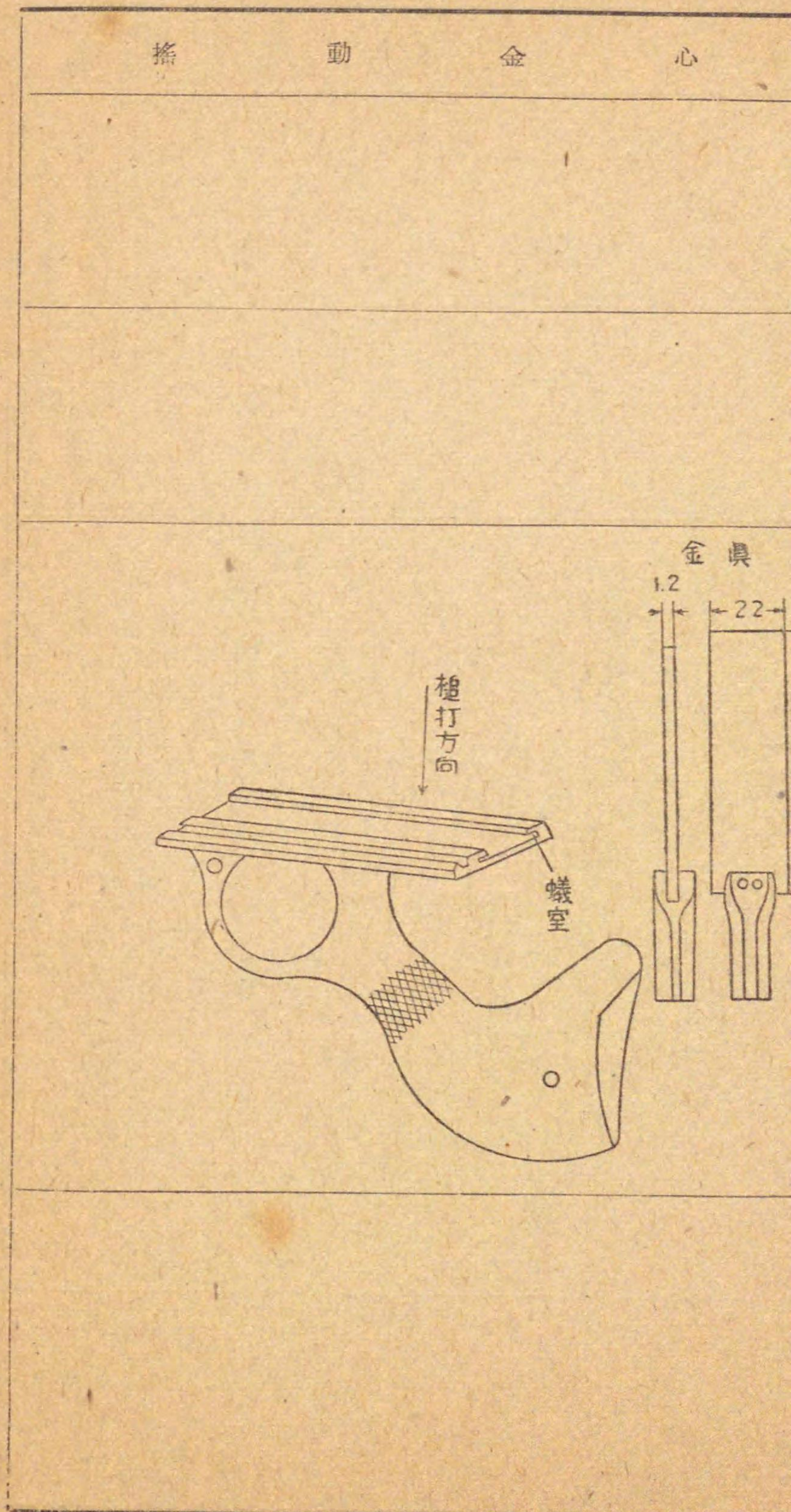
四 門子受被ヲ結合セル後小ねじニ目打ヲ施ス

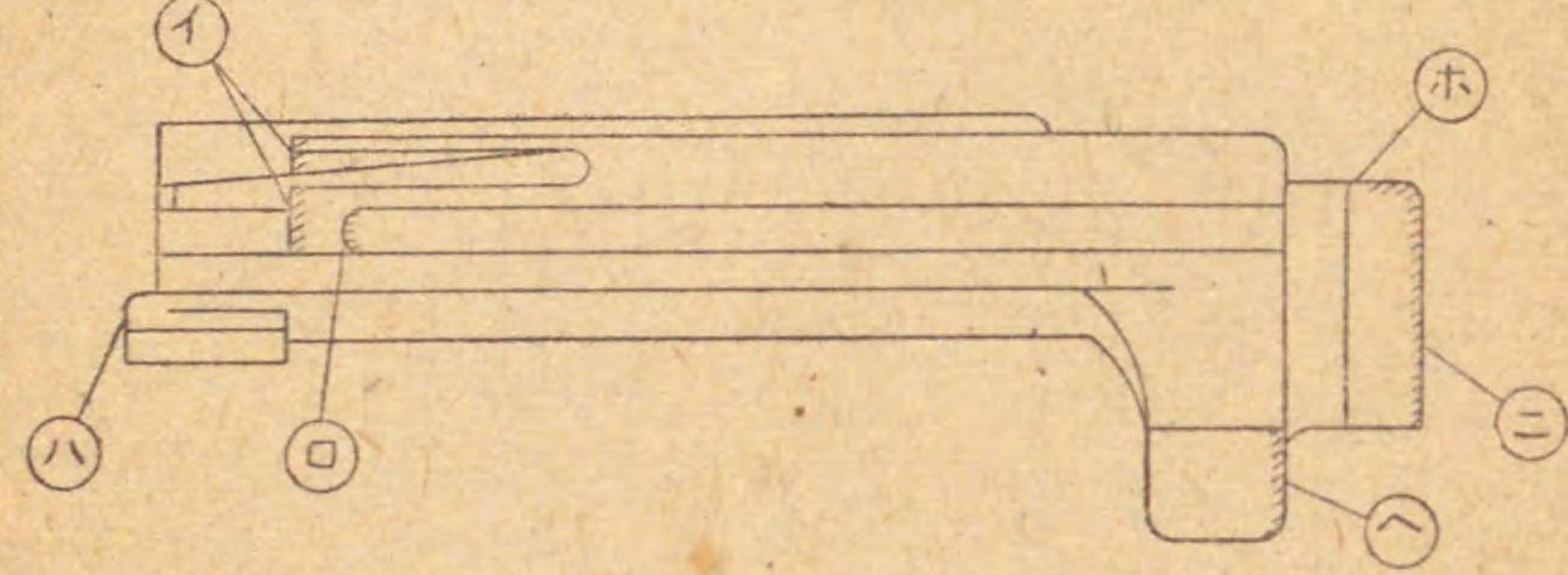


活	區分	故障
二一 強「ガス」 「自然衰損」 「壓過」	原	因
目視	檢	査
 <p>活塞ヲ交換ス 1 新活塞ヲ結合シ軌 リヲ修正ス 2 圓筒及門子ヲ結合 ス ④部ト門子ノ後方斜</p>	修	理
		法

搖	動	金	心	用
				自然衰損
				尾筒ト用心金ト ノ結合部ノ間隙 ガ○・五耗以上 アリテ動搖スル モノハ修理ヲ要 ス
				用心金ノ蟻室ニ眞金ヲ挿入シ圖示ノ方向ヨリ槌打修正 ス
				

活 塞 龜 裂	區分障
	原 因 一 自然衰損 二 「ガス」壓過強
	檢 査 法 目 視
	修 理
<p>活 塞 交 換 ス</p> <p>1 新 活 塞 ヲ 結 合 シ 軋 リ ヲ 修 正 ス</p> <p>2 圓 筒 及 門 子 ヲ 結 合 ス</p> <p>① 部 ト 門 子 ノ 後 方 斜 面 ト ハ 左 右 平 等 ニ 密 著 ス ル ヲ 要 ス</p> <p>活 塞 ヲ 前 進 セ シ ト キ 圓 筒 ノ 下 方 突 堤 ノ 後 面 ト ① 及 ② ト 門 子 後 面 ト ノ 間 ニ ハ 夫 々 僅 カ ニ 間 隙 ヲ 存 セ シ ム ベ シ</p> <p>3 賊 子 室 上 方 斜 面 ト 活 塞 ノ ③ ト ハ 略 々 一 致 ス ル ヲ 要 ス</p> <p>4 槓 桿 ト ④ 部 ト ガ 活 塞 前 進 時 ニ 接 解 セ ザ ル ヲ 「メニール」ニ 依 ル</p> <p>5 彈 送 座 ト ⑤ 軋 ナ キ ヤ</p> <p>6 擊 莖 突 出 量 〇・八 一・一 耗 ナ リ ヤ 若 シ 過 長 ナ ル モ ノ ハ ⑥ ヲ 僅 カ ニ 削 ル</p> <p>7 ⑦ ノ 面 ハ 「ガ ス ボ ン プ」ニ 軋 ラ ザ ル ヤ</p> <p>8 各 部 ノ 點 檢 ヲ 濟 マ セ タ ル 後 實 包 ニ ヨ リ 點 檢 ス ル ヲ 要 ス</p>	法



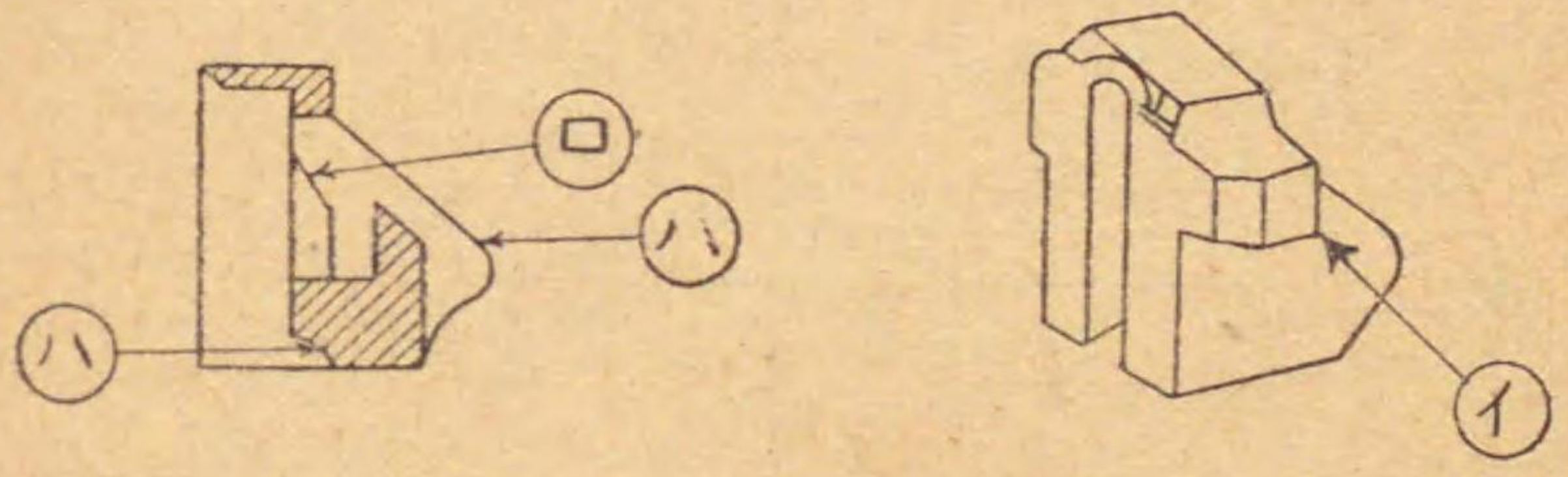
區故障	筒 龜 裂
原 因	一 自然衰損 二 「ガス」壓過強
檢 査 法	目 視
修 理	 <p> 一 筒交換 二 門子トノ摺合セ困難ナ 三 尾ノハトノ摺合セザル 四 尾ノハトノ摺合セザル 五 尾ノハトノ摺合セザル 六 尾ノハトノ摺合セザル 七 尾ノハトノ摺合セザル 八 尾ノハトノ摺合セザル 九 尾ノハトノ摺合セザル 十 尾ノハトノ摺合セザル </p>
法	

裂 龜 子 門

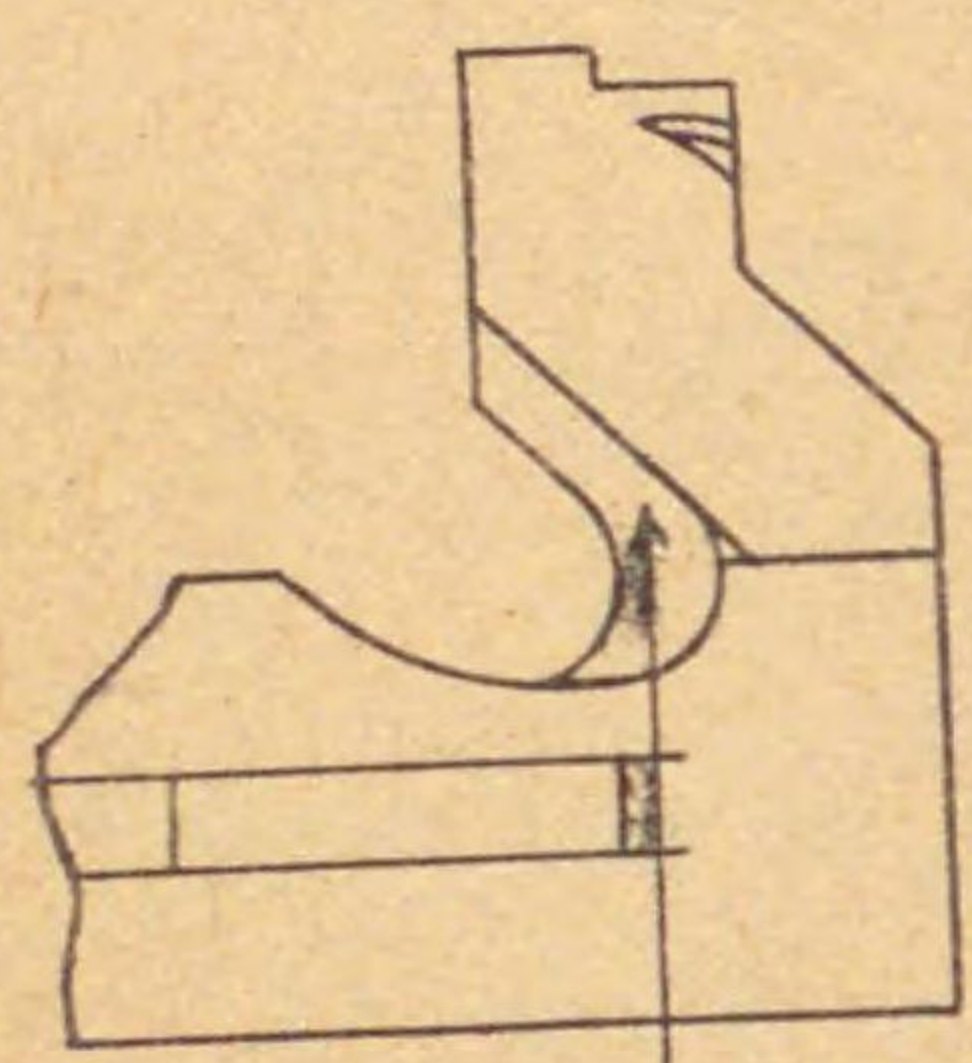
一 自然衰損
二 「ガス」壓過強

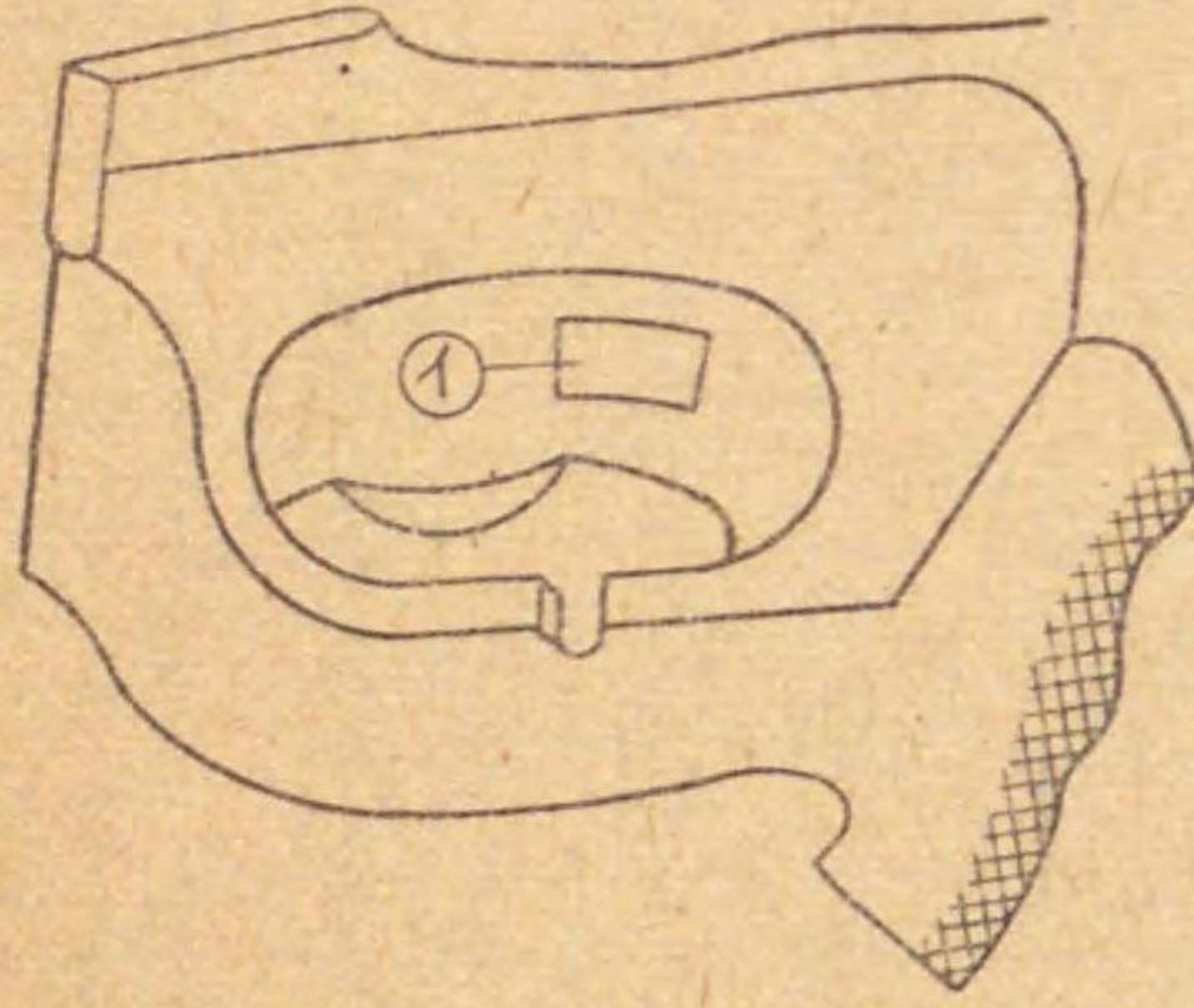
目視

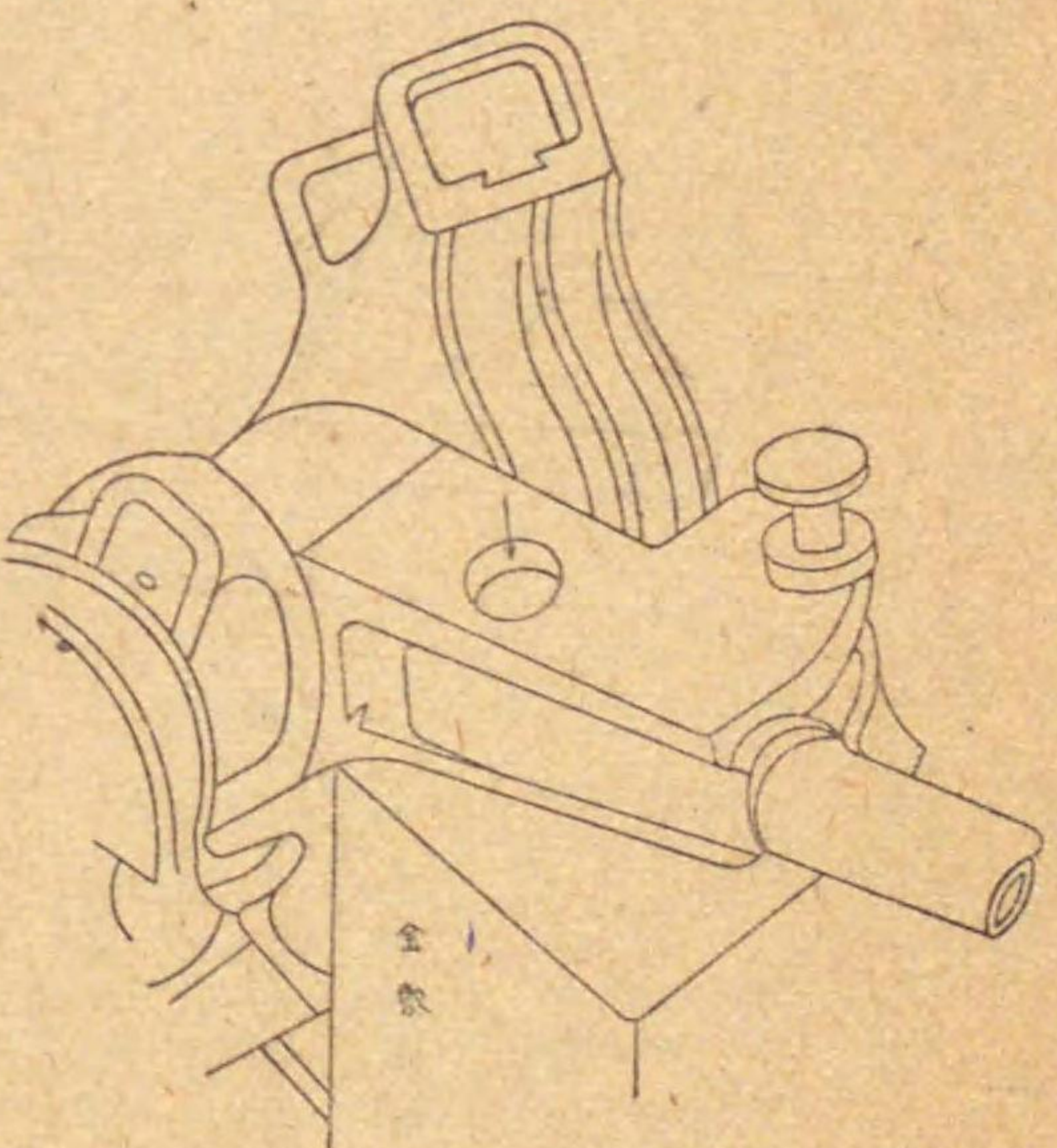
門子交換



門子ハ殆ド其ノ儘交換シ得ル
モ左ノ各項ヲ點檢スベシ
一 圓筒ニ結合シ上下運動
輕易ナルヲ要ス
二 擊莖突出量ハ〇・八―
一・二耗ナルヲ要ス
三 擊莖ノ後退輕易ナルヲ
要ス
四 堅キモノハ⑩部ト擊莖斜
面トノ結合不良ナリ
四 活塞トノ接觸面⑪ノ
「メニ」檢査
五 門子受ト④トノ接觸狀
況
左右平等ニ
ノ痕ヲ生ズルヲ要ス不良
ナルモノハ門子又ハ門子
受ヲ油砥ニヨリテ研磨修
正スベシ

發	不	擊莖折損
復座ばね衰損 圓筒内ニ異物ノ 介在又ハ塗油ノ 凝結	擊莖過短	雷管ニ衝痕ナキ 時ニ分解シテ目 視ニヨル
實包ノ不良	雷管ニ衝痕不十 分ニシテ然モ復 座ばねノ彈撥力 十分ナルモノ	雷管ニ衝痕ナキ 時ニ分解シテ目 視ニヨル
手感若クハ檢査 器ニヨル 分解シテ圓筒内 ヲ目視ス 雷管ノ衝痕十分 ナリ	<p>一 前項ニ據リ部品交換ス 二 活塞ノ隆鼻部ノ前方斜面ヲ削ル</p>  <p>此ノ面ヲ左右共平 等ニ削ル</p>	<p>擊莖ヲ交換ス 擊莖ハ概ネ其ノ儘交換シ得ルモ左ノ點檢ヲ實施スルヲ 要ス</p> <p>一 圓筒ト軋リ 圓筒ヲ倒ニスルトキ擊莖ハ自重ニ ヨリニリ落ツルヲ可トス 二 門子トノ結合 圓筒、門子、擊塞ノ三ヲ結合シ 門子ヲ上下セシメ擊莖ノ後退スル狀況ヲ檢ス、不 良ナルモノハ「メニ」檢査ヲナシ當リヲトル 三 突出量過長ナルモノハ活塞ノ擊莖打面ヲ削ル 四 圓筒ノ擊莖孔ヲヨク點檢シ擊針孔附近ニ反起ア ルモノハえぐリヲ以テ除去ス</p>
部品交換 内部ヲ手入ス		應急修理 部品ナキトキハ折損セル モノヲ熱熔シ槌打延伸シ テ摺合セス

ら ぶ 引	尾筒底動搖	用心金ノ引金室 前壁衰損	自然衰損	安全装置ニナセ ルトキ引金ノ動 搖スルハ不良ナ リ	尾筒底ノ動搖約 ○・五耗以上不 良ナリ
	<p>脚頭ヲ交換ス</p> <ol style="list-style-type: none"> 一 脚桿ニ脚頭ノ圓筒部ヲ挿入ス 二 脚頭ノ方向ヲけがきシテ定メタル後脚ノ銕孔ニ準ジ穿孔シ銕著ス 三 前項ニ準ジ軸ヲ緊著ス <p>用心金ノ後端ニ約一耗熔接肉盛リヲナシタル後摺合セ</p>	用心金ノ引金室①部ニ先ヅ内方ヨリ次デ外方ヨリ熔接セル後引金トナルベク廣ク接スル如ク摺合セ	尾筒底ノ前縁ヲ槌打増肉		

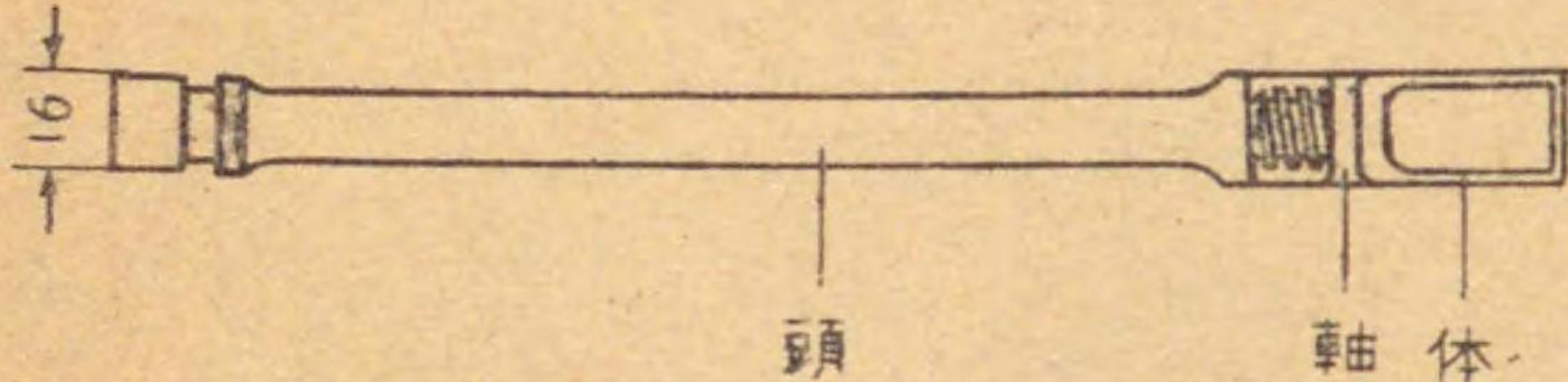
ぶ 脚	脚頭ノ強度ノ磨滅	脚頭ノ強度ノ磨滅	脚頭ノ強度ノ磨滅
脚頭ノ強度ノ磨滅	脚頭ノ強度ノ磨滅	<p>脚頭ヲ交換ス</p> <ol style="list-style-type: none"> 一 「ガスポンプ」ヲ分解ス 二 脚頭軸ヲ削リ「ピン」抜ニテ抽脱ス 三 新軸ヲ結合セルトキ④ノ高サハ脚取付金外面ヨリ僅カニ低下シアルヲ要ス若シ然ラザルモノハ該部ヲ削リ修正ス 四 前項ニ準ジテ緊著ス 	<p>「ガスポンプ」ヲ分解セル後</p>  <p>脚ノ如ク鐵床上ニ安頓セシメ軸頭ヲ槌打緊著ス 脚ノ運動ハ稍、堅キ程度ナルヲ要ス</p>
脚頭ノ強度ノ磨滅	脚頭ノ強度ノ磨滅	脚頭ノ強度ノ磨滅	脚頭ノ強度ノ磨滅

第二節 九六式輕機關銃

第四百七十七 九六式輕機關銃ノ検査法及修理法左ノ如シ

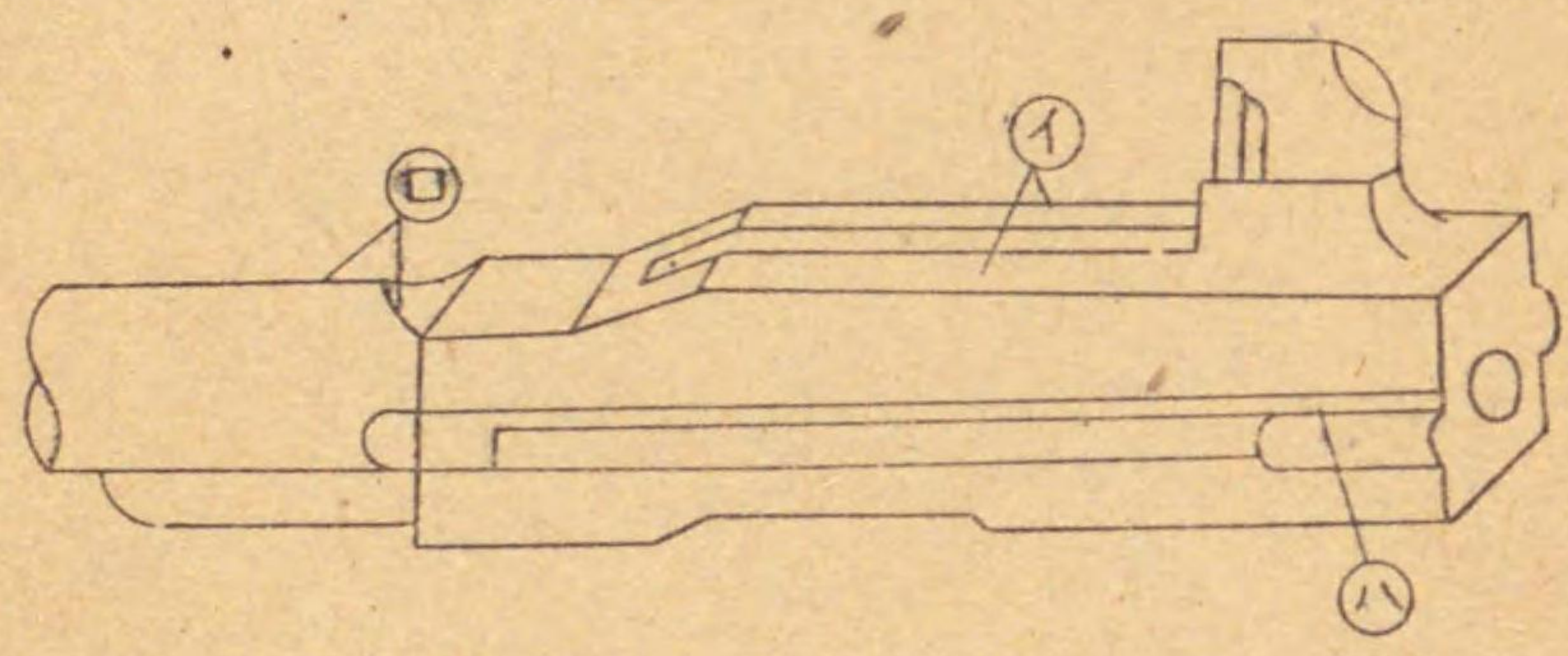
送 彈 不 良			故障 區分
彈倉ノ口部不良	彈倉變形	彈倉内ニ於ケル 彈列ノ亂レ	原 因
目視	目視	目視	檢 査 法
眞金等ニヨリ彈倉ヲ修正ス	彈倉ヲ離脱シ指頭ニテ壓シ彈列ヲ整頓セシム		修 理
此ノ部ヲ平滑ナラシメ藥莖ノ前進ヲ 容易ナラシム 此ノ部ヲ平等ニ面取リス			法
次項ニヨル			

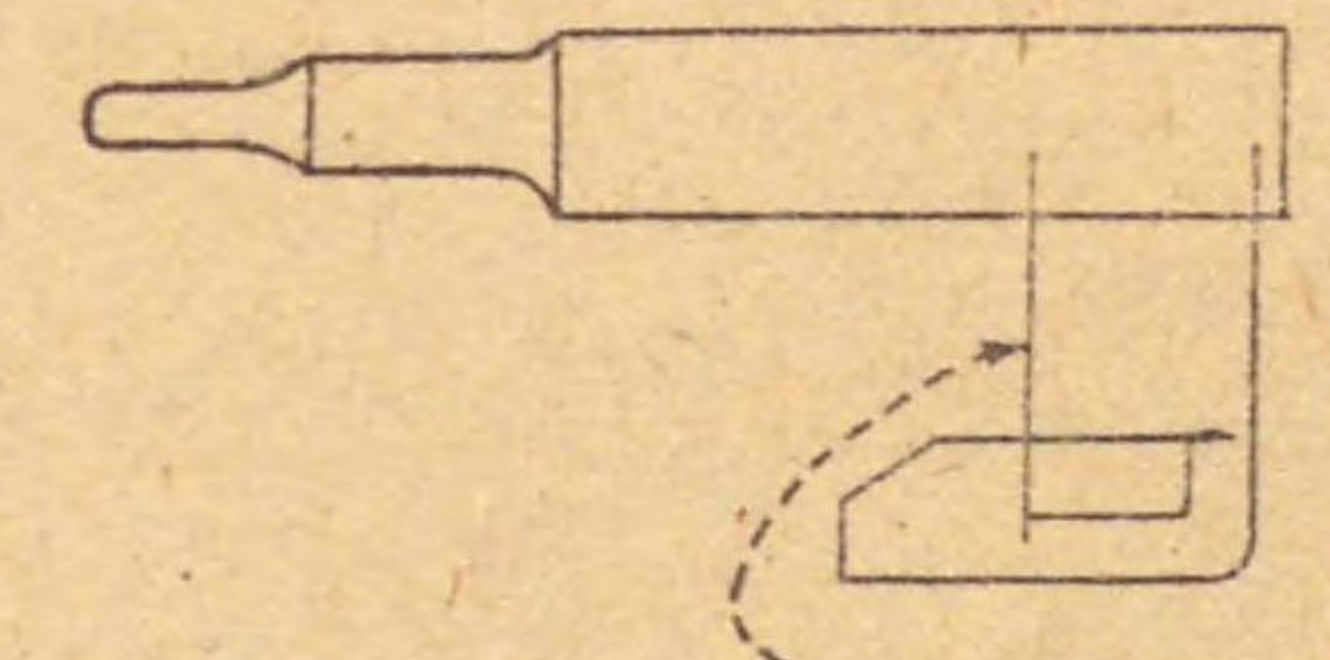
活 塞 後 退 不 足	
活塞反遊底ノ軌 リ	活塞頭ノ磨滅
手感ニヨルノ外 「メニール」検査ヲ ナス	射撃中ニ於ケル 「ガス」ノ流入大 ナルカ又ハ活塞 頭ノ外徑一五・ 六耗以下ナルモ ノ修理ヲ要ス
當リアル部分ヲ「メニール」検査ヲ實施シツツ細目やすリ 又ハ油砥ニヨリ修正ス 活塞ノ屈曲ニ原因スルモノハ槌打修正ス	活塞頭ヲ交換ス 一 舊活塞頭ノ分解 軸ノ一端ヨリ二耗半「ピン」抜ヲ以テ槌打分解ス若 シ分解困難ナル時ハ二五耗ノ 錐ニテ穿孔シタル後分解ス 二 活塞頭ヲねじ込ミタル後活 塞體ノ軸孔ヨリ穿孔シ軸ヲか しめス
應急修理 活塞頭ヲ前方ヨリ槌打シ テ頭部ノ外徑ヲ大ナラシ メ摺合セヲナス	

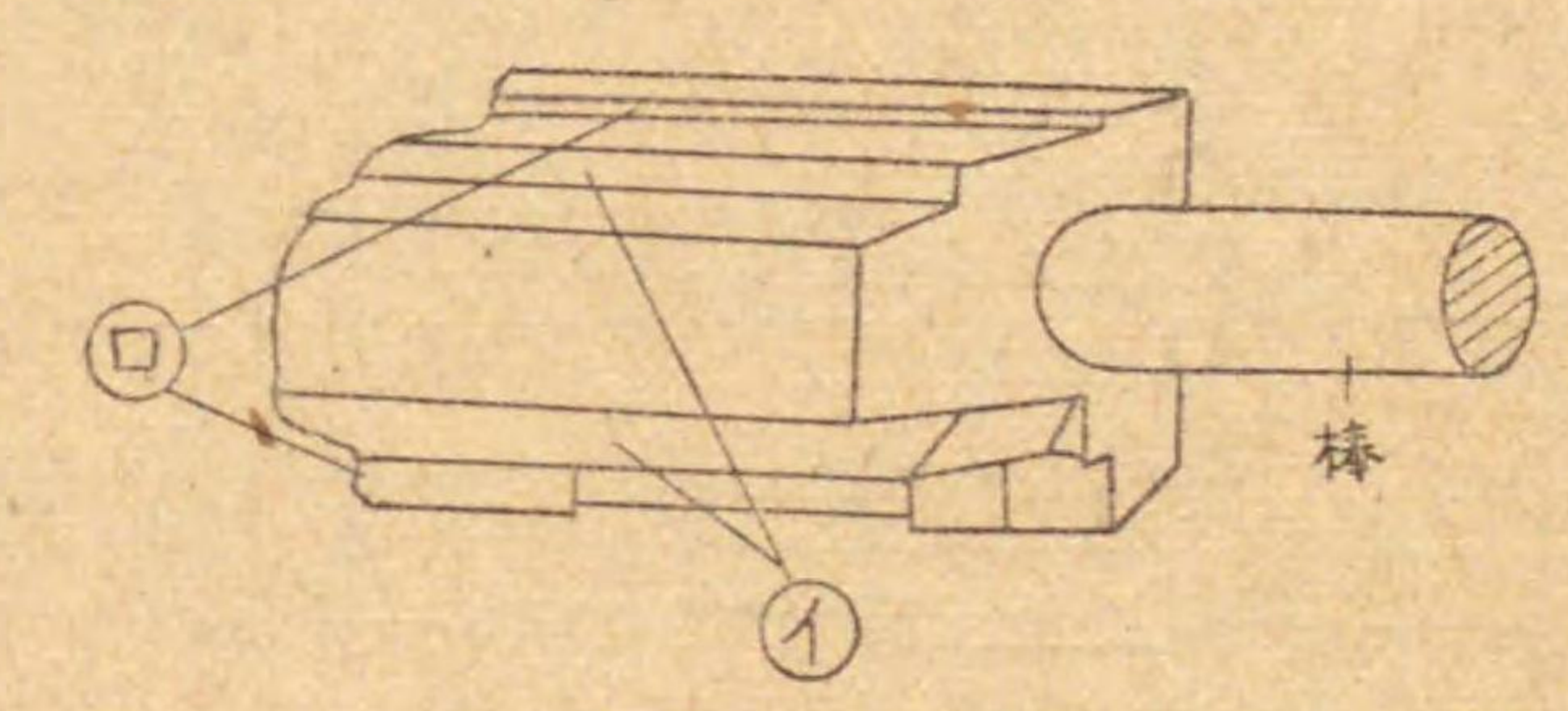


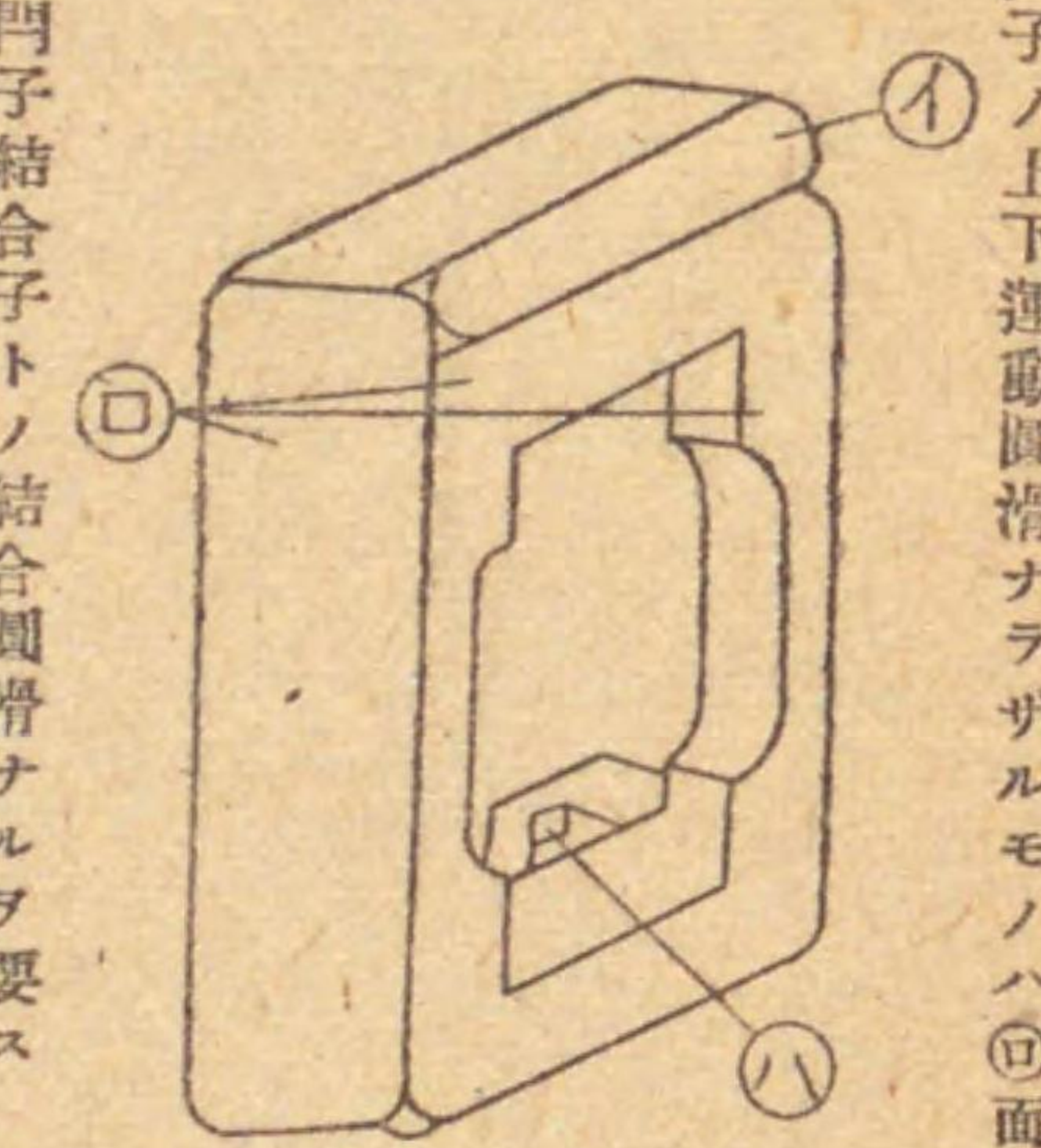
良	不	筒	銃
			活塞後退不足 銃子ノ磨損變形
			擬製彈ヲ使用シ 検査スルトキ銃 ノ直下ニ落ツル モノハ不可ナリ
			前項活塞後退不足ニ依ル 一 作用部④又ハ⑤ノ磨損ニ原因スルモノトス圖示ノ 如ク臺上ニテ槌打修正ス 二 變形(屈曲)セルモノハ槌打修正ス 注意
			銃子ノ藥莢 ニ對スル作 用部位ハ左 ノ場所ニナ ル様スベシ
			作用部

良	不	筒	油
藥莢ノ燒附	抽筒子ト銃身後 端面トノ觸突		油筒爪部缺損又 ハ磨滅 油筒子ばねノ衰 損ニヨル抽筒子 位置垂下セルモ ノ
藥室內ニ藥莢ヲ 殘置スルヲ以テ 目視ス	抽筒子前面ニ 「メニ」ヲ塗リ 検査ス		目視 尾筒ノ内面ニ抽 筒子ニヨル搔傷 アルハ不可ナリ
一 藥室ヲ手入ス 二 藥室ニ痕アルモノハ「リトマー」ニテ除去ス	抽筒子ノ前面ヲ油紙ニヨリ削リ觸突 セザル様「メニ」検査ヲナス		豫備品ト交換ス 概ネ其ノ儘ニテ可ナリ 豫備品ト交換ス
			不良 良 口筒 尾筒下面 此部ニ搔キ痕ヲ生ズ 垂下スレバ不良

裂	龜	塞	活
			「ガス」壓過強 自然衰損
			十然
			
<p>活塞ハ概ネ摺合セラ要セザルモ①②③ノ部ハ「メニール」検査ヲ實施シ當リアラバ削ルベシ</p>			

發		不	
實包ノ不良	復座ばねノ衰損	擊莖ノ過短	擊莖折損
雷管ノ衝痕十分ナリ	手感ニヨル	雷管ノ衝痕十分ナリ	目視
	復座ばねヲ交換ス	 <p>此ノ面ヲ削ル</p>	
		<p>豫備品ト交換殆ド其ノ儘ニテ可ナリ</p>	

圓筒總裂	自然衰損
	自然衰損
	目視
	
<p>一 圓筒ノミ尾筒ニ結合シ ①部ノ「メニ」検査ヲ 實施ス</p> <p>二 抽筒子頭ニ「メニ」ヲ 附シ銃身後端面ト當ルモ ノハ抽筒子ノ頭ヲ削ルベ シ</p>	

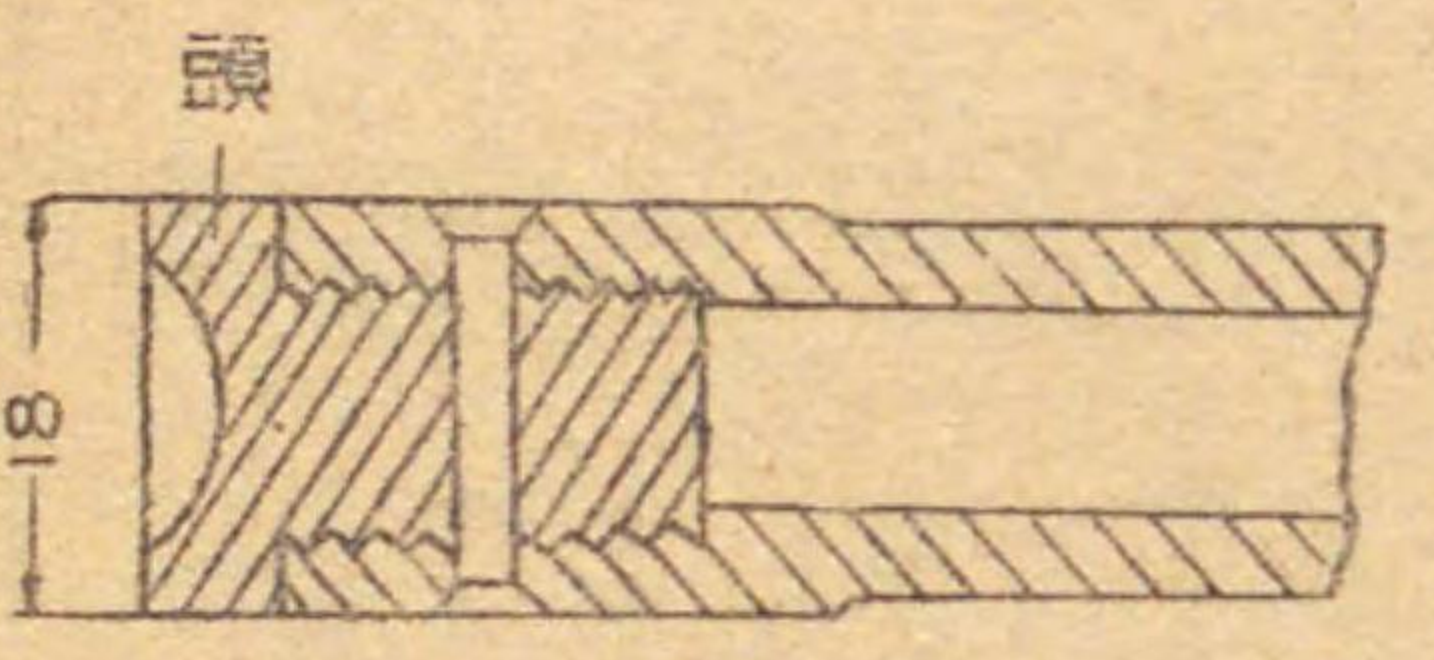
照星夜光管毀損	門子響裂
<p>他物ニ衝突セシ メタルトキ</p>	自然衰損
目視	目視
<p>一 舊夜光管ノ離脱 照星ヲ分解シ温湯中ニ浸シ接著劑ヲ溶シ舊夜光管ヲ 抽出シ十分清拭ス</p> <p>二 新夜光管ノ裝着 新光管ニ接著劑ヲ塗布シ照星ニ結合シ不用ノ接著劑 ヲ除去ス</p> <p>三 接著劑ノ配合 酸化鉛 一 グリセリン 二 重量比</p> <p>注意 夜光管ヲ結合スルニハ研キタル方ヲ上方トシ其ノ 高サハ照星頂ヨリ○・五耗低下スルヲ要ス</p>	<p>一 ①ハ圓筒ト全面ニテ密著スルヲ要ス「メニ」検査 ニテ片當リノモノハ油砥ニテ研磨ス</p> <p>二 門子ノ上下運動圓滑ナラザルモノハ②面ヲ研磨ス</p> <p>三 ③門子結合子トノ結合圓滑ナルヲ要ス</p> 

銃身		銃	
銃身止ノ磨滅	銃身ノ止孔ノ磨滅	止ヲ分解セル孔ヨリ覗キ銃身ノ孔ノ後退セルハ不可ナリ	銃身ノ止孔ノ磨滅
止ヲ分解シテ見ル軸ノ部分ニ段アルハ不可ナリ	止ヲ分解セル孔ヨリ覗キ銃身ノ孔ノ後退セルハ不可ナリ	一 銃身止ニ熔接ニヨリ増肉シタル後熱処理ス増肉シタ後削リ「メニール」検査ヲナシツツ摺合せス	此ノ部ヲ槌打シテ點線ノ如ク増肉ス
二 止ヲ交換ス			注意 此ノ部ヲ槌打スベカラス

第三節 九二式重機關銃

第四百十八 九二式重機關銃ノ検査法及修理法左ノ如シ

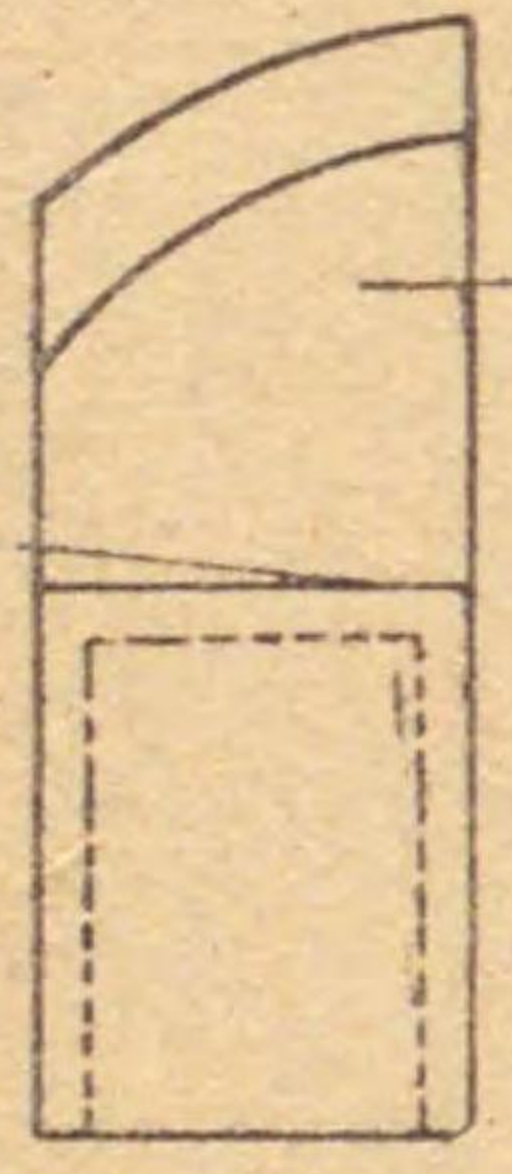
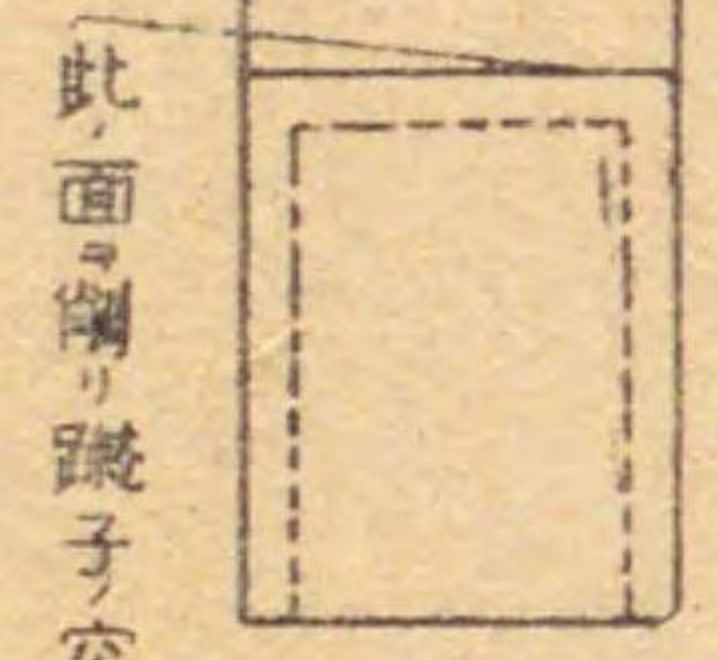
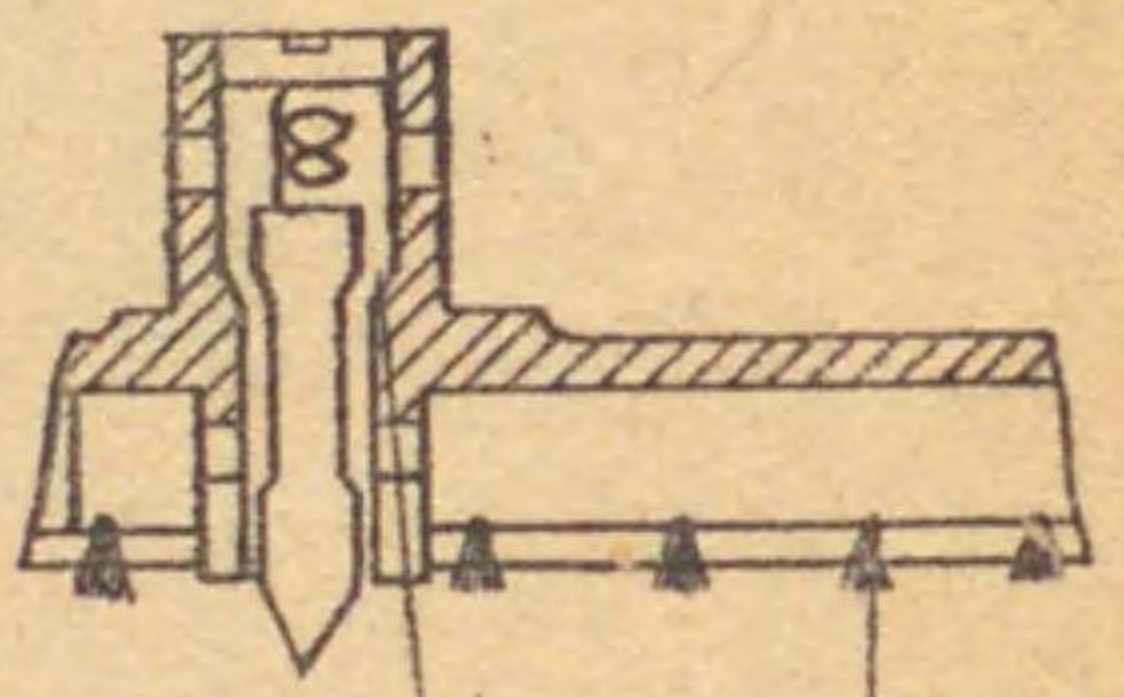
活塞後退不足		故障區分	
活塞頭ノ磨損	活塞及遊底ノ耗	原	因
射撃中ニ於ケル「ガス」ノ流入大ナルカ又頭ノ外徑一七・六耗以下ナルモノハ修理ヲ要ス	活塞ヲ前進後退セシメ摩擦音ニヨルカ分解後摩擦痕ヲ目視ス	檢	査
活塞頭ヲ交換ス	當リアル部分ヲ「メニール」検査ヲ實施シツツ細目ヤスリ又ハ油砥ニヨリ修正ス 活塞ノ屈曲ニ原因スルモノハ槌打修正ス	修	理
一 舊活塞頭ノ分解 1 銃ノ一端ヨリ二・五耗「ピン」拔ヲ以テ槌打分解ス 若シ分解困難ナル時ハ二・五耗ノ錐ニテ銃ノ中央ニ穿孔シタル後「ピン」拔ヲ以テ分解ス 2 活塞頭ヲ万力ニ取附ケ活塞隆鼻部ヲ持ち旋回シ分解ス 二 新活塞頭ヲ十分ニねじ込ミタル後活塞ノ銃孔ヨリ三耗ノ孔ヲ穿テ鋳著ス	活塞頭ヲ前方ヨリ槌打シテ頭部ノ外徑ヲ大ナラシメ摺合せヲナス	法	

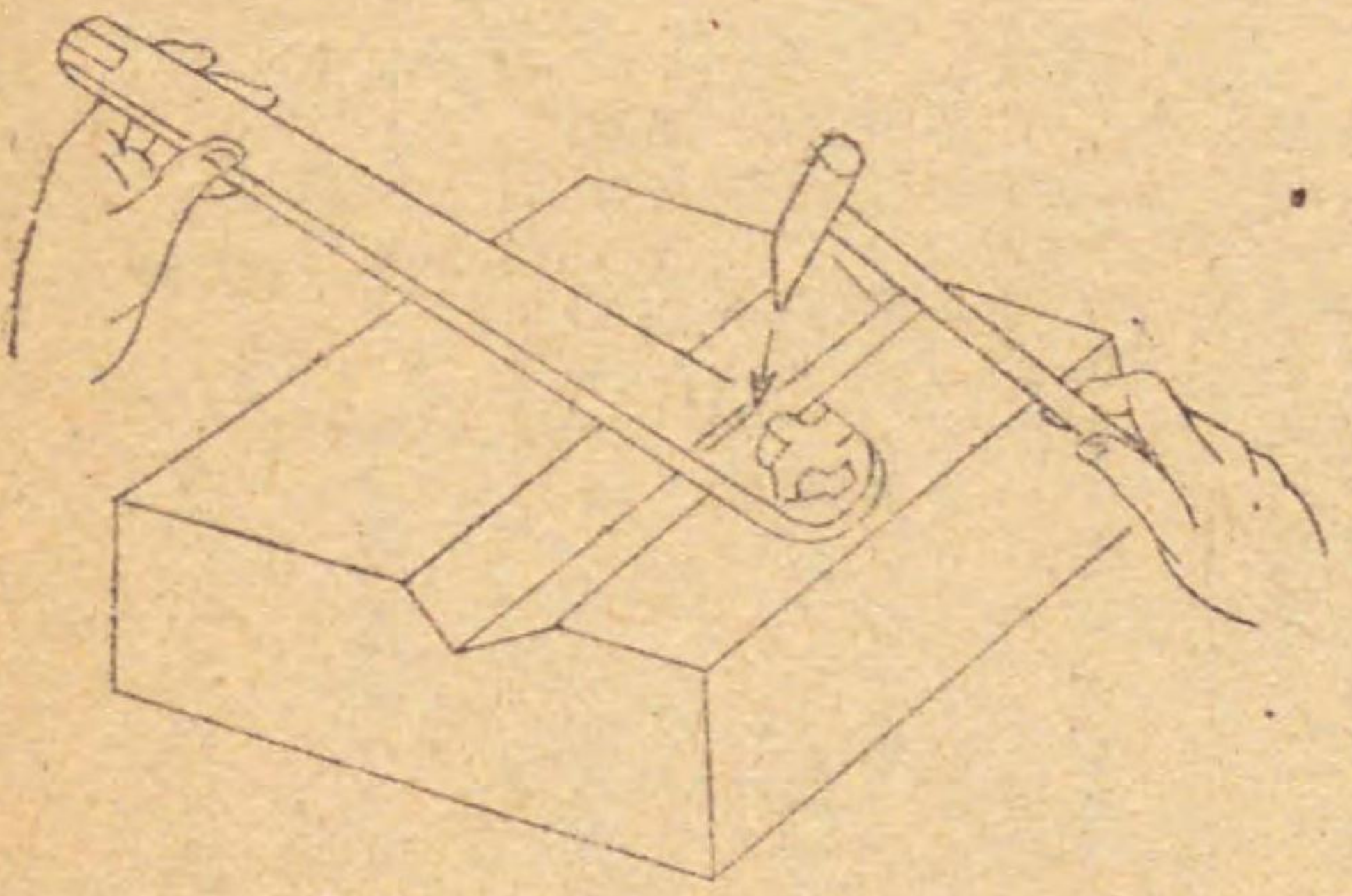


活塞後退不足
「ガス」壓調整不良
規整子及「ガス」誘導螺ヲ檢ス
前項活塞後退不足ニ依ル

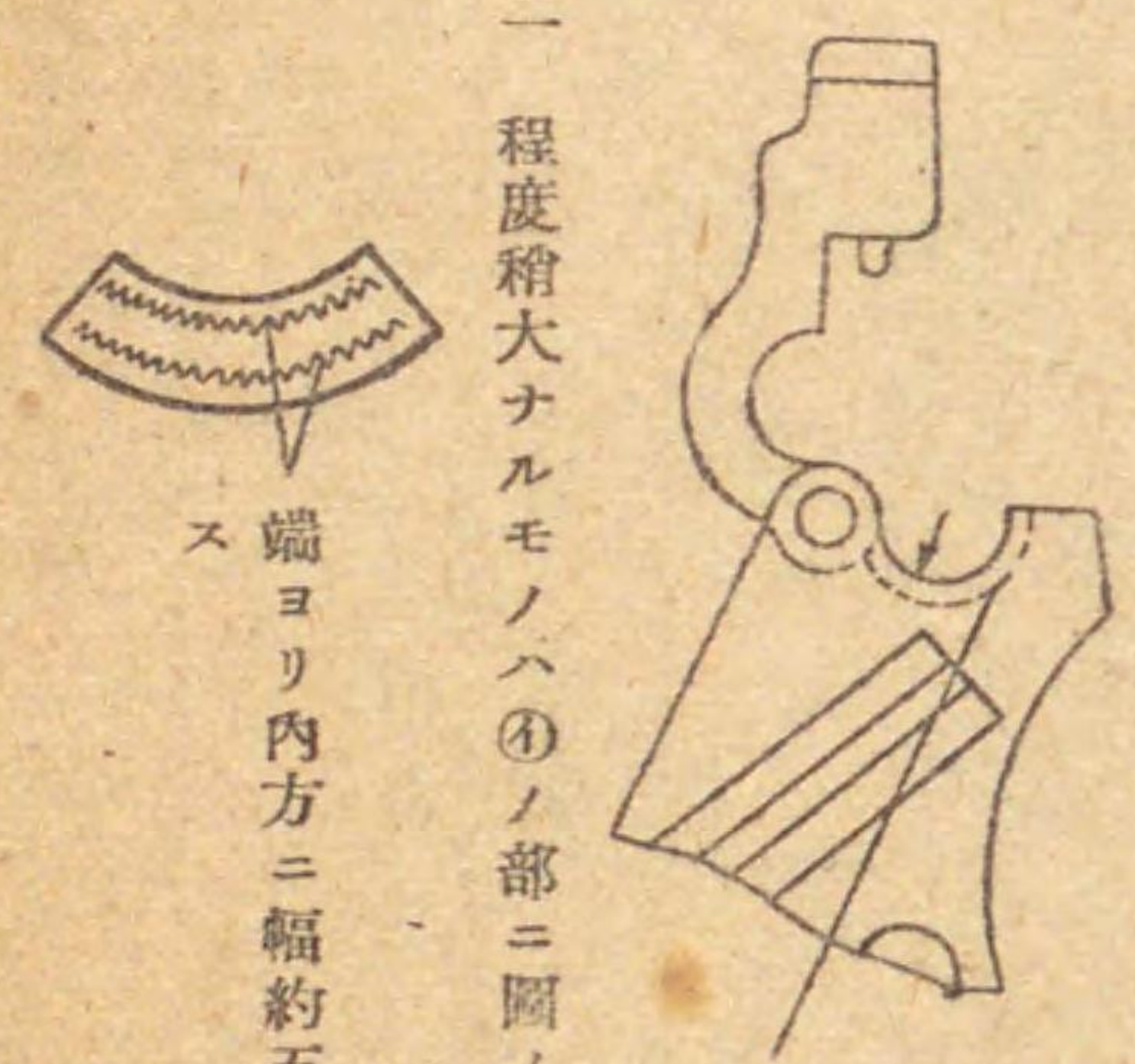
送	彈	不	良
活塞平盤部斜溝反起	目視	保彈板ヲ裝シがいしヲ引カズシテ保彈板ヲ左ニ引クトキ三四耗以上引キ拔キ得ルモノハ修理ヲ要ス	送彈子爪部ノ磨減
此ノ部ノ反起ハヤサリヲ以テ削リ除去ス	此ノ面ヲ左右共平等ニ削ル	一 一 二耗程度ノ銅板ヲはん だ附シがいしヲ引カズシテ 保彈板ヲ左ニ拔キ得ル量ヲ 二耗以下トス	ばね交換ス
			應急修理 部品ナキトキハ折損セル モノヲ熱烙シ槌打延伸シ テ摺合ハス

發	不	良不彈送
擊莖過短	擊莖折損	送彈子ばね又ハがいしばねノ衰(折)損
雷管ニ衝痕ノ十分ナルモノ	雷管ニ衝痕ナキトキ分解シテ目視ス	送彈子及がいしヲ押シ活潑ニ復ス位ニ狀況ヲ檢
一 前項ニ依リ部品交換ス 二 活塞ノ隆鼻部ノ前方斜面ヲ削ル	一 圓筒トノ軌リ 二 圓筒ヲ倒ニスルトキ擊莖ハ自重ニヨリ下リ落ツルヲ可トス 三 圓筒トノ結合 四 圓筒ノ後退スル狀況ヲ檢ス 五 圓筒ノ後退スル「メニ」檢査ヲナシ當リヲトル 六 突出量過大ナルモノハ活塞ノ擊莖打面ヲ削ル 七 圓筒ノ擊莖孔附近ニ反起アルモノハえぐリヲ以テ除去スベシ	ばね交換ス 擊莖ヲ交換ス 擊莖ハ概ネ其ノ儘交換シ得ルモ左ノ點檢ヲ實施スルヲ要ス 一 圓筒トノ軌リ 二 圓筒ヲ倒ニスルトキ擊莖ハ自重ニヨリ下リ落ツルヲ可トス 三 圓筒トノ結合 四 圓筒ノ後退スル狀況ヲ檢ス 五 圓筒ノ後退スル「メニ」檢査ヲナシ當リヲトル 六 突出量過大ナルモノハ活塞ノ擊莖打面ヲ削ル 七 圓筒ノ擊莖孔附近ニ反起アルモノハえぐリヲ以テ除去スベシ
		應急修理 部品ナキトキハ折損セル モノヲ熱烙シ槌打延伸シ テ摺合ハス

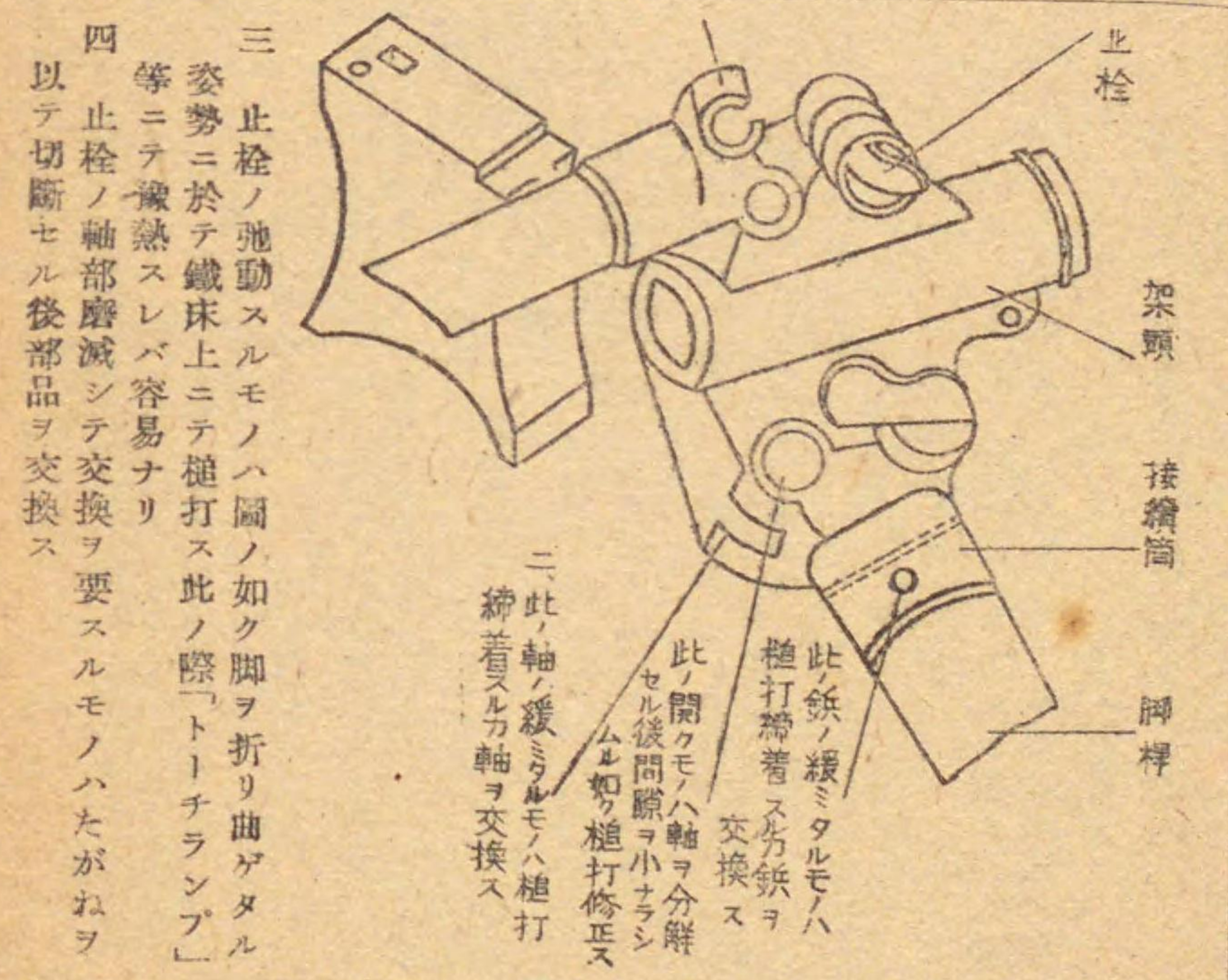
良		不		筒		駄	
活塞後退不足	蹶子ばねノ衰 (折)損	蹶子ノ磨損		抽入ノ機能不良 ニヨル燒附		目視	
	結合状態ノ蹶子 ヲ壓シばね力ヲ 檢ス	擬製彈ヲ使用シ 檢査スルトキ直 下ニ落トスルモ ノハ不可ナリ					
活塞後退不足ノ項ニ依ル	部品ヲ交換ス	 <p>此面ヲ槌打延伸シ修正ス</p>  <p>此面ヲ削リ蹶子突出量ヲ増ス</p>	 <p>はげニ塵埃ノツマヲシモノ ハ拭淨除去ス</p> <p>此ノ部ノ摺合セ不良ノモノ ハ「メニ」ニヨリ檢ス</p>				

筒		抽		發		不	
	抽筒子ばねノ衰 (折)損	抽筒子ノ缺損又 ハ磨滅		實包ノ不良	圓筒内ニ異物ノ 存在又ハ塗油ノ 凝結	御座ばね衰損	
	工具ヲ使用セズ ニ抽筒子ばねヲ 分解シ得ルモノ ハ不可ナリ	目視		雷管ノ衝痕十分	分解シテ圓筒ヲ 目視ス	手感ニヨル	
	 <p>部品交換ス 「メニ」檢査ニヨリ銃身ハ後端ニ觸突セザルヤヲ檢 ス當ルモノハ抽筒子ノ前面ヲ油砥ニヨリ研磨修正ス</p> <p>一 抽筒子ばね交 換 抽筒子ばねノ長 サハ結合セル抽 筒子ヨリモ○ 五耗短キモノヲ 可トスルヲ以テ ばねノ頭部ヲ削 ルベシ</p> <p>二 ばね力弱キモ ノノ修理臺上ニ テ裏面ヲ槌打ス</p>				内部ヲ手入ス		

達		突		(能 不) 良 不 發 單			
送彈不良	蹴筒不良	抽筒不良	活塞後退不足	逆鉤止ばねノ衰(折)損	逆鉤止ばねノ衰(折)損	活塞ノ逆鉤止鉤止部ノ磨滅又ハ欠損	逆鉤止頭ノ磨滅又ハ欠損
				押鐵ヲ押シ急ニ手ヲ離ストキ活發ニ復位スルヲ要ス	逆鉤駐子ヲ壓下シ急ニ手ヲ離ストキ活發ニ復位スルヲ要ス	目視	目視
送彈不良ノ項ニ依ル	蹴筒不良ノ項ニ依ル	抽筒不良ノ項ニ依ル	活塞後退不足ノ項ニ依ル	押鐵托桿ばねヲ交換ス	逆鉤止ばねヲ交換ス	一 小程度ノモノハ油砥ニヨリ研磨修正ス 二 大程度ノモノハ部品交換ス	一 小程度ノモノハ油砥ニヨリ研磨修正ス 二 大程度ノモノハ部品交換ス

揺 動 ノ 銃	大 過 法 寸 室 緣 起
銃耳蓋ノ磨滅	一 門子受ノ磨滅 二 門子ノ磨滅 三 圓筒包底面ノ磨滅
三脚架ニ結合セ ル銃ヲ動カシテ 見ル	起緣模範ニヨリ 検査ス 一・四五耗模範 ニテ抵抗ヲ感ゼ ザルモノハ修理 ヲ要ス
 <p>此ノ部ヲかじめ たがねヲ以テ槌 打修正ス</p> <p>二 程度稍大ナルモノハ④ノ部ニ圖ノ如ク熔接ス</p> <p>端ヨリ内方ニ幅約五耗ニ二列ニ熔接ス</p>	<p>門子受ヲ交換ス</p> <p>一 舊門子受ノ離脱 1 小ねじ及門子受被ヲ分解セル後尾筒上面ノ孔 ヨリ「ピン」抜ヲ使用シテ一方ノ門子受ヲ分解ス</p> <p>二 門子受ノ摺合セ 新部品ヲ結合シ「メニ」検査ヲ行フ 門子受ノ反動面ニ門子受ノ衝痕ガ平等ニ明瞭ニツ ク様油砥ニヨリ摺合セス</p> <p>三 起緣室寸法検査 ズルヲ要ス</p> <p>四 門子受被ヲ結合セル後小ねじニ目打ヲ施ス</p> <p>一 輕度ノモノハたがねヲ以テ槌打増肉ス</p>

銃		銃		銃	
齒弧止栓ノ磨滅	照準齒弧ノ磨滅	うず巻齒ノ磨滅	一 三脚架ノ脚管ト接続筒又ハ踵鐵トノ動搖	二 接続筒ト架頭トノ動搖	同右
同右	同右	同右	同右	同右	同右
照準齒弧止栓ヲ交換ス	照準齒弧ヲ交換ス	うず巻齒ヲ交換ス			



銃器ノ修理 機關銃	銃	銃	銃	銃
裂龜筒圓	裂龜子	裂龜塞活	損毀管光夜星照	搖動ノ銃
一 自然衰損 二 「ガス」壓過 強	一 自然衰損 二 「ガス」壓過 強	一 自然衰損 二 「ガス」壓過 強	他物ニ衝突セシ メタルトキ	方向緊定不良
日視	日視	日視	日視	分解シテ見ル
十一年式輕機關銃筒筒交換ニ準ズ	十一年式輕機關銃筒筒交換ニ準ズ	十一年式輕機關銃活塞交換ニ準ズ	九六式輕機關銃夜光管交換ニ準ズ	方向緊定桿部前部ニ熔接シ把ガ水平ヨリ約三〇度位上 方ニテ緊定シ得ル得ク摺合せス
				應急修理 方向緊定補助板ヲ装入ス

故障區分	原因	検査法	修理	法
筒	柄桿ねじ部ノ磨滅	駐鉤ヲ外シテ結合スルトキ約四五度位回リモノハ不可ナリ	此ノ部ヲ槌打シテ肉ヲ上方ニ延伸ス	
板	柄桿ねじ部ノ磨滅	小ねじヲ分解シテ結合スルトキ約四五度位回リ過グルモノハ不可ナリ	此ノ面ガ平等ニ密著スル様「メニ」検査ヲナス	
駐			柄桿下側ニ厚ミ〇・三—〇・五耗程度ノ座板ヲ挿入ス座板ノ周圍ヲ槌打シ薄クナシオクヲ可トス	

第四百四十九 八九式重擲彈筒ノ検査法及修理法左ノ如シ

第五章 八九式重擲彈筒

故障區分	原因	検査法	修理	法
裝	一 送彈子ノ鉤部④ノ磨滅 二 ⑤ノ部磨滅	閉鎖位置ニ於テ動搖スルモノト開放時ニ前後動搖ヲナスモノ	一 閉鎖時動搖ノモノハ④部ニ熔接増肉ス 二 開放時動搖ノモノハ⑤ノ方向ヨリ槌打ス	
輪				
座				
動				
搖				

兵器生産基本教程 第六卷(銃器)終

考 備	品											
	入					收						
一 本表ハ兵器細目名稱表ニテ示サレタルモノトス 二 三十二年軍刀さや眞金及見習士官刀さや眞金ハ本工具保管數中ノ一組ニ限リ附屬スルモノトス	八耗轉柄ねじ回	十一耗轉柄ねじ回	小刀	目振	油壺	金剛砂入	小目立やすり	二分平のみ	四分平のみ	四分外丸のみ	小 玄翁	「クリツクボール」
	一	一	一 刃被一	一	二 浸油材ヲ收入ス	一	二	一	一	一	一	一
	小取附「ボール」盤	小 人 造 砥 石	品 入 收	見習士官刀さや中部眞金	見習士官刀さや下部眞金	見習士官刀さや上部眞金	見習士官刀さや眞金囊	三十二年式軍刀眞金	二尺五寸ふいご	五十 珪 金 敷	小 万 力	二
	一	一 小石砥 はんどる	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
							袋一					一、めねじ(横桿坐金對) 一、取附坐(坐金) 一、(ナット)共一、軸ね 一、(ナット)共一、軸ね

附表第二

附表第三

考 備	品 入											
	品 入 收											
	銃工六號挾母	十一式輕機關銃	分壓器	三八式小銃照星	著脫器	小「ノギス」	百八十耗自在「スパナ」	小鐵切鉄	梓附金切鋸	二百耗金切鋸	銃工七號挾布	銃工六號挾母
一 本表ハ兵器細目名稱表ニ示サレタルモノトス	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二 總重量概ネ三十七疋(工具箱十四疋收容品二十三疋)基準トス												
三 工具箱内餘積ニ手入木綿及雜布等ヲ適宜收容スルモノトス												
	填											
	品 入											
	品 入											
	錐柄	大菱錐	小菱錐	小圓錐	指貫	三號針	糸	晒密蠟	褐色多脂牛革	錐柄		
	二	五本	五本	五本	一	五〇本	二	五〇瓦	一	二		
									長概一ネ幅三十二〇〇耗			

九九式携行銃工具品目員數表

區分及名稱	數量	摘要	第一携帶囊		銃工一號挾布		ほたる電燈		電球容器		品收入		銃工二號挾布		裝收		裝入		填收		填入	
			銃(鍵二共)一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九九式携行銃	一	銃(鍵二共)一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
携帶囊	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
銃工一號挾布	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
ほたる電燈	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
電球容器	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
品收入	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
銃工二號挾布	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
裝收	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
裝入	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
填收	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
填入	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

區分及名稱 數量 摘要

銃工一號挾布 銃(鍵二共)一

ほたる電燈 一

電球容器 一

品收入 六

銃工二號挾布 一

裝收 一

裝入 一

填收 一

填入 一

五本ヤサリ 一組

小仕上植 一

品收入 六

電球容器 一

ほたる電燈 一

銃工一號挾布 一

第一携帶囊 一

銃工二號挾布 一

裝收 一

裝入 一

填收 一

填入 一

目打 一

ねじ同二號五短 一

ねじ同二號五短 一

ねじ同二號五短 一

附表第四

考備	品 填 裝						携 帶 銃 工 具 差	區 分 及 名 稱	數 量	摘	要
	軟 化 銅 線	④ 細 目 布 や す り	④ 中 目 布 や す り	梯 形 油 砥	兩 頭 や す り	替 刃 附 ね じ 回 甲					
一 本表ハ兵器細目名稱表ニ示サレタルモノトス	二〇瓦	二枚	二枚	一	一	一	一	九九式携帶銃工具名稱及數量表			
	經〇・八耗				替刃五耗、三耗、一・五耗各一						

昭和十八年七月二十三日印刷
昭和十八年七月二十六日發行
(三〇〇〇部)

兵器生産基本教程 第六卷 (銃器)

定價 貳拾圓
特別行爲稅 貳圓
送料 貳圓拾錢

編著者 陸軍兵器學校

監修者 陸軍兵器行政本部

發行者 高柳正雄

東京市麴町區飯田町一丁目一

印刷者 加川要助

東京市京橋區入船町一丁目九

配給元 日本出版配給株式會社

東京市神田區淡路町二丁目九



日本出版會社發行
號九七〇〇八い

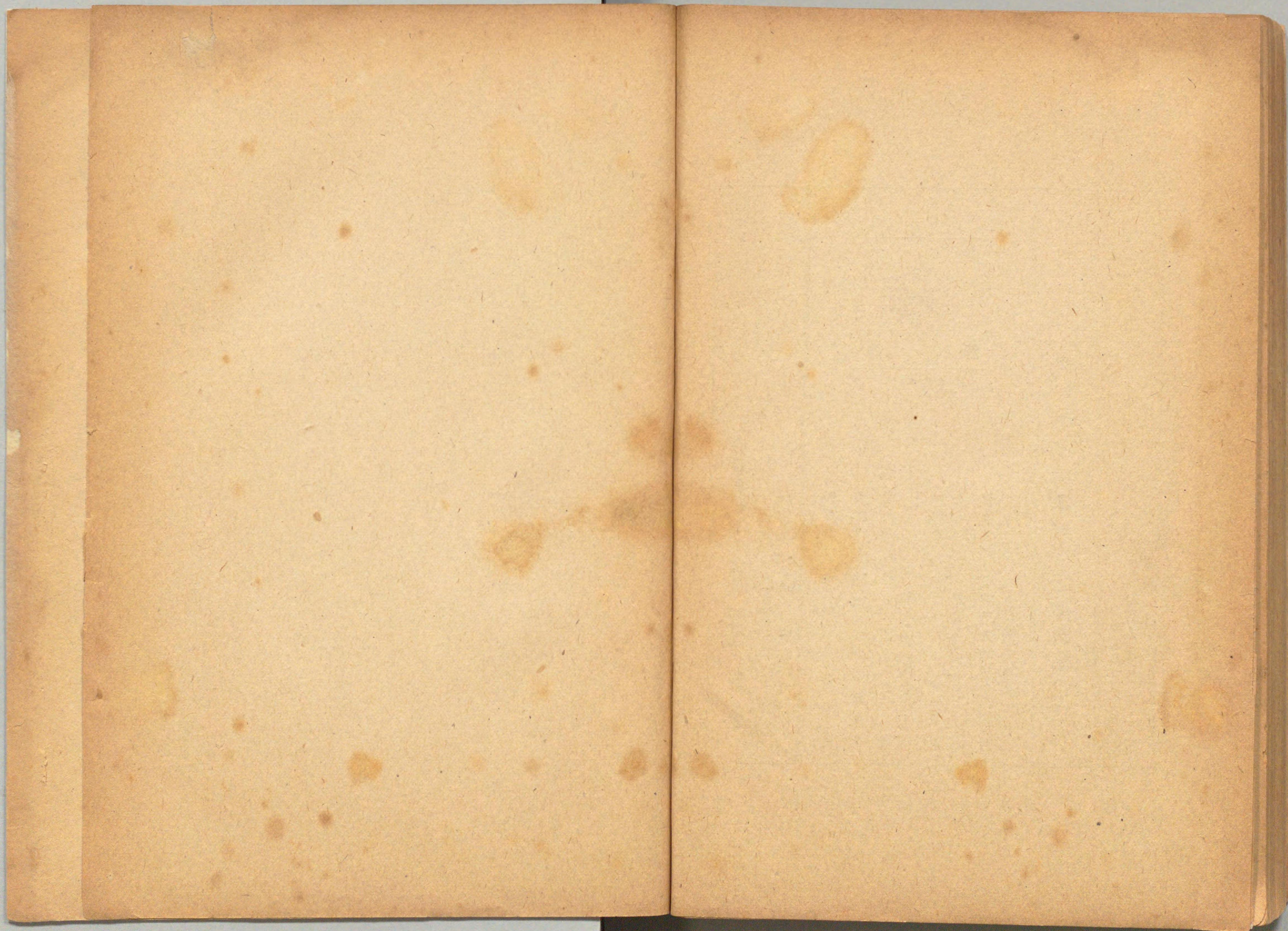
發行所 兵器航空工業新聞出版部

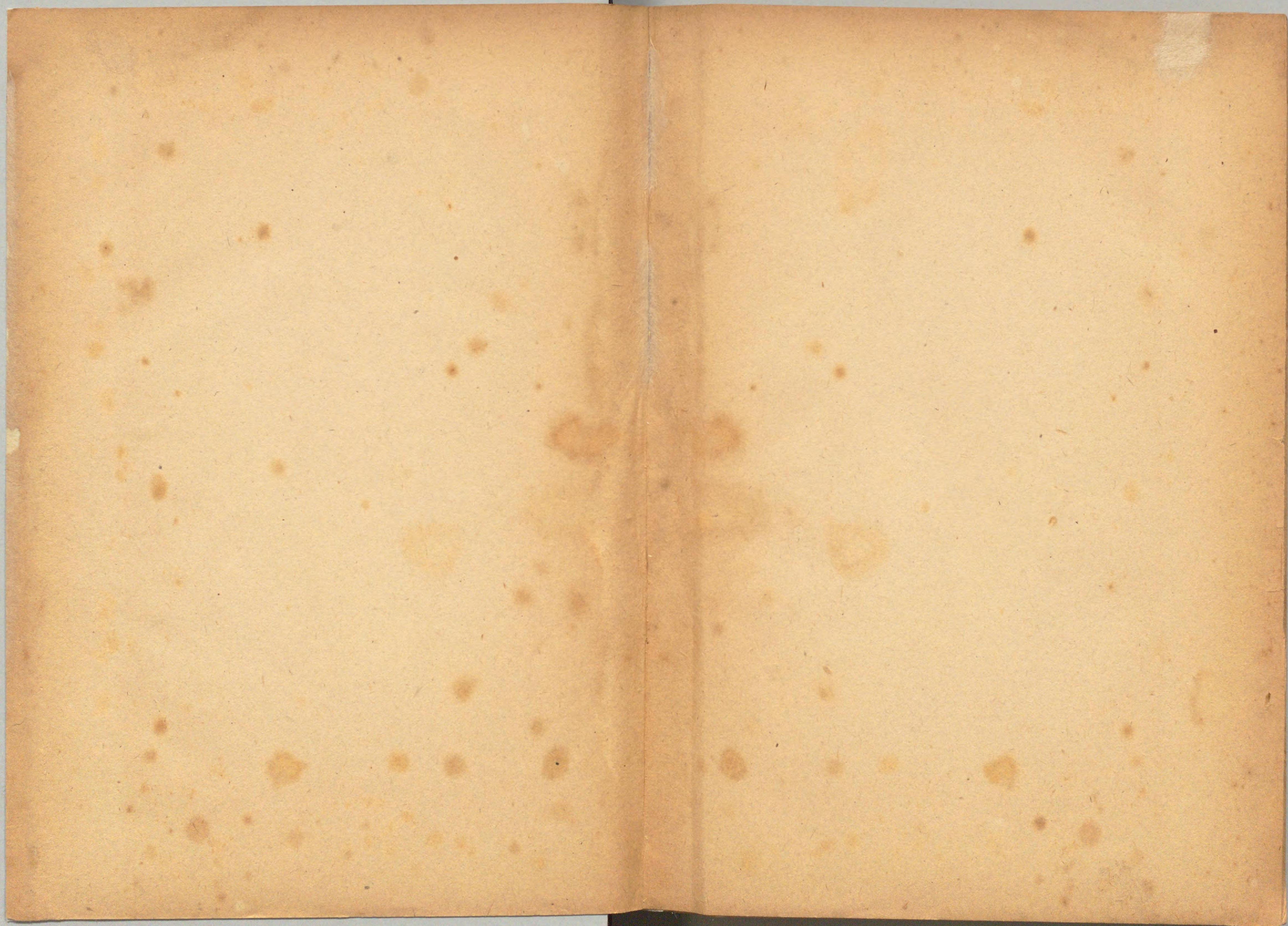
東京市麴町區飯田町一丁目一

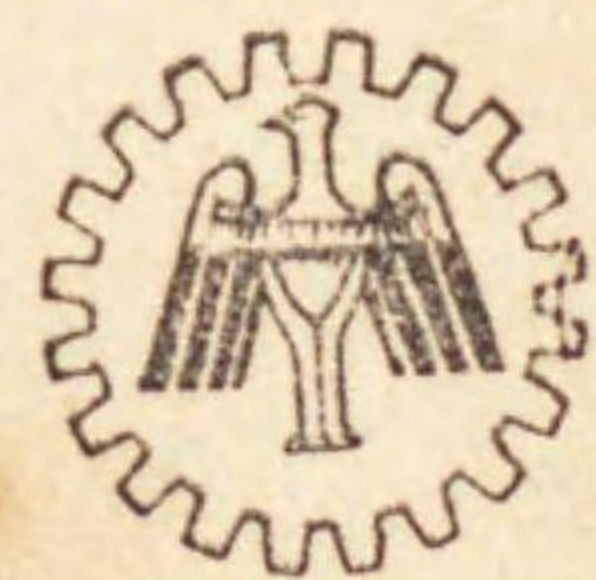
電話代表九段(3)五〇八〇番

振替東京九八三七四番

日本出版會會員番號一二九〇一二號







兵器航空工業新聞出版部刊